

669-45



1200501574763



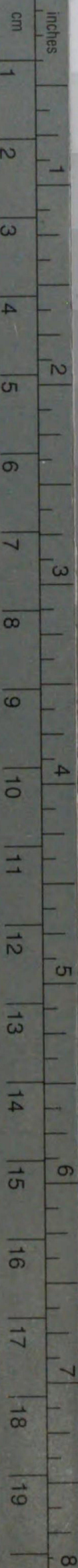
山影

# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak











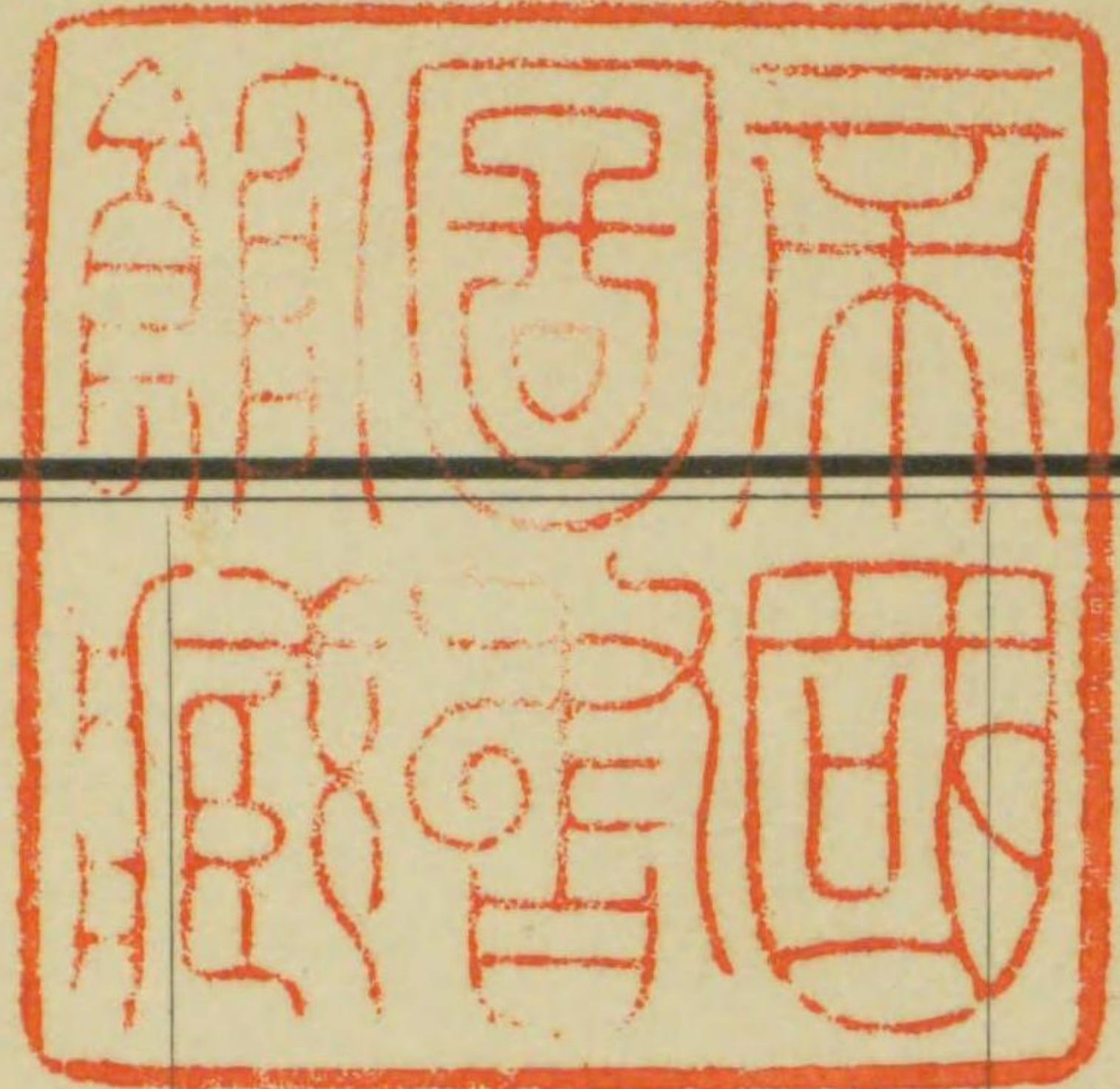
野村益三著

山影

東京 成美堂書店







野村益三著

山影

東京 成美堂書店





669-45

序

著者近くあまねく内地沿岸をめぐり、その見聞を録して：水光：と題す。

こゝに又曾て公けにせし南洋・臺灣・朝鮮の記行を輯めて：山影：を成す。

これによりてほゞ外地の大勢と統治の大様とを明かにするをえば、幸慶はひとり我等の上のみにとゞまらざるべし。

昭和九年夏

著者識 **為**



椰子の葉風

目次

船の上	南洋群島	常夏の里	腰蓑の人	ボナペの薬草	ヤルートの椰子	サイパンの甘蔗	アングウルの燐鑛	アイライ殖民村	パラオ丸の進水
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一	九	一五	二一	三〇	三二	三五	三九	四二	四五







椰子の葉風

米の群山	………	一六八
京の城	………	一七六
その附近	………	一九〇
咸鏡南・北道	………	一九六
元良哈に入る	………	二〇六
溶溶たる水	………	二一七
流す筏	………	二二六
大邱より釜山	………	二四一



## 椰子の葉風

……船の上……

その日く……コトくと甲板を洗ふ音をきゝて又ひとねむり、やがて目さむるは六時の頃。スウキッチをひねり、電燈を点じ、煽風器をまわす。

朝の化粧一通りすませ、さてレモン入のアイスウォーターを傾く。

昨夜もずいぶん寝苦しかりき。窓を開放しても尙二十八度、煽風器を緩くまわし、漸くしのゝめを迎へ得たり。但、蚊のおらぬことを幸なれ、この上・蚊のみ・床虫・などに襲われては全くやりきれたものにはあらず。

神氣を新たにするは朝風呂にしくはなし。船の潮湯に手足を伸ばすこと、もとより快心の極みながら、こゝ悠長の業はかえつて憚りあり。湯につかること二分、つまぐりて湯船の栓をぬく。チュウ／＼の音を合圖に、眞水の湯を洗面だらひにくみとり、頭より顔、顔より首と、洗ふべき所を洗ひ去り、手早く湯をかゝりて部屋へもどる。煽風器に着をあぶがすこと數分、シャツをき、カラーをつけ、ネクタイを結ぶ。

ポートデッキには半ば旭光てりわたる。床面は美しく磨かれ、籐椅子は主の來るをまち顔也。

まず北を望みて、水天髣髴の彼方に帝都を拜し、瞑目數分、徐ろに歩をかえして食前の散歩を行ふ。

この船、登簿噸數三千四百。船員七十餘名・乗客二百・貨物二千五百噸をつみうべく、甲板を一周すれば正に百十歩を數ふべし。漫歩十分、肌はよろ／＼汗ばみ來る。



八時半、快き朝食を攝る。尤多くの諸君はこの前、甲板上、旭光に浴しつゝトーストを味ふ。

朝食の卓上、心またるゝものは無線通信なり。このもの時事新報社より船の無線室に入り、通信士の手をへ、二十餘行のこんにやく版となりて卓上にあらわる。サイパン以南、ラヂオの威力頼み少き折々は、ことさらこれに負ふところ多し。

食卓は船長を首席とし乗客と共に船員の半ばは居並ぶ。機関長・事務長は此方に、一等運轉士・船醫は彼方に、乗客の諸君はこれ等とゝもに、或は洋服、或は羽織袴、或は着流しの浴衣がけ。但、婦人の、すべて遠慮勝に、多くケビンにたてこもらるゝを遺憾とす。

ご馳走は晝のみ洋食。朝夕二食の調理、又多くは口に適す。

食堂内の一隅に圖書棚あり。數十冊の外、月刊雜誌三・四種を備へ、又南洋に關する若干部を藏す。總じて船中消閑の讀書は輕快・清新のものを可とす。繪畫を主とする雜誌の如きは、その最も歡ばれるゝところ。

午前は讀書・調査・記録等にすごし、午後早々J.O.A.Kの放送をきく。但、この邊、空電の發生しるく且、光線の影響あり。サイパン以南、時にその恩恵に浴し得ざることあり。

三時の・おやつ・はブッディング・カステイラの類より、時にお汁粉・栗饅頭の類に及ぶ。いずれも乗込司厨の手になるもの。つれづれなる船中にては、これ又樂みの一つとなす。

甲板上の遊戯には投輪、式の如く又毎朝右舷側にデッキゴルフのライン鮮かにひかるゝも、動けば汗かくといふわけにて、この種の遊戯は餘り歡迎されず。とかく籐椅子の上、黒甜郷に遊ぶか、はた又サロン内、烏鷺の争にふける者多し。數十枚のレコードも一たび二たびきかれては、餘り手にふれられず。せめて、四條五條の橋の上、を

と思へども、ケビン内、數卷の謠本を供ふる特志家なきを如何にせむ。

四時より：バス：の繁昌となる。入浴前、十餘分の甲板散策は最も可。但、午後の入浴は湯をかゝる程度をよろしとす。浴後にアイスウォーターを迎へ、汗ばみたる上衣をぬぎ・ゆかた・がけとなる。この折、襦袢と足袋とを併せ用ふれば、さらに最も妙なるべし。

テン／＼ボン／＼と鳴る食事合圖も妙なるものゝ一つ也。時ならぬに怖ろしき響をたて、夜半の夢をさますアッサマキも又その一つ也。

さて又日曜毎に行わるゝ防火操練。往・復航に催さるゝ山城丸一座の茶番・狂言も、又正しくこの範疇を逸せざるもの。

而して又横濱より東。南サイパンに至るに従ひ時計一時間を進め、サイパンより、西南ヤップに至りて一時間を遅らし、アンガウルより、西南メナードに至る迄にさらに又四十分を遅らすといふが如きも、又妙なるものゝたぐひなりとす。

音響のもと……碧空碧海、水や空なる船路を辿ること半月・二千八百浬。晝に夜に絶えず耳にするものは、ザア／＼の波の音。ゴトント／＼の機械の響。クークツ／＼といふ戸のきしみ。但、これ等はまもなく慣れて習わしとなり、一句の後には、これなくては物足らぬように感ぜらる。

されど一朝、風たち波さわげば、ザア／＼は變じて：ザア：ザア：ジャブツ：となり、マストの尖頭、空間をきつて、哀音を放つことしきり也。かゝる時、例えば横濱をいでて、風速西南十六メートル・動搖約十五度。メナードに近く南方十五メートル・十度の折の如き、乗客をなやますこと一方ならず。筆者幸にして船に弱からず、



大抵の場合風浪を興するの餘裕あれど、正横面の烈風より生ずるローリングに對しては往々にして頭のもてゆき所に苦しむことあり。

機關の響も、遠ければ：ゴトント：ときこゆるも、やゝ近く藤椅子の上よりすれば：幼稚園・お嬢さん：さらに近づけば：五時半・六時半：ときこゆ。但、この船のこの機關に限ると知るべし。

機關室の上邊にパチ／＼の音をきくこと夜間においてことに明らか。或はカンバスの風にあふらるゝものかと思われ、或は無線のスパークにあらざるかと疑わる。遂に船長・機關長を拉し來つて、船體一部のきしむに外ならざるを確かめたり。

晝二・三回、夜三・四回、まず首しめられたる鷺鳥の如き怪音を發し、引つゞきて船體を震撼する響を轟發す。これを船員諸君に叩けば：この船は舊式ですから／＼：と恐縮さる。かほどに船客を苦しめ、併せて船員を恐縮させる響の本源は、焚落しの灰を汽罐の側より拾ひあげ、天井をへて舷側より海中に委棄する、アッスマキなるものと云ふ。

カーン／＼と鳴る時鐘も單調なる海上生活を彩る一材料となすべきか。十二時に八個、〇時半に一個、一時に二個：正しくは一個半：一時半に三個、二時に四個、かくして三時半に七個をうちて四時より又八個をうちつゞく。音を樂しむはケビンにおいてするにしくはなし。但、ローリングにピッチングに、頭のもてゆき所なく、いやおうなしにきかせらるゝは、勿論ありがたきものにはあらず。

筆者のケビンは食堂の傍らにあり。食前食後、相當に物さわがしけれど、船にては最上の所也。高さ二メートル二〇・廣さ四疊半・扉は内に開きてカーテンを挂ぐ。入りて絨氈をふめば右に洗面器を据え、左に腰掛をおく。

正面は即、寢臺にして上下二段に取つく。幅七〇センチ・長さ二メートルにみたざること僅かに十五センチ。上下段の間隔は七〇センチソコ／＼なるべし。

部屋には電燈あり、扇風器あり、又別に・ろうそくランプ・をかゝぐ。天井と側面とは純白にぬり、カーテンは褐色、絨氈は青色、すべて清楚の感あり。寢臺には紅筋いりたる毛布の、或は花瓣の如く或は富士山の形して折疊まれたるがあり。

その他：第一號艇：の札うちたる下に・喜瀬式救命胴衣・の備附あるも船らしく思わる。このものカボックをつめたる浮袋にして、例の防火操練と併せ行わるゝ救難操練の折々は、船員これを帯びてことに従ふ。

上の寢臺へあがる梯子は、汽車中のソレと似ていさゝか滑稽なるも、寢臺の縁にとりつけられたる二つの唾壺は、さすがに快きものにはあらず。

かく廣からぬケビンの内は、たとえ二窓を開放つても、晝夜ともに二十六・七度を下るべからず。その上、幅せまき腰掛には、多少の不安なきにあらねば、やむを得ざる場合の外、我等は船尾樓を望むサロンの内か、然らざればデッキの上、海と空とを友として藤椅子に横わる。

船内巡禮……我山城丸は米穀・重油・雜貨の類約二千噸をつみ、小動きに動きてたえず針路を西南へとる。荒天の後、東京灣をいでむとして野島岬の邊りの如き、北緯二度、メナードをさる百漣、赤道反流に乗入れてその影響を蒙りし時の如き、さすがに六・七漣を走るにすぎざりしも、多くは東北の微風に面を拂わせつゝ、十漣の速力を以て不斷の努力をつゞくるなり。

上船後五日、火山列島をすぎ水深二千米、濃藍色を呈せるマリアナ：ラドロネン：群島の海域にいる頃おひ、



誘われて船内巡禮をなす。

ポルトデッキの先端、船長室の傍らより階をよすれば即、船橋。

中央に舵手立ち、コンパスを前にしてたえず舵柄を執る。左に海圖あり、右に傳令機あり。コンパス臺は時にゆるく揺くも、その指針は常に所要の角度を示して船首と相並ぶ。

聞く所によれば肉眼による水平線は六湊にすぎず。百呎の上よりして約十一湊といへり。この船、船橋の上に、ラデオゴニオメーターの設けなしと雖、時に底力ある號令をこの所より聞くをうるは、我等の最も氣強く感ずる所なりとす。

左右にポルトデッキをとり、中央につくれる船室の先端：船橋直下：に、海圖室と船長室と相並ぶ。海圖室には大小多様の海圖・圖書・及航海日誌を備ふ。

船長室は十疊許、紺色のクロスおひたる机を中央に、四脚の椅子これをめぐり、別にデスクをおく。寢臺は一隅にあり。専屬の浴室もあり。

海圖室につゞきて一・二・三等オフィサーの室ならぶ。これ等の人は四時間にて交代す。こゝより順次尾部に向ふ。

食堂・ケビンに通ずる階段の上には、船體検査證と相對して海圖をかゝげ、これに小郵船旗を挿みて船の所在を示し、又別に正午における船の位置、すぐる一晝夜の航海里程等を示す：今曉時計を二十分進めます：といふがごときも、又隨時この所に掲げらる。

これ等の消息を識ること、又航海中の一興味、且一慰安たるを失わす。

つぎは無線電信機室。こゝにも又：舊式ですが：との釋明をきく。但、かの火花を放つ：瞬滅火花式：を用ひ、日中四百湊内外の距離に通信しつゝあるなり。而してその通信はまずこれを最近距離の島へうち、ソコよりさらに打電す。又一定の時間に送・受信する定めなれば、通信士はこの時間こゝを離れられぬ譯なり。但、航路の延長・通信の輻輳は永く如上の器械を用ふるを容さず、向後五年を期し、ことごとく新式に改むる由。

次の四間半ばかりは機關室、尤下部は廣がりて七・八間をはかるべし。機關は三聯成。高・中・低・壓の汽笛はさかんにピストンを上下させ、又その各々には反轉機附隨して、ゴースタンの用をさす。

一抱えもあるべきシャフトを傳ひ、シャフトトンネルをくだる。狭くあつき所を身を屈めて匍ふようにして進めば、窮まる所は船尾にして、外には即、スクリュウ轉ず。

水壓に對してシャフトを支ふるものにスラストベアリングあり。この邊のもの、すべて油漬のていなるに驚く。汽罐の間をくだりて焚口に至る。三個の口に二人して石炭をくづぶ。火床の壯烈なる光景は、見ぬ者には解しかぬべし。石炭庫には山なす粉炭あり。傍えの鐵箱こそ鶯鳥の鳴く音を出し、しばしば我等を驚かすしれものゝ本體と知るべし。

よごれたる手足を清め、後甲板をへて船尾樓の下をくだれば・診察室・理髮室、これに對して三等浴室、又食糧品庫あり。こゝ雜穀・罐詰の類を貯ふ。

舵室あり。ゴロ／＼とギア廻れば、ゴト／＼と鎖うごく。

三等室は艙口を圍む。艙口は談話室たり又食堂たるなり。これをめぐりて二層の棚をつらぬ。棚は一坪をくぎり内に二人を収む。大なる部屋に老幼・男女を容るゝは風紀上よりも面白からず、セメテはこれを二・三・にくぎる



べきか。

船尾樓に登れば病室あり。舵器あり。船尾には航走漕を測るシップログまわる。

歩をかえして司厨室を覗く。こゝの入口よりボートデッキを上げば：一等船客の外：云々の一札、人目をひく。

料理室は和・洋二部に別れ、此方にお汁粉の仕度あれば、彼方にパンこねの用意あり。大なるオープンあれば、鈴木式の二重鍋あり。何にしても夥しき暑さかな。

料理室につゞきて配膳室。こゝ茶碗・皿は木の框に收め、土瓶の類は上につるす。皿を洗ふもこゝ、器を温むるもこゝ。こゝを通じてご馳走は即、隣りの食堂に運ばる。

暑い／＼の裡に涼しきは貯藏室なるべし。こゝに一萬斤の氷あり、約一か月分の肉類・野菜類をかこぶ。大和の西瓜・臺灣のバナナ・葛西のごぼう・西多摩の白菜・乃至サイパンのパ、イア・パラオのアナ、ス、いずれもこゝに安居する也。

事務長とドクトルの部屋は食堂に隣る。司厨部の背面には三尺の廊下通じ、これにそひて一等船客のケビン十五室ならぶ。浴室・手洗所はいずれもこの附近に設けられてあり。

むこうの階段をよすればボートデッキ上、船尾樓を望むサロンに至る。

後甲板に二輪あり。前甲板の二輪と合せ約二千五百噸の貨物を收む。貨物の運賃は物によるも、噸當り：四十立方尺：六・七・八圓といふ。

船口の上、カンバスを張れる所はデッキパッセンジャーの席にして往々林投のバスケット手近に、檳榔を嚼むの珍客を見る。

船首に起ちて碎けゆく波頭を眺むるも壯快なれど、巨大なる錨のガラ／＼と投込まるゝを見るも又痛快事なり。

又これを指揮するチーフメートの、双眼鏡を頸に、トップにたてるも勇ましき姿也。

樓下にはいわゆる屬員の部屋々々あり。蹄形をなして幾十のベッド並ぶ。さぞかし暑きことならむ。動搖もはげしきことならむ。

これにて船内巡禮終りをつぐ。船齡十八歳の山城丸は、相變らずゴトント／＼や五時半・六時半をくりかえし／＼、東北の追手を受けて水温二十八度の海上を進みつゝあり。たえず克明に且、たえず神妙に……

……南洋群島……

南洋 航路……横濱港を出でて翌夕刻には右舷に小さく島島を望み、翌日即、横濱をいでて第三日に小笠原群島の海域に入り、正午に近く仲人・婿の島々を迎へ、夕暮近く母島・父島を望む。

月は滿に近けれど色は鉛の如く、久しくこれを賞するにたえず。この邊北緯二十七度、海水は紺碧の色を呈し、その面、微細の皺を帯び来る。曇の表とは平穩なる海面のたとえなれど、こゝには……レザーをしけるが如し……とも稱せむか。

海上、白帆・黒煙の影を見ざるも、時に海鳥翔り・とびの魚・はしる。

第四・五日は水空渺茫の裡に暮る。たゞ時にラヂオをきくべく、さらに又家郷に無線の信を送るべし。

第六日は已にマリアナ群島に入る。アグリガン・アラマガンは曉かけて、サイガン・アナタハンは旭光を受けて、いずれも我等の視野に入る。



午後には即、サイパンを迎へ、一漕半をランチに、こゝに初一步を常夏の郷に印することを得。横濱をさること一千二百八十一漕也。

ガラパンの町にチャモロ・カナカの風を察す。クロトンの美わしく、パ、イヤの味ひたえに、パンの實の偉大なること等は、いずれも北來の客を喜ばす。椰子の栽培・砂糖の作業・鳳凰木の花・マンゴーの果實、新來の旅客は常夏情緒を味ふに日もこれ足らざらむとす。

テニアンはサイパンを隔つる一葦の水。ロタは八十二漕。その南にグアム島あれど、障らぬ神にたよりなし。山城丸はさらに西々南・五百六十一漕をさせ、横濱を發して第十一日、錨をヤップの島影に投ず。

臥蠶の如きヤップ島も、近づき見れば山もありけり村もありけり。ヤップの腰囊は古來其名しるく、バラバットのアバイ：集合所：又遠近に其類を見ざるもの。幾多學術上の討究をなし、アングウル燐鏽をも發見せしといふ、ドイツ學術探檢船プラネット號の行方やいづく……

スコールも時に天降れど、寝苦しき夜こそはづよくめり。室内も二十七・八度には昇るべく甲板は一・二度ひくし、たゞこゝは風を受くるため、感觸は一きわ爽か也。水温又二十九度にのぼる。

ヤップより二百六十漕、横濱より第十二日にして南洋の總元締：南洋廳：の所在地：パラオに着す。

パラオへ入るには、あるかなきかのマラル燈臺を當面に見、急に右廻して錨地につく。

コロールへ上陸するには、こゝよりさらにランチにて二・三十分をはしる。

遠近の風景繪の如し。風景よりいへば、こゝは常夏にあらで常春なり。點々たる島嶼を送迎するも興趣豊かに、ランチは綠光團々たる小島：アラカベサン：を望みつゝ、さらに右廻して埠頭につく。

パラオは悠々たる小天地にして、人をして旅順市を聯想せしむ。又名物のスコール瀨來して暑熱を和らげ、朝夕は二十四・五度を示すにすぎず。且、一葦の水を渡りては：本島：バベルダオブ：の風趣を察すべし。

燐鏽を以て鳴るアングウル又西南四十漕の所にあり。本航路にははするれど・ソンスール・メリー・トコベ・の諸島又いずれも東南三百五十漕の間に羅列す。

二度、合せて四十二分ばかり時計を遅らせて漸く赤道に近づけば、船は赤道反流のために惱ませらるゝこと一方ならず。しかのみならず西南の風これに加わり、船脚は僅かに七漕を走るにすぎず。

赤道反流は北緯三度乃至八度の間に起り、三漕の速力あり。この邊、波高く且低氣壓生じやすし。

タングダン・ピアロ等の活火山をのぞめば、やがて富士をしのぶべき名山カラバートは當面に峙ち、船は悠然としてメナード Manado 港に入る。

メナードは蘭領セレベスにあり。横濱を出でて十七日にして至る。パラオを去る七百〇九漕、横濱をへだつる：パラオをへて：二千四百四十四漕。

以上の航程を：神戸を起點として：裏南洋西廻り線とし、同じく神戸を起點としてサイパンより東へ・トラック・ボナペ・クサイをへ、ヤルートに至るものを東廻り線といふ。このもの横濱より三千〇三十四漕。

東西連絡線といふは、横濱より南下してパラオに直行し東方へ折れてトラック・ボナペ・クサイをへ、ヤルートに至るもの。この航程四千三十二漕。

以上の航路は郵船會社これに當り、又群島の間を往復する幾多の航路には、南洋貿易これに従ふ。

天然の妙趣……小笠原諸島の南、北緯二十二度より〇度に亘り、東徑百三十度より百七十五度にのび、南北



一千二百哩・東西二千五百哩を擁すといへば、人をして我帝國委任統治域内の廣きを想わしむれど、陸面積は僅かに百四十万里、即ち内地の各府縣中狭小なる東京府と相等しく、しかもこのもの六百の島々より成り、又この島々たる、さらに幾百・幾千の嶼島よりなるといふに至りては、人をして正に一驚を喫せしむるにたる。

地域内の島々をマリアナ：サイパン・テニアン・ロタ：カロリン：トラック・ボナベ・クサイ：ヤップ・パラオ・アンガウル：マルシャル：ヤルト：の三群島に大別す。

マルシャル群島は第十九世紀の末、ドイツこれを占領しマリアナ・カロリンの二群島又ドイツが敗餘のスペインより二千五百萬ペセタ：邦貨九百六十萬圓：を以て買得せしもの。かくて十六か年をへ、歐洲戰爭起るに及び大正三年、我海軍これを占領し、大正十一年、委任統治に附せられ、南洋廳設けられ、ひいて今日に至る。

今もし地圖につきこれらの諸島を察するときは、誰人と雖その形状の奇異なるに睜目すべし。但、地體の陥没と隆起と相互・錯綜・終始するによる。

けだし天然の妙趣は珊瑚礁「ラリリ」の形成に歸す。

珊瑚礁「ラリリ」は白色なるあり、灰色なるあり。堅きあり、脆きあり。これをなす石灰岩は主として有孔虫の遺骸と石灰藻とよりなる。

みどり石は干潮面二尺より三十尺許の間によく發達し、水産物の多くを棲息さす。ある學者は石灰岩中より十六種の有孔虫を識別し、又ある人は *Madrepora* 十五種の生育を報ず。されば珊瑚礁の組成も單純なるものといふべからず。しかもこの微細なる生物はたえず石灰質を海水よりとり、風とせめぎ波とたかひ、日々夜々營々として自己の領域を建設す。

彼等はまず陸地の裾を巡りて發育し、所在いわゆる裾礁をなす。裾礁を有する陸地にしてその一部沈降したりとせば、寸時も發育をやめざる彼等は、陸地をめぐらすこと、あたかも海堡の如き状態とならむ。堡礁：又は縁礁：はかくして生成す。

堡礁の内、時に大なる水面：礁湖：をたゞゆ。中には一大艦隊を迎ふべきものすらあり。

今もし地形の變動ありて、さらに陸地の陥没を見たりとせば、あとには水面を抜く數尺に過ぎざる：環礁：の、危うげに存在するを見む。

この地帯は全く石灰岩及びこれが崩壊せる砂土より成り、また一掬のいわゆる壤土を有せず。一本の・きうり一莖の・いんげん・を作るだに、絶大の苦心と努力とを要すべき個所なり。

地圖についてこれを檢するにクサイといひ、ヤップといひ、サイパンといひ、乃至ボナベにせよ、パラオ本島にせよ、所在裾礁の著しき發育を見る。されど眼を轉じてパラオ・トラック・ヤルト・を檢すれば、裾礁はいふに及ばず、堡礁：環礁：の發育に驚かざる者なからむ。

想ふに初めて南洋の地圖を手にする人は、そのいずれが水道、そのいずれが陸地なるやの甄別に苦しみ且、いわゆる堡礁：環礁：の、いかにも奇怪千萬なるを感じるなるべし。

地形と地質：……サイパン島は面積十二万里、近くテニアン島をひかえ、又六十五哩をへだて、ロタ島を望む。この三島は珊瑚礁の隆起によりてなり所在白雲岩の露出を見る。しかもサイパン・テニアン二島の段丘をなすは間歇的に隆起したるによる。

トラック・ボナベ・クサイ諸島には玄武岩、珊瑚礁の基底をなす。トラックの堡礁は周圍百二十哩に及び、内に



四季・七曜・の島々を擁し、よく數十隻の軍艦を迎ふ。支廳はその夏島にあり。廳内二百四十五島を有すといふも、その總面積は僅に八万里を擁するにすぎず。

ボナベは面積二十四万里、群島中の最も雄大なるもの。しかも土地は肥え水は豊かに、水稻をうゆるにたゆ。近頃藥草の栽培行わる。

ヤップは四個の主島よりなり十四万里の面積を有す。地味礫礫、地膚の露出せる個所少からずと雖、地質の結晶片岩よりなれること、島民の原始的風俗を維持すること、やかましき海底電線の存在すること等により普ねく内外の注意を惹く。

群島の中樞・南洋廳はパラオ島中の小島コロルにあり。これに連る本島：バベルダオブ：は二十四万里の面積ありて將來開拓・移住を劃すべき所。附近には大小の島嶼相連り風景さながら松島のごとし。堡礁亦最もよく發育しその西水道よりは巨船大艦を導くに足る。こゝ全體の構成は海底噴火によると稱せられ、石灰岩の外、鹽基性の安山岩：本島：を認む。こゝに限らずヤップ・サイパンの如きも、日光熾烈にして降雨多きがため、岩石中の鐵分は第二酸化鐵となり、これにアルミナ等をとかしてラテライトと稱する赤色粘重の土壤を現す。

スリッパをおけるが如きアンガウルは半万里。面積大ならざれど、燐鑛を産すると植物生長の旺盛なるとを以て名ある所、但燐鑛を産するところ、この他にペリリユー・トコベリ・フハエスの島々あり。

終りに椰子の名所として識られたるヤルト島を紹介すべし。こゝよりいだすコプラの量四千噸・三十萬圓は全群島の半額にあたる。しかもかのもの海洋をぬく五呎の環礁上に生ふといふに至りては、天然の偉力を歎賞せざるを得ず。ましてこの環礁のさしわたしたし三十哩に達すといふをや。又沉んやヤルト三十二島は別れてさらに八百六

十の嶼島よりなるといふにおいておや。

### ……常夏の里……

まことは春の色……四時を通じて氣温二十六度、雨量二千餘ミリを降らし、時に十數メートルの烈風到るも、

多くは東北の微風……貿易風……面を吹いて、よく生物の發育を促す。

こなたの株頭に花梗を抽けば、あなたの株根に若芽のび、あなたの梢に果實を結べば、こなたの枝に嫩葉ふく。かくて葉色いよ／＼濃く、枝頭永へに長し。

故に名は常夏と稱すべくして實は常春と唱ふべし。碧海に影を涵す大島・小島も、相當の隔りにおいてすら尙淡綠と常綠と濃綠とを分ち眺むるを得。ことに沼に生ふる一帯のマングローヴ叢、岸に沿ふ娑婆たる椰子の林、尙又峯をかざり谿をつゞる・たまな・てつぼく・林<sup>パンダヌス</sup>投の森、これ等は我等をして駘陽三月、東大寺畔にたちて春日三山を望むの想ひをなさしむ。

美しき數々の植物……よしこゝに山櫻の眺めを缺くといふとも、鳳凰木をサイパンの山腹に認むるは、眞に萬綠叢中紅一點といふべし。温室ならでは色もいせず、梢ものびぬクロートンの、至る所の庭園に彌榮えに榮ゆるを見るも不思議なり。

黄蝴蝶も美わしき花なり。花瓣の地に委したるが醜しといへど、パラオ邊には・ぶつそらげ・よく榮ゆ。

サイパン踊りの若衆がかさす・印度そけい・も白くかぐはし。かぐはしきものにイランイランあり。淡綠、柿の花に似て香高く五%の香料を得べし。カマチリや油桐はサイパンに多く・せんだん・や・はつばき・はテニアンに



普し。椰子も始めて見る者の眼には珍らしく、綿カボクの木 *Eriodendron anfractiosum* 又奇なり。

形のおかしげなるものに・どんぶりのき・ありて生牆にうえられ・ごばんのあし・ありて命名の巧なるに感ぜしめ、キハナキヤウチクトウタベルナイモンダありて形態と名稱との奇なるに驚かしむ。

路傍の植物に：はまをもと：ありて佳香を送り・しろうせんあさがお・ありて行人の歩を止めしむ。淺黄の・ひるがお・亦所在に多し。サイパンの第一農場へ急ぐ道すがら、ランタナ屬の叢がり咲けるに心ひかれ、人に問へど其名を答ふる者なし。こゝには・とうごま・のそのたけ一丈に餘れるものをも見き。

モクマワウ木麻黄もサイパンに多し。支廳の庭にガーゴ ウーチャンといふを見き。ことになつかしく、美わしく思ひしは、カテナデアモールダヴァオにて見し・あさひかづら・を、ヤップの一家園にて見しこと也。このもの蔓草にて窓邊に纏わしむべく色は淡紅にしてむらがり咲く。その清洒にして可憐なる花容は、最もよくその名稱：愛のくさり：にふさわしき心地す。

マングローヴは・おゝばひるぎ・にして氣根を缺くものを・おひるぎ・といふ。深紅の小花を總狀につけ其材の黄色なるを・あかばなひるぎ・と稱す。キシロカルプスはマホガニーの代用となり又船材ともなる。このものならば・おひるぎ・の種子は食用に供せらる。

インデアンアルモンドの異名ある・もゝたまな・の果實も面白し。その巨葉は落葉前紅色を帯び来る。たまな・又・やらば・又・てりはぼく・といふは材は諸種の用に供せられ、種子よりは油をとる。ドムバオイルDomba-oil の名あり。材の用ひらるゝものに鐵木 *Intsia bijuga* ・おゝばあかてつ *Palagium* 等の屬あり。

その實を彫刻材とする・ぞうげやし・はボナペ・トラックに茂る。葉は屋根をふき敷物をあみ、葉柄は焼きて鹽を得べし。花梗はたちて飲料と砂糖と酒を得べきニッパヤシ *Nipa frutescens* は所在これを産す。人はその巨大なる

羽状葉と複果とに驚くべし。

より以上の必需品に椰子 *Cocos nucifera* バンノキ *Arctecarpus incisa* へりまめ *Inocarpus edulis* 檳榔子 *Areca catechu* あり。又 ムンナ *Musa sapientum* ヤムイモ *Dioscorea* タロイモ *Alocasia* 等あり。同じくタロイモといふもヤップ・パラオに産するものは里芋の類にて *Colocasia* に屬す。同じく澱粉にとむものに、タビオカ *Maniot* あり。

ペンギューム エデュレーはチエラ又アリアムグルと稱し巨大なる樹幹となり、長さ四・五寸、洋梨に似たる褐色の巨果を結ぶ。種子に劇毒あり猥りにとりて食ふべからず。

其の他 バ、イア *Carica papaya* サハサップ *Anona amuricata* 羊桃 *Averrhoa carambola* マンユー *Mangifera indica* パインアップル *Ananas sativa* コヒー：みかんの類：くだもの時計・等は隨時・所在に旅客の味覺をたのしましめむ。

數の少き動物……サイパンに上陸して香取神社に詣づる人は、途にカマチリの木に巣くふカマチリ蜂をみとむべく、又そこらを漫步すれば往々にしてこれが一撃にあふなるべし。

喬木の梢にキョックと叫びチョックと應ずるは・うみせみ・の類にして、このものパラオにては小形なり。椰子の花に戯るゝ・みつすひ・の可憐なる姿は所在これを認むべく、鳩又所在に多く大形にして鳴く音高し。

しぎの類には、ボナペに・むなぐろ・多く・きあし・はサイパン、ぎよじよしぎ・はトラックに群をなす。パラオの島巡りに長尾をひいてとびかふ・ボースン・を閑雅なりと見き。このものパラオのみならず・ヤップ・ボナペ・トラックにも棲む。



鳴禽は少し。めじろ・に似たる *Zosterops* sp. よしきり・に似たる *Acrocephalus* sp. ぐらぐらか。

鳥といへば空高くまふ・大ころもり・を鷹と見誤りたることあり。サイパン・テニアン・トラクタ・の絶壁に巢くふ。その肉は食ふべしと。

蛇、ことに毒蛇のおらぬは何よりのことなり。とかげ・の類にはサイパンにその色緑に、丈け三尺に餘れるものすめど、人畜に害をなさず、反つて島民の腹を肥やす。

正覺坊・たいまい・も往々人手にかゝる。わに・の本場はパラオ本島ガスパンのマンガローザ林中といへど、めったにであひし話をきかず。唯・やもり・は天井を散歩してキツ／＼と啼合へど、何等の妨あるにあらず。さそり・は往々おる由なれど、形も小さく毒もさまで劇しからず、人はこれよりも・むかで・やすで・の類を忌む。

白蟻の被害は各所に認めらる。床虫は普通の家には見當らず。蚤も同様。唯サイパン其他に蠅の夥しく、フラムベジアの媒介となるをおそる。

蚊は所在に蔓る。天水をたゝえて用ふる所なれば詮方なしとするも、マリアを傳播するアノフェルスのおらぬは心安し。*Culex* と *Stegomyia* の屬はブンともいはず來り刺す。ヤップにおける *C. fatigans* は Dengue 熱の傳播者たる疑ある由。

ジ／＼と鳴く・くさぜみ・類にはパラオにてであひしことあり。こゝにてはタロ芋畑に、小蛙のケ／＼と鳴くを耳にす。蝶蛾の類は少きが如く・あげは・の類又然り。

玉虫や・かぶと虫の如きは如何。比律賓ダヴァオの螢をパラオにもちゆきしが、このもの果してよく繁殖したりしか。或人の採集によれば昆虫類は約二百種ありしと。

ドイツ時代の遺物に野牛・野豚・野鶏・棲む。馬は由來甚だまれにして、パラオのアイに新たに馬の繪あるは興味をひく。近頃メナードより小馬<sup>ポニ</sup>を輸入する者あれど、長官の乗用車をひく二頭の栗毛に對しては行人いずれも驚異と尊敬の一瞥を送る。

所柄とて水産動物はさすがに多し。トラックには鮫多く、ボナペには大鰻すむ。しび・かつを・の類も時にはたべきれぬことあり。但、かつて四十種の魚類を採集せし者ありしといふ。

くろちょう貝・高瀬貝・等はパラオに産す。おうむ貝は多くは死貝なれど、近くのガンガス島には生貝を得るといへり。このもの現に四種ありてこゝのもの又その一種に屬す。その他、形態の奇なるものあり、色彩の美事なるあり、子安貝・寶貝…の類等すべて二百種に上れど、多くは鹿兒島邊の所産に異ならずと。

やしがに *Birgus fatio* は夜分、椰子の木に登り、その鉄を揮ひて果實をとり喰ふ。穴の深さ三尺にも達すと。このもの・かに・の名あれどむしろ・やどかり・に近し。

マンガローヴの幹にはいのぼる・きのぼりうを *Peripholmus* は・とびはぜ・に似てあながち珍らしきものにはあらねど、こゝにても又愛嬌者たるを失わず。

苦熱を洗ふ一陣のスコール……マアこのお暑いのに南洋へですか……とは出發前、誰彼の口よりいでし質問なりき。かくて小笠原群島をすぎマリアナ群島を迎ふる頃より、ケビンの夜は寝苦しきことしば／＼なりしも、甲板上の涼味は、また帝都釜中の苦熱に似ず。日射をさけて席を適宜の場所に移せば、いながら油汗をかくの程度には至らず。

進みてパラオに至るに、午後には大抵降雨あり、ことに夜間白雨しば／＼いたり、椰子の葉風は常に冷涼の氣を



送り来る。

進みてセレベスの南端に達しても、市中二十分の見物に、強いて乗物を要せず。北して足をミンダナオの一角に下すに及びて、朝夕は肌や冷やかなるを覺えたり。

かく熱帯にありてその苦を識らざるは、一日少くとも一回の降雨ありてよく気温を調節するによる。航海者のい  
わゆるスコールといふものこれにして初め天の一方に濛々たる黒雲あらわれ、水平に瀰蔓し、怒めに雨脚を下す。  
これより數分、天地は濃霧の裡に包まれ、紺碧の海は化して沙漠の如くなる。

かくて沛然たる銀線はまずマストを射、媒烟をつき、ブリッヂをたゞき、カンバスを洗ふ。

しかもボートデッキの半ばをうるおせば、忽ち去つて數キロの彼方に去る。

かつてスコールの話をきき、常に沛然たる豪雨を豫想せしが、必ずしも然らずして、むしろ柳條をなぶる春雨に  
類するもの多かりき。但、晝にいたらざれば夜、夜にあらわれざれば曉、とにかく一日一回は至らざることなし。  
かくてこそ熱帯地域の、旅行も、航海も、占居も、心安しといふべけれ。

パラオは東北に山をめぐらす。水分に飽和せる海洋の氣、一たび西南の風に送らるれば忽ち凝りて雨となる。

パラオ測候所にては風船を用い、高層の風向・風力、その他磁氣・地温・潮汐・地震を検す。一兩日前の豪雨を  
問へば一九ミリにすぎず。しかもすぐる八月には、雷鳴を伴ひて一日百ミリ半を降らしたりと。

熱帯地區におこる颱風の發生状態に二様あり。その一は十月より十二月・一月の交、ヤルートの南に生じて西、  
クサイをヘヤップに至りパラオを襲ふ。

その二は七月より九月の交、トラックの西に生じてヤップ・パラオの邊より西北の進路をたどり臺灣をへて内地

を襲ふ。

かゝる事情を察すれば、ヤップ・サイパン・トラック・ボナペ・ヤルートの島々には具備せる觀測所の設けあり  
たきもの也。サイパン・ボナペに完全なる施設を缺くは無關心の業にして、ヤップをマニラ人に委ねて晏如たるも  
又心外の沙汰とやいはむ。この邊當局の考慮を求む。

### ……腰蓑の人……

原始的風俗……臥蠶の如きヤップ島も、近づくに従ひて漸く高低を辨じ来る。船首をトミール水道に向けて  
ひとみを放てば、まずマタデの山高く仰がる。左にのぶる丘陵は、オカオ・カニフ・ウル、の峯々か。

奥深き水道の右方には、トミル・ウギル・マップの丘をおこし、それより北、別にルモンの一峯を抽く。

左方椰子の森蔭に一きわ棟の大いなるを、バラバットのファルトとす。このもの島民の集會所にして島により、  
アバイと呼びオールドメンハウスとも稱す。

ヤップのアバイは著名なるものにして廣さ七間半に二十間、急傾斜の屋根は椰子の葉にてふかれ、支ふるに徑三  
尺に近き巨柱三十餘を以てす。柱にかけわたしたる横木に彫刻あり。これ等を連ぬる繩の結び方に手法あり。しか  
も釘は一本も使用されず。

床にはリーフをしく。戸牖は小さく少ければ、内部はうすくらし。往時は平和的にも非平和的にも數多く……男子  
に限り……使用せられたるも今は然らず。唯ところへに焚火の跡ありて、昔日の繁昌を想わしむるのみ。

表入口の楣間に彫刻・紋様等あること、他のアバイにおけるが如し。こゝ西面の道路一・二町の間、數十個の



石貨をならぶ。

石貨は石灰岩より成り、圓盤にして孔を中央に貫く。形に大小あれど、こゝに列ぬるものは徑、人長にひとしく一方ならぬ高價のものなり。角閃岩よりなれるこの島には、かよりの代物しろものを産せず。いずれもカヌーにより海上二百六十哩をパラオより運び來りしものなり。

この邊、椰子多し。村長レイホン君の好意により始めて椰子の水を飲む。淡甘・微酸、別に特殊の香ひありともおもほへず。量多ければ僅かにその三分の一をつくしたるのみ。

アバイの傍らに小溪ながれ、これにそひて一屋建つ。樹下にいこふ黒色美人をさしまねきて問へば、名をギルムガードといひ、年は二十八と答ふ。面長く軀幹整ひ・朱唇・黒齒必しも不可ならず。頸より胸に黒き索をかけ、わずかに腰に腰蓑を纏ふ。

朱唇・黒齒は檳榔子の實を嚙むがためなり。このもの長さ一寸許にして端は細し。これをたてにかみわり石灰をふりかけ・キンマ：ガヴォイ：の葉につゝみて咬む。所在路面を朱に染めたるは、咬みかみて唾を出したるもの。これを實驗したる人の話に、少しく滋味あるも雅趣すてがたしと。しかも紅べにさしたるが如き唇は、男ぶり又女ぶりを一段と引立て得るに似たり。かのチューイングガムは、ヒントをこれに得たるものか。

腰蓑オシ又こゝの名物なり。これによりて生ずる白の如き巨腰と、歩を移す毎にサラ／＼となる微音とは、村の阿哥をして神ゆき魂とぶの思あらしむ。

但、コナタの岸よりアナタの森へ通ずる長堤を、頭に物を戴きつゝソロ／＼とねり行く一群を見れば、むしろ和平・悠々の趣あるを認む。

ヤップ公學校は北方の山腹に峙ち、その鐵筋コンクリート作りは遠くこれを海上より望むべし。この建物に學ぶ女生徒たちは、足ははだしながら身には都下淑女の用ふるが如き洋衣をまとふ。寄宿舎には二・三十もあり、いずれも遠き村々のもの。五日をこゝに送り、土曜の午後より日曜にかけ、母さんの乳をねだりに歸える。

我等のこゝを訪ふに、ズラリとならびたる腰蓑姿は、これが今のさき、進退節に叶ひて行進し、聲音いと妙えに：我等の南洋：を合唱したる一團かと驚かれておかしかりき。

腰蓑は三枚を重ね。家居に一枚をさり、いぬるに又一枚をさる。質は檳榔の葉・椰子の新芽・バナ、の枯葉等々より成る。

ヤップには故習慣多かつたわり且、男尊女卑の酷しき所。男子は腰蓑にふるゝを大なる侮辱となし、又ダブルに近づくことも嚴禁せらる。

アバイより南北に、坦々たる石だゝみ林を貫ぬきて通ず。巾は三メートルもあるべく、左右に池沼あり。マングローヴ叢のたえまに／＼にタロ芋うえられ・椰子・たまな・ばんのき・のむらがりたる間、洋梨に似て大きく、褐色を呈するアリアムグルみのる。このものチェヲといひ、今は毒あり、地におつるをまちとりて食ふべしと。

島民の常用・ボーイ：くりまめ：をも初めて見つ。この邊、恰かも何々園とよぶ名園を行くの觀あり。

三・四町行けば左方の林間に小さき賤が伏屋たつ。呼ぶに四・五人の婦人這ひいづる。これもこゝ特有のダブルとて、初經の女子は少くとも三ヵ月、その他は經期間家を去つて起居するの定め也。

男子は裸體・洗足、赤の下帯を結ぶ。この風、到る所に流行す。こゝにては下帯の上に、バナ、の纖維よりなる上帯バギー又カール樹の纖維を纏ふ者多し。アンガウルに半年かせぎしヤップ人の、船中黙々、小さき櫛もて丹念にこの



繊維をすぐに見しが、これも久しぶりの故郷入りに、件の晴着をととのえおりしなり。

櫛ロウツエーといへば、ヤップ男の多くは七・八寸のものをさす。この櫛をさすため、わざと少し許りの髪をかり残す特志家もあり。櫛をさすは相當身柄の者にて、他の者：櫛をさし得ぬ者：はこれに對して多大の敬意を拂はざるべからず。今はこの規定ゆるみたるも、往時は結婚は勿論、同席も出來ず、出入も叶わず、甚しきに至りては、その坐する前を通行することすら尙且許されざりしといふ。

衣服の類……島民五萬の内、約三千のチャモロ族あり、他の大部分をカナカ族となす。チャモロ族はカナカと白人との混血ともいわれ、もとグラムにさかえ、一時盛んに・ロタ・テニアン・サイパン等に移れりといふも今はすべて二千六百を數ふるにすぎず。かれ等は男女とも衣類をまとひ、まれに靴・スリッパをうがつ。

この婦人の服装は、その丈の短かゝらぬ點において、ふときおいどをふりまわさぬ點において、かつは清らかにたもつ點において、はた又きくすれせぬ點において、ソンジヨソコラのご婦人に優ること萬々なり。

カナカ族は、西部のものはマレー族、東部のものはポリネシア、南部に至つてはメラネシア族に類する者多し。皮膚は均しく日光に直面するとはいへ……東部諸島にては着物をまとへど……その色合に濃淡の二様あり。濃きは滄紙に墨をぬりたる程度。一體に鬚髻少く、頭髮黒く、五人に一人は縮る。眼窩くぼみたれど琉球人の如く吊り上らず。又マレー人の如くギョロリとせず。口は大に、鼻翼は廣し。中にはやせ面に、眼細く唇うすく、短かきひげを、はやしその上、髻を櫛にてとめたる有様は、天晴れ源九郎義經とはゆかずとも、佐藤四郎繼信と名乗らむ男ぶりなきにしもあらず。

赤き下帯の流行せること上に記せるが如し。その他染模様の布をしむる・いなせ・も往々にしてこれあり。文身

も所々に認めらる。上膊に、交又せる國旗をものせるも多し。胸又は脛に縦筋の模様をつくることポナベに盛なり。トラックにては時より鬱金の根よりとりたるテークといふ染料にて化粧す。さらに勇猛の態をあらわすために、胸部に瘰癧をつくる。その皮膚よりもあがりたる有様は、決して氣味よきものにはあらず。

トラックにては耳飾りに浮身をやつす。巻貝より製せる腕輪の如きは銀製のそれよりは上品に見ゆ。足首にパンダヌスの葉をまとふも似つかわしく、小供の頸飾りなどもかわゆきものゝ一つなり。

婦人の、パンギュームの實に似たる乳房を示すこと、ヤップの他には容易に認むべからず。諸賢にしてもし志あらば、ヤップに向ふてこの天然美を飽喫せらるべし。

その住居……は門もなく垣もなく、戸締りもなく廁もなし。トラックにては母屋の傍らに料理場を設くる所あり。パラオにては柱組をなし、きりたるバンドヌスの葉を重ねて壁をつくり、椰子の葉をふきて屋根となす。勾配は急なり。床は高く、階段によりて昇降し、正面に入口、側面に窓をうがつ。床には板をはるあり、竹をくむあり、中には家の棟に千木ようのものをつくる。雅趣なきにあらず。

サイパン、ことにガラパンのチャモロ族の家には洋風を模せるあり。されどカナカの小屋の方、雅致多し。ヤップ・トラック・ヤルトのものは一體に劣り、純然たる掘立小屋に類するを普通とす。

井戸を缺けば天水を屋上より導く。中には椰子の幹に繩をまとひ下に土の瓶をおくもあり。トラックにて水を汲めば二・三の・ぼうふら・あるを覺悟せざるべからず。お膝元のパラオさえ、水は天水に仰ぎ、トタン屋根より導きて大なるタンクにたゞゆ。長官の尊きを以てして尙、天水に浴し天水をのむ。

總じて水に不自由せぬは、ポナベ又パラオ本島の一部のみ。こゝには池あり、瀧あり、河もあり、やがては水田



をも作りかねまじき勢を呈す。

あつき所なれば住居はいずれも樹間に在り。空氣の流通とか、南向に椽をつけてとかの詮議は、この里にては無用の沙汰たり。家の傍ら數間の所に石だゝみをしつらひ・休息・緩話のむしろとなす。かやうの所に石造の墓をおく所あれど、又數か所に平石をたてならべたる所もあり。

この石は、石森式安樂椅子といふ所にて、これによりかゝり、椰子の葉風にくつろぐ・てゝら姿・も又一奇なしとせず。てゝら姿はよしとして、蚊の襲撃には椰子の油をぬりてこれを防ぐ。

おちようす：由來諸君はソンジヨソコラにたれ流して、獨逸人をして十六か年間、鼻をつまゝしめたり。この風今も全くは改らず・蛔虫・蟯虫・十二指腸虫をして夥しく流布・蔓延せしむ。せめては土を掘りてこの内に仕込み後、適當の時機をまちてこれを埋むる程度に致したきもの。

サイパンの岸には海水浴の婦人たえず。その舉止甚だ閑雅なるを認め、これを人に問へば、アレコソ用をたしてゐる所といふ。勿論きものきたるまゝ也。

味よきパンの實……熱帯植物中最も氣に入りたるものをパンの實となす。雌雄異株、葉は長大・かしわ・に似て深裂し、實は楕圓形にして大いさは・さぼん・ほど、複果なれば外面に細かく柔かき突起あり。丸のまゝ煮、又やきてこれを截ち、皮をさり、果心を去りて味ふに、その淡黄色の肉はホク／＼として、しかも粘り氣あり。恰かも上等のパンにサツマ芋をまぜたるが如し。このもの五月より十一月までみゆる。十餘年にして已に數丈の巨木となり、よく數百の果實を擔ふ。

タロ芋は里芋に類して水中にうゆ。大なるものゝ葉柄は七尺にのび、葉のたけ六尺その巾三尺、芋は即、人頭大となる。

ヤム芋は山の芋に似、地下莖の長さ五尺、周圍一尺五寸・むかご・さえ周圍一尺に達す。前者は鹽にて味をつけて煮、後者はこねて團子となす。

タピオカは麻に似たる葉を出し六・七か月にして莖徑二寸、その丈七・八尺となる。地下莖又よく發達しほとんど莖と同様になる。これを掘出し皮を除き煮たるもの、ほとんど全く澱粉にして、ホツコリ／＼としてことにめでたし。色又黄に赤をさす。無肥料にて收量一反歩五百貫に上る。

ポリーイは長大なる喬木なり。扁平、恰かも最中もなかに似たる實を結ぶ。外皮は緑、これに接して堅き内皮を有す。これを煮又焼きて截てば、内にハート形・くるみ・に似たる仁果を藏す。ポソ／＼せる味は・くわい・に栗を加へたるが如し。ヤップ人の重要食料たること前にのべたる所の如し。

さつま芋も又重要な食料品たり。これ又無肥料にて五百貫の收穫あれど、少しく厩肥を用ふれば優に七・八百貫を得。その味ひ淡泊にして遙かに前三者の下位に在り。

以上トラクにてはタロ芋を、ボナペにてはヤム芋を、クサイにては・さつま芋を、ヤップにてはポリーイ・タロを、パラオにてはタロとタピオカ、而してヤルットにては椰子を第一位に推す。

椰子は栽植後七・八か年にしてみのり、齡あたかも我等のそれとひとし。されば二十年をすぎて勢漸く旺んに、四十年にて最も壯、かくて六・七十年の壽を保つ。

このもの果實はいふも更なり・葉柄・樹幹、一として用いられざるはなく、嫩芽は贅澤なる嗜好品として、しかもその一莖はよく一本の椰子を値す。



花汁又然り。花梗を截ちてそのしたゝり落る液よりは砂糖を得べく、チャカロ：椰子酒：を醸すべく尙且酢をもつくるべし。

種殻の内面を覆ふコブラの値あることは誰も知る。近頃スポンジケーキに白く削りたるこのコブラを添ふ。而して又生のものを酢味噌にすれば、その味シヤキノ／＼して一杯傾くるに適す。これを壓搾して得たる油は普ねく馳走をつくる種となる。

バナ、も又調法なる代物なり。新株を分ち栽えて一年少しすれば七・八本の株を張り、その幾株に花梗を抽く。但、島民は必ずしも甘美なる品種を喜ばず。かえつて少しく鹽味を加へて煮て食するものを愛用す。

パインアップルも芽をかきとり、畑にうえて一か半年をふれば、結實反當一千個。これより六ヵ月後にさらに三千、後一か年をふればさらにまた三千個をうべし。

パ、イア又調法なる代物なり。下種後二か年にして丈餘に伸び、まくわ瓜より遙かに大なる果實十數顆をみのらす。外皮は綠色なるも、これを截てば内部は鮮紅黄色を呈す。カピアを聯想せしむる種實を去り・さじ・にて多醬の果肉を掬ひとる。一種獨特の香ひありて、この點においてはメロンに劣るとするも食後、お腹工合をよくすると果物中よくこれに及ぶものなし。

マンゴの葉は・もくせい・の葉を細くせるが如く、樹幹は容易にのび二十年にして數丈に達す。そのコンモリしげる姿は、恰かも老成せる士君子の風あり。果實はむらがりおひ、五月の交とりて食ふべし。

要するに已にパンの實あり。バナ、あり。パインアップルあり。これに添ふるに鹽たきの魚肉若干を以てせば、食事として他に俟つべきもの無かるべし。唯筆者は南國のこの珍果を、容易に都下の士女諸君にもたらしべき方法

と機會とを有せざるを憾となす。

月下のダンス……常夏の國はやがて成育の國なり。三・五十年へねば役だたぬ材も、こゝにては十五年・二十年にて立派なものとなる。

植物已にしかり、動物又然らざるを得ず。氣をつくれれば我等の髪も爪も、のびかた尋常ならざるが如し。

すべて生氣の旺なるところ、何等かの形式によりてその發現を見ざればやまず。島民のダンスを好むも又かよりのたぐひなるべく、一たびこれを始むれば又底止する所をしらず、曉を徹して尙倦色なし。それかあらぬか近頃はあらかじめ當局の許可を得べきことゝなす。

踊りに腰蓑はつきもの也。調子よく腰をふれば、品よくうごきてサラ／＼と鳴る。頭に白き又赤き花をかざし、手首・足首にパンダヌスの葉をまとひ、二十三十の人の一律にまふ姿、靜より動に入り、序破より急に移り、或は坐して、郎を待つ綿々の情を叙し或は起つて、木桿をあげて憂々敵を斃すの様を演ず。おどりのきれ目／＼に香水をふりかくるも、島の乙女のやさしき心づかひなり。

サイベンの踊士は訓練されすぎたるの觀あり。トラック・ヤルトのドンチャン騒ぎはいかゞのものにや。ことに・ねまき・ようのものをつけたる婦人のさす手ひく手は、餘り感心されぬ心地す。おどり・もやはりヤップ・パオあたりか。但、腰蓑がたの婦人舞踊はめったに拜見できぬ由、せめてはこれをフィルムにおさめおきたきものと思ふ。

……ポナへの藥草……



南島巡航記……は帆船天祐丸(九十一噸)が小笠原・グアム・ヤップ・パラオ等の諸島をへ、ボナベに至りたる記述にして、當時中學生たりし筆者の興味をそよること大なりき。一行はこゝに南洋商會なるものを設け少からず島民の信望をえたりと稱す。

これより先、スベーン洋の南洋經營は對策そのよろしきを得ざりしが如く、この間ボナベに島民の叛亂相つき、領有十四年の間、僅かにボナベとヤップとに防禦的施設を残したるのみ。

かゝる所にドイツは天祐丸の南行と前後して、その軍艦を群島におくり、ヤルト・ナウル其他の島々(1888)を略取し初めはヤルト會社を起して(1887)これに行政權を與へ、つぎてマリアナ・カロリン二群島を收むる(1897)に及び、ヤルト會社の行政權を政府に收め、(1906)ニューギニアのラバウルに總督府をおき、ボナベとヤップとに政廳を設け且、ヤップを中心として上海・グアム・メナードに海底電線を敷設し尙有力なる無線電信をヤップにすえ、かくて北方遙かに青島と呼應して其雄圖を遂行せむとせり。

ドイツの施設……當時ドイツの施設は決して生ぬるきものにはあらざりき。その官吏は多く豫後備の軍人を登用し、教育に宗教に、道路改修に産業開發に、乃至風俗改良に醫療衛生に、いずれも全力をつくしたるが如し。

しかもその功績をあぐるに急なる、かえつて島民をして追従にたえざらしめしものあり。彼等が病院を嫌忌せしが如きも其一例にして、ことに本島の一部落ジョカージに起りたる、知事以下十餘人の殺害事件の如きは、たまたま這般の消息を語るものとす。

ドイツの治政十六年。大正三年、歐洲戰爭に會して帝國海軍は群島を占領し、防備隊司令部をトラックにおきて軍政をしきしが、同七年民政部設けられ、つぎて九年、平和條約の成るや帝國はC式委任の形式によりこれが統治

に當ることとなり、つぎて大正十一年三月・南洋廳・パラオにおかるゝに至る。

山川草木……ボナベ島は、グアムにつぐ巨島と稱せられ・サイパン・ヤップの約二倍ありて、パラオ本島……バベルダオブ……と殆んど相同じく……二四方里三……且、ミクロネシア中最高峯のトロコルム山……八七二メートル……を頂き、北岸には又三百メートルの絶壁そびゆ。

多雨多濕、瀧もあり川もあり。ボナベ・キチー・メタラニウム三港に注ぐものをその主なるものとす。

地勢を大觀すれば、數百尺迄は草地多く、七・八百尺の所は・おゝばはまぼろ・密生し、一千五百尺よりは一面椰子の純林にして・つるたこ・へご・まるはち・を混生し・しだ・の類又多し。もとより鬱蒼たる處女林あれど、

一九〇五年の大暴風は少からず全島に損傷を與へ、ことに椰子林の損害は夥しきものありしといふ。

ボナベは又腰蓑の里也。椰子の嫩葉をむし、うちてさらし、さいて織條となして腰にまとふ。膝下に垂れたるは少しくダランなき觀あれど、これは又みるめ異様の癩痕男を幾分緩和する效能あるに似たり。

ボナベは又大鰻を産する所也。かつては長五尺・周圍一尺にあまるものをえしといふ。

ボナベは又・カボック・多き所也。道のべ・人家の側、その他、野に畑に、この樹あまねくたちならぶ。

ボナベは又カワカワの生ずる所也。このものシヤカオ *Piper methysticum* Forst とし胡椒科に屬す。葉は不規則なる心臟形をなし、株の高さ一メートルより三メートルあり、一株より數莖を出す。島民は根をくだき其汁液をのむ。このもの麻醉性を有し飲用久しきに及べば遂に中毒症をおこす。

又デリスの一種……豈科……あり。根にロテノールなるアルカロイドをふくむ。島民は根を溪流にてうちくだき液を流して魚類の浮上るを捕ふ。デリスの農業用殺虫劑として用ひらるゝこと已に知らるゝ所なり。



ドイツ時代、こゝ薬用植物の栽培されしは記録の示す所、又幾分その跡をうかゞふことを得べし。近頃南洋廳ここに二十種の薬用……ことに熱帯薬用……植物を栽培す。

即、局處麻醉薬としての古柯を筆頭に、下熱劑の規那。吐劑としての吐根・フィシクナット。緩下薬としての巴豆・ヤラッパ・なんばんさいかちの類。ピロルピンの原料たるヤポランジ。強心劑たるストロファンツスネ、ウドラウパス。癩病薬たる大楓子。その他白檀(治癩)。トルーバルサム(疥癬)。安息香(祛痰)。にがきもどき(下痢止)。カユプラ(打撲傷)。尙又殺蟲劑たるトバ。殺菌劑としてのクワシヤアラタ。而して強壯劑としてのクワシヤアマラの類……

パラオ産業試験場の成績によれば古柯は一年生、丈四尺の株に三十四貫六百匁の肥料を三回に分施し、十月剪枝を行ひて二月中旬これを收め、反當新鮮物百〇六・風乾物二十七貫七、而して總アルカロイド一・二八%を得しとす。

この成績は必ずしも佳良ならざるが如きも、栽培・管理そのよろしきを得て相當の産額を擧ぐるに至らば斯界を益すること蓋し鮮少なからざるべし。

### ……ヤルートの椰子……

うつくしき椰子林……南洋群島の風致をなすもの一にこの樹の存在にこれよる。海上に五夜を送り、始めてサイパンの翠巒を一涯の外に眺むるとき、山ふところに緑りいろこき甘蔗の畑をつゝむもの。或は赤き屋根をこめて波打ぎわを右左に覆ふもの。はた又少しく淡黄をおびて竹藪又・ばしよう・の叢かとうたがわるゝもの。即この椰子

の林也。

ついで車を南方チャランカノアに進むの時、又はトロを北方タナバクに驅るの折、そのいずれの場合においても、立つとく椰子の並木を美しと見む。

南昌クラブはパラオ廳前、閑靜なる一劃なり。後庭は廣き芝生に椰子をうゆ。ペランダの上、スコールの後、椅によりて靜かに眺むるに、戸樋もる雨水は水晶の簾をかくるが如く、階下にさける・ぶつそうげ・の花は赤きこと火の如く、その間にたつ亭々たる椰子の姿には、又すてがたき一種の情致あり。

椰子の葉影は群島到る所に見出さる。四邊綠樹を以て覆わるゝサンソルの孤島さえ、十歩をふみ入るれば即かの婆娑たる影をみとむ。クサイ・ポナベ・トラック又同様にして、ポナベの如き、千尺の峯の上、この木の生ふことと已に記せる所の如し。

けだし椰子の名所としては須らくヤルートをあげざるべからず。

その形のいわゆる環礁をなし、全島悉く珊瑚礁より成れる所、いかにしてその成長を見るかといふに、もと基岩たる珊瑚角礫岩と、これを覆ふ鱗状の砂とは、その質粗糙にして含水性にとみ、また容易に乾燥せず、かくてよくこの植物をして活着・生長せしむ。

今もし單に椰子といへば古々椰子 *Cocos nucifera* を指すも、この他、ことに雄偉なる大王椰子 *Coelococcus* あり。子實を彫刻すべき象牙椰子あり。莖は短きも偉大なる子實を荷ふニッパ椰子 *Nipa fruticans* あり。子實より油脂をとるべき油椰子あり。又一種シンガポール産のものはその子實雄大、しかも奇怪なる形態を備へて觀者をして呆然たらしむるものあり。



又その数は多からねど、極めて調法なるサゴ椰子もあり。

調法な椰子の木……凡調法といへばとて、この木の右にいづるものはなかるべし。即、根は薬用として専ら小兒病に供せられ、幹は用材、嫩芽は無比の馳走となり且、外傷に用ひらる。葉は屋根をふき、敷物につくられ、籠や帽子ともなる。皮は下痢止めに供せられ、花梗よりいづる液は飲料となる外・糖蜜・砂糖につくられ、やがては酒ともなり酢ともなる。

わかき果實内の汁液は好箇の飲料となり、これを容るゝ種殻は食物容器・裝飾具かつは木炭に化し、種殻をおゝふ果皮の繊維は索となり、ブラッシとなり、織られて敷物となる。

コプラ：胚乳：は生食され・油・脂油加工品となり、飼料ともなり肥料ともなる。

島民の普ねく用ふる・カヌー……まるき船……はパンノキにてつくられ、島民は一挺の双物を以て巨材をくりぬく。巾は一尺五寸より二尺、長さ小は二間より大は七八間にいたる。この側面に二本の横木を出し、これに適當の材を結び、胴體とならびて水に浮ばしむ。即、今日のいわゆるフロートのようなものなり。擢はその形匙の如く、兩手にもちそへて水をかく。勿論帆走をもなし得べし。

帆又林投にあらざれば椰子の葉にてあむ。綱も林投・ばしよう・山麻にあらざれば即ち椰子の繊維より製す。この綱の強靱なることは意想の外にて、かのアバイの巨大なる梁と柱とをつなぐ。

コプラをとるには、やゝ熟したる果實を二つにわり、小刀にて内面よりこさぎとり、これを乾かす。日光によれば約五日、火力によれば七・八時間より十七・八時間を要した後、袋に入れてこれを出す。一噸を生産するには果實約六千顆を要し、コプラ一噸の價は七・八十圓、全群島よりの産出は約一萬噸を算す。

椰子林の經營……にはまず良種苗を得るを肝要とす。裏南洋の種類は葉のつやといひ幹の膚といひ、のびかたといひ、實のつきかたといひ、これをミナハサ又ミンダナオのものに比するに、一見著しく遜色あるを知る。

今一町歩に百二十本を植ゆれば第八年に至りて結實し、コプラ半噸……五百キロ……を收め、第九年に八百キロ。かくて第十年目に至れば、一千キロ即、一噸を收む。

これをメナード附近の、一町歩百本をうえて收入百五十圓。ダヴァオ附近の、一町歩百本より二噸を收むるの計算に比すれば、その豊凶比ぶべきにあらねど、栽培適地と稱せらるゝ二・三萬町歩の地積を利用することを得ば、よく今日の産額をして、これを二倍にし又三倍に達せしむることを得べし。

椰子の病蟲害としては葉枯・班葉・おさぞうむし・やしきり・かいがらむし・まりはむし・むらさきかいがら蟲等を數ふ。

むらさきかいがら……に對しては……かいがらやどりこばち……偉効あり。かいがら蟲に對してはライレー二號松脂合劑最も効驗ありといふ。

### ……サイパンの甘蔗……

自然と人力……南洋群島の移出總額千四・五百萬圓、この内・コプラ・燐礦・砂糖・アルコールを合するものその八十七%、又その八三%は砂糖とアルコールこれを占むといへば、南洋群島における砂糖の經濟的關係は全く重且大なりといはざるべからず。

さきに椰子の調法なる、まことに天資の品たるを歎賞せし我々は、こゝに又あの單調にして無風流なる・さとう



きび：甘蔗：が、そのぶこつなる莖の内に、一割にあたる糖分を合成含蓄し尙、五・六寸にきられて無造作にさされたる萌芽が、僅か八か月乃至十四か月をへて三米メートル以上の草丈けとなり、はた又このものが、洋々として廣袤一萬町歩の山野にそよぐ有様を目視しては、まことに生物の微妙・天恵の恩澤・而して又人力の偉大さを感歎せざるをえず。

南洋興發……南洋の糖業は一に南洋興發會社の經營にかゝる。會社は資本金二千萬圓を以てして、地を拓き人を送り今、甘蔗園一萬町歩に小作二千餘戸をいれ、輕便鐵道百哩をしき、三千の従業者を使用し、一日三千噸能力の製糖機を働かせて年額百萬擔・一千二・三萬圓の砂糖：黄双：をつくり出し、他方又出港税として南洋廳へ納むるもの三百餘萬圓に達す。

其他農園を開き家畜をかひ、棧橋を架し道路を通じ、住宅を建て電燈を點じ、學校を設け診療所を開き、尙且、クラブ・浴場・運動場。娛樂・購買並び販賣の機關を整ふ。

而して廳より借用する土地、サイパンにおける五千町歩はその可耕面積の半ばをこえ、テニアンテニアンの七千町歩はその全部を占め、ロタの三千四百町歩はその六割に達す。

かくの如くにして今、會社の事業により直接・間接に衣食する者無慮三萬。かくて如上の島々にして開拓の域に達せむか、我南洋の人口はさらに新たに幾萬を加ふるところあらむとす。

まこと興發は一個の興發にあらずして、正に南洋の興發たる也。

甘蔗園……サイパン島は南北にのび、地形恰かも山の字をなす。南端アスゴンノ・アスリートアスリートの邊を第一農場とし中央部及び東面にのびたるラウラウ・チャッチャの邊を第二農場、北端マツピー・バナデル・ハナチル

ザン・カラベラーの邊を第三農場とし、尙ガラパンの附近にかけ、併せて三千五百町歩の甘蔗園を拓き、中に七百戸を容れ、五十哩の鐵道これを繞り・本社・事務所・製糖工場等を第一農場に近きチャランカノアにおく。

この地、形勝として中央部にタッポーチョタッポーチョの峯そびえ、東北部・元帥岩の下に月見島うかぶ。テニアンはサイパンの南方四哩の所にありて、大いさ前者の半ば（六方里）を占め、中央部は隆起してテーブルランドをなす。

こゝラデランソラデランソの高地あり。ライオン岩、マルポ沼の勝地あり。中央部ソンソン附近を第一農場。マルポ沼のあたりを第二。カヒー方面を第三。ハゴエ方面を第四農場とし今、三千町に六百戸を收め、チュウロを中心として別に二千町歩の自營農場を拓く。鐵路又四十哩をはしる。

サイパンといひテニアンといひ、いずれも間歇的に隆起したる珊瑚礁にして土壤は腐植質・石灰・磷酸分に不足せざるも、加里分に乏し。従來無肥料にて連作せるも、地力の減耗をさくるため、三年二作の法をたて、三分の一を休閑地とし、尙若干にても既肥を用ひんことを奨めつゝあり。

甘蔗の收量は町當十二萬斤。砂糖の歩留りは一一・五％。

栽培と製糖……本地方は七月より十一月を雨季、十二月より六月迄を旱燥季となすを以て、多くは一・二月の交うえつけ、八・九・十月の頃・剝葉・中耕・培土又施肥を勉め、一月より苜はじめ、製糖機械こゝに動き、七月に到つてやむ。

甘蔗はその種類により八か月乃至十四か月：かぶだしのものは十か月：をへて苜取る。三・四月の頃は正に登熟の絶頂期。



こゝ栽培せらるゝもの、爪哇二七二五、最も多きを占め、EK28號これにつき、他に若干のSW3號あり。

サイパン農事試験場にてはかれと爪哇又臺灣種との交配により、早熟：約一か年にて刈取り：且、歩留り多く尙病蟲害にたゆべき品種を作出さむとつとむ。内に例えば爪哇の一四九九、又一五〇七、もしくは一六一、乃至臺灣二十三號との交配種を完成し得むか、斯業に寄與する所甚だ大なるものあらむ。

種苗は畝幅を五尺、株間を一尺五寸とし一町歩に一萬八千本をうえ、一旦刈取りたるものは、一回だけその儘にソコより株をたてしむ。

一町歩を拓くには一日五人にて十日、開墾費を平均八十圓と見る。

附近の薪炭材は製糖機の燃料として會社これを買上ぐ。テナンにおける收量はサイパンより多く、最近反當十五萬斤に達す。

製糖作業は各農場より車送し來れる莖をエレベーターによりて壓搾機にかく。莖は初めやゝ粗に後、密に壓搾せられ、液は下方に流れおつ。

かす：バカス：はエレベーターにより、汽罐部に運ばれて燃料となる。壓搾液には生石灰加えられ、百度に熱せられ、攪拌され、沈澱せられ、濾過せらる。

効用罐に移さるれば一二又一四%なりし含糖率は、ようやく増して五〇%にのぼり、真空結晶罐の作用をうくれば、含糖量九五%の泥狀物となる。このもの遠心分離器にかけられて糖蜜分離し、粗糖こゝに生ず。壓搾器にかけられてよりこゝに十八時間也。

糖蜜は莖百斤より二斤を得べく、アルコールの醸造はこれを二十度に稀釋し、醱酵槽に移し、イーストを加ふ。

十時間にて醱酵終り、蒸餾せられてアルコール分離す。糖蜜百斤より九十四度のもの八升五合を得べし。

**小作問題**……故山をさる一千渾。櫛風沐雨、木を伐り地を拓き苗をうゆ。たとえ南洋開發の大使命を荷ふとはいえ、眞にいわゆる勞資の協調無かりせば、遂にその目的を完うする能わざる也。

會社は初め渡航費として約二百圓、耕作資金として六百圓、役牛々車費として三百圓等約千二百圓を小作人に貸附し、小作人は一割五分の小作料をさしひき、栽培したる甘蔗を會社へ賣渡す。又新植の場合には南洋廳より別に奨励金を得。かくして彼等は二年目より借入金償却し、尙且若干の餘財を生ずることとなる。

されど小作人漸く多きを加え來れば、そこには生活・風習の異りたる者も入りきたり、感情の阻格もおこり、若干の不平・幾多の要求のあらわるゝこと、これ又免かれがたきところにして、こゝにも或は小作料に關し、或は小作期限につき、はた又小作の權利につき、若干の問題を惹起したることあり。

凡これ等のこと、多くは意志疏通の充分ならざるより起る。きく所によれば前年已に共榮會なるものゝ組織なり、如上の點につきよくその効績をあぐる所ありき。希くはいずれも共通利害の上にたち、勞資協調の眞髓を會得し、共存共榮の實をあげ、かくてその重大使命を達成したきもの也。

### ……アンガウルの燐鑛……

天恵のあつきもの……我邦無慮二十二・三億圓の農産物をあぐるに、四億五・六千萬圓の肥料を費す。その内、約半額……二億圓……をいわゆる金肥となし、これが一割内外のものを、過燐酸肥料……過燐酸石灰及その配合肥料……となす。



過磷酸石灰は燐鑛粉に同量の硫酸を加へて乾燥したるもの。而してその原料たる燐鑛はこれをフロリダ・コンヤ・クリスマス・マカテヤ或は又ラサ等の所産に仰ぎ、最近その移輸入額六・七十萬噸、この價格無慮一千五百萬圓をぬく。

内にアンガウルの燐鑛六萬噸あり。明治四十二年以來毎年約同額を出し、一方我農界に寄與すると共に又我南洋廳の財政に貢献しつゝあり。

南洋廳の歳出五百六十萬圓。アンガウル採鑛所の經費五十餘萬。而して六萬噸を出して百二十萬圓をあぐるとせば、こゝに差引七十萬圓の利潤となり、よく歳出の一割三分をかせぎいだす。

アンガウルは實に南洋寶庫の一なり。我等はさきに一たび椰子について、次に甘蔗において、いずれも天然の微妙、天恵のあつきに感歎したるが、こゝに又さらにこれをくりかえさざるを得ざるもの也。

九月九日我山城丸はアンガウルの岸をさる約五百メートル、深さ百二十尋の沖に假泊しつゝあり。折から西南の風吹すさみて怒濤、岸壁に狂奔す。輸鑛棧橋の邊り白服の人左往し、宿泊所の前、黒色の影右往するも、船と陸との連絡は遂に敢行することを得ず。船は僅かに十餘の島民をのせ、舳をかえしてパラオに逃る。

船はパラオに止まること一夜、再び舵を取直して本島を志し、漸く所定の荷役を完うすることを得たりき。

島上採鑛の場所三區あり。區内は足のふむところ、手のふるゝ所、すべて燐鑛にあらざるはなし。人は・つるはし・を揮ひてそこらを掘りくづし、掘くづされたる燐塊は貨車によりて運び去らる。

その鑛區の深層をなし、且その大部分をなすものは白色粘土状のもの。他に褐色鱈状の粒鑛あり。鱈状とは圓粒状をいひ、その様、獵用無烟火薬と相似、このもの鑛區の表層又はその外縁を占む。

白色粘土状鑛は褐色鱈状鑛に比して全燐酸多く：四一％：酸化鐵及同アルミナ少し：八％：これを前者六分、後者四分の割合に配合して乾燥機ドライヤーに送る。

ドライヤーは直徑二メートル長さ二十四メートルの鐵圓筒にして、これに鑛石をつめ直接、石炭火焰にふれしむ。かくて生成せられたる、いわゆる移出精鑛の成分は、全燐酸三九・八：燐酸三石灰に換算すれば八六・九二：而して酸化鐵及同アルミナ一・二％。

採掘量は一人・一日四噸。一日三百噸。一か月約五千噸。乾燥は三十餘名のもの八時間交代、シリンダー三個を通じて一日よく三百噸を完成す。

アンガウルには二百の住民あり。内地人は所員並びその家族を併せて二・三十人。而して採鑛・運搬・乾燥等の勞役に服する者は主としてヤップもしくはトラックの島民にして四百。總人員約六百をはかる。

トラック・ヤップの島民は酋長の斡旋により、來りて六か月働き、一日平均五十錢の勞銀を得後、イツ／＼と故郷にかえる。

ヤップ人の一喜一憂……山城丸の最初アンガウルを訪ひし折、怒濤の險を犯して本船上りしヤップの十數名は、彼等特有の草籠を手々に、半歳ぶりに見る故山の風色にあこがれつゝ、怡々としてデッキパッセージャーとなりし也。かくて船は彼等の長かりし半歳の僑居を後にす。彼等の欣び識るべき也。

然るに一旦パラオの港に入るや、又忽ちにして舵を轉じて舊路に向ふ。彼等の啞然たり、呆然たること推して識るべし。オヤ／＼とはこゝに最もふさわしき言葉ならむ。しかも我等は彼等のオヤ／＼に對して深甚の同情を寄するもの也。



アンガウルの地積二・三平方哩・二百五十萬坪。長徑三哩半・短徑二哩半。パラオをさる西南四十哩にありて總埋蓄量三百五十萬噸。佛領マカテア・英領オーシャン及びナウルと共に太平洋上の四大燐礦産地として知らる。

こゝ從來の精礦移輸出量百三・四十萬噸、現在の埋蓄量：精礦として：約一百五十萬噸と推算せらる。

南洋には燐礦を産する所、アンガウルの外・グリムス・トコベ・ピカル・あり又ファイイス・ペリリユーあることは已に前に述べたる所の如し。

…… アイライの殖民村 ……

舊友・助さん……八月の末、九月に入らむとするきようこの頃、パラオの曉は毛布ほしき程の涼しさなり。朝は大抵二十四：華氏七十五：度。但、夜分は溫度割合に下らずして、寢苦しきこと折々あり。

舊友・助さん、大學をいでて久しく千早ふる神路山の邊りに在りしが、近くパラオの役人となり、エボロットをつけ劍をつる。尤これは晴舞臺のことにして、平生は水色がかりし上衣に、白リンネルのズボンをうがち、頭にクタ／＼のパナマ帽を戴く。頭髮半ば白く兩頬肉おちたりと雖、象の如き眼と臺の如き口とは依然としてなお昔日に異ならず。

今日は鰐のいるといふガスパンか又はガルミスカン邊まで行くといへば：初めからソナに慾張ってはいかん。マア、アイライ邊で我慢するサ。も一遍來たらガルミスカンはさておき、もっと北方のアルコロンでもガラルドでも乃至マルキヨクでもドコへでもつれてゆこう：といふ。何にせよこの方面のおん大のいふこと故、致方なくアイライの殖民村を訪ふことゝなす。

助さん又曰く：今日は天氣も怪しく、潮の工合も穩ならずで、ランチじゃいかれん。白鷗丸をだすことにした。

船が大きいと汐時を考へにやあいかんから、我儘をいってはならんぜ：といふ。成程潮時を失ひて今俊寛になりおふせ：わたしゃたつ鳥、波に問へ：などと鷗に迄愛想をつかされては叶わぬによつて、ウム、大丈夫だとこれも素直に承服す。

アイライへ渡る……異形像のたちおるコロール埠頭をいで、アルミズの水道を横切る。西方一帶にのびたる礁湖の廣きことかな。その北方より入れば萬噸に近き巨船も相連りて錨を投ずることを得べく、附近の景色又頗ぶるよ、そゞろに好晴半日の舟遊を憶わしむ。

己にして五哩の海上を亘り、ランチによりてアラギタオ河を溯る。河幅五間許り、マングローヴ林の間を迂餘す。その黝黒なる樹幹より細く長く幾十の氣根を出したる有様は、半開のやぶれ傘に譬ふべきか。

河を溯ること數町にして上陸す。この邊、木炭を焼く者あり。由來マングローヴは堅炭をつくるによく、個人的に經營すれば本業も相當有利なるべしと。

路傍に・うつぼかづら・を採り、樹幹の蘭科植物を仰ぎつゝ・三重・沖繩の農地にいたる。

農地は東方に丘を負ふ緩斜面にありて各戸五町歩づつを保ち、一昨年九月始めて開墾に従ひ、今はすでにその大半を拓く。

こゝもと林地にして鐵分多く、雨ふれば粘り、早けば塊をつくるの赭土。但、一隅に小川の流るゝはよし。

軒端に・くだもの時計・を柵作りし、傍らにパ、イア・バナ、をうゆること式の如く、其他甘藷・タピオカ・陸稻・とうもろこし。粟・あづき・里芋等あり。アナ、スもよく、瓜類又概してよろし。茄子又よし。細けれど葱



もおひ、ふとからねど大根も生じ、はじかみ又生育す。

小屋は三間に四間半ばかり。トタンぶき・板ばり、半ばを居間、半ばを土間とし、居間には床をはり、うすべりをしく。總じて當地方には疊をかく。

土間の一方に物置く所あり。その側面にマングローヴ根の打つけあるを雅致ありと見る。

本島：バベルダオブの廣さ二十四方里、内に九部落を有すと雖、人口尙未だ寥々として新たに二百戸を移すの地積あり。今こゝに十數戸を容れ、當局指導の下、農業經營を試みつゝある也。

廳は一方、土地調査につゞきて土性調査をはじめ他方、主要作物の栽培試験を行ふ。今これ等一般の成績をあぐれば……

陸稻は六月播種せるもの八月下旬、十二月播種せるものは三月上旬に收穫す。その他これを概言するに豆・瓜類はよく、根菜類又よく生育す。茄子はさすがに十二月より三月迄收穫つゞき、反當り約七萬二千個の巨量をあぐ。西瓜又二ヵ月にして結實し、一・二月の交、反當りよく七百顆をあぐ。にんじんは六寸許のかあいらしきもの。だいこんは二尺六寸、徑は一寸五分に達し收量八千本。ねぎ又二尺七寸にのび一萬七千本を數ふ。草綿又三尺に達し二ヵ月の間開絮す。

その他生育良好のものに黍・かぶ・アメリカネリ・さゞげ・コーヒー・タバ・ジョンソングラス：等又・苧麻・いちび・サイザルヘンプ・胡椒・肉桂・木藍・とうごま・古柯あり。レモングラス・シトロネラグラス又佳。桑又良好なりといふ。

以上はいずれも相當施肥してえたるものなるが、群島の土壤たる概して腐植質に乏しからざるも、石灰・苦土・中にも一般に加里分に乏しく、これを數種の作物試験に徴するに無肥・施肥の成績は、恰かも二倍乃至十倍の差をしめす。即タビオカは二倍、たばこは三、甘藷は四、甘蔗は五、落花生は七、小豆は十倍といふの類なり。全群島の總面積百四十方里は約二十二萬町歩にあたる。この内に農耕及椰子林の適地として、合せて約七萬町歩を數ふべく、而して已に開墾せられたるもの四萬五千町歩を除き、残り二萬五千町歩を將來經濟的に利用せらるべき地積となすべし。

以上の状態を以てすれば：他方又土地調査の進捗に従ひ：全群島に移すべき戸數は約五千・二萬五千人と見るべきか。但廳として未だこれに對する財政的計劃を樹立せるにあらず。従つて本島に渡來する者は、一通り事情に通じたる上、當初一千圓内外の資金あるを要す。筆者も、忽ち生産過剰を惹起すべき現在の經濟状態を以てしては、あせりて多くの人を容るゝに異議ある、助さんの意見に左袒する者なり。

### ……パラオ丸の進水……

助さんの抱負……助さんは又、在來の白鷗丸（十噸）を頼り少しとし、さらに百八十噸・三百二十馬力・ヂーゼルエンジンの水産調査船を造る。今その内容を案するに、燃料を積むこと五十噸、速力十ノット、六千哩の航續力ありて優にパラオ・ヤルト間二千三百哩を往復し得べく、又パラオを發し・メナード・タルナテ・アンボン・バダント・トコベ・二千哩をへ・パラオに歸着するを得べきなり。

已に水産調査船といふ。電動測深機は自由に五百尋内外の水深をたしかむべく、同じく延繩揚機は引つゞき引かかる鮪を收むるに供すべく尙且、一〇キロの無線電信はよく五百哩の距離に音信を送るべし。



乗組の定員二十名といふも、この外向數十名の漁夫を搭乗せしむべく、従つて活洲・冷蔵庫・探照燈・漁艇等の設備を併有するはいふまでもなし。

この船を建造しこの船をのり廻わさむとする助さんは、一體いかにこれを活用せむとするか。

凡南洋の水産物はすでにその大略を叙したるが如く、海藻は・あぢも・類を普通とし・うみうちわ・さんごも・アガルアガル等々十數種を認むるにすぎず。海綿には良質のものあれど、貝類又前にのべた所の如し。たゞこゝに注意すべきものに眞珠養殖あり。

**眞珠の養殖**……我國の眞珠養殖が主として御木本氏の手になること今さら説くまでもなく、又その年産三百萬圓に上り、大部分を輸出すること又已に周知の事實なり。氏はパラオ灣内にその養殖所を設け・くろちゅう貝・を購ひ來つてこれに獨創の操作を施し・かご・にもり框に收め、海上に浮ぶること數年。聞く所によれば斃死率は内地の一五%に比してやゝ高きも、貝の發育程度、こゝの三年は内地の五年に匹敵すべしと。

操作といふは稚貝の外套膜をとりて徑一分内外の球をつゝみ、これを三・四年生貝の體中に收め、二・三年を経てさらに取出す。そのこれをつゝむにも又これを收むるにも、ソレ／＼さまざまの道具あり、尙これを適用するにも又一廉の技倆を要するものゝ如し。

群島水産物の漁獲高百三・四十萬圓（農産物二百八十萬圓）。その主なるものを・かつお・まぐろ・あじ・とし、眞珠・高瀬貝・その他鰹節・鮪節の相當量を出す。

**パラオ丸の行方**……われきく水産動物の多少は、破硝酸菌の作用即、窒素化合物生成の程度と、營養生物の多少と、而して又大陸柵……百乃至二百メートル同深線の海域……の廣狹とにこれよると。

南洋は以上三者において甚しくめぐまれたりとは稱しがたきも、ともかくにも南北一千二百哩・東西二千五百哩の廣範域を以てして、又類例なき珊瑚礁の發育を以てして、水産物の漁獲高百五十萬圓だに達せずといふが如きは、そも／＼天恵に狎るゝといふべきか、將又自然を畏ると稱すべきか。

今・まぐろ・かつお・漁業についてきくに、パラオにおいてよきは十一・四・五・六月等にて、よろしからぬは二・三月又は八月の如く考へられ、サイパンにては八月はよく、トラックにては一年中よろしきように考へられ、又ソンスルにては風の影響あるが如く、三・四月はよけれど無風季の六・十一月はよろしからずと考へらる。

又ヤップの南方ヌグル諸島やグリニッチ島にはおるらしく、東の方オレアイにも同様。マルシャル群島のメジナやウオッヂエにも又おるらしく考へらる。

地域内にてかくいろ／＼と考へられつゝある間に、西方サンガサンガには折田某、ケーマには中田某、アンボンには原某各々根據をすえ、その他ダヴァオには巾着網をはり、マニラにても又五・六十の船をうかぶ。

かくて我パラオ丸の行方はすべからくハルマヘラを中心とし・メナード・タルナテ・モルッカ・アムボン・バダングダをめぐる方一千哩の海域にあらざるなきか。助さん以て如何となす。

### ……孤島ゲアム……

らしきことども……ゲアム島は面積三十八方里、群島中最も大なるものにして、サイパンの西南、ロタ島を去ること六・七十哩をへだつ。地質も相當、人口も可なりあるらしく、文化の度も相當進みておるらしく、陸海軍の根據・築城等いわゆる軍備工作も從來の程度以上には進めておらぬらしく。島民にアルコール飲料を給することも



禁ぜられてあるらしく、教化診療の機關も漸次できたらしく、はた又強制労働の如きも行われてはならぬらし。

通信に關しても、マニラ又ホノル、に至る海底電線は活用されているらしきも、ヤップ間の海底電線は故障の生じたまゝになつておるらしく、小笠原群島をへて横濱に至るの線も、同様利用されておらぬらし。

人口に關しても、チャモロ族は大分いるらしく、邦人は極めて少數に過ぎぬらしく、又邦人の行くことはあまり歓迎されぬらしく、その他いかなる人々がおるかよく分らぬらし。

以上らしくを以て終始するグアムが、我委任統治區域の中央にひかえおることは我々にとりても亦アメリカにとりてもあまり心持のよき話にあらず。

六百に上る諸島嶼、東西二千五百哩・南北一千二百哩に亘るの境域、チョット隣りへといふて五十哩・百哩は近き方、しかもこの不便を調和し不利を鹽梅し、人と物とに安心と利用とを與へむには、まず通信・交通の途をひらくを第一とす。

パラオの高塔……筆者かつてカメラをたずさえて西日比谷の一角に立ち、悠々二百五十尺、新議事堂のドームと覇を争はむとする海軍省のアンテナタワーを仰ぎ、懽然としてその物にならぬを歎じぬ。

こゝにまたパラオ島ガルガサン、廣袤四萬五千坪の原頭にたち、九十メートルの高塔六基を仰ぎ、さらに懽然としてまたカメラを思いだすの勇氣を喪ひぬ。

こゝ佛國SFR會社の五〇KV高周波發電機を用ひて一萬メートルの電波を發すべからしめ、別に三キロの真空管式及入力四キロ・二五〇ワットの短波裝置をそなへ、これ等は鏈盤鑽孔器・自動送信機・高速度印字機・記録増幅器等々と相俟ちて毎朝六時の氣象は勿論、よく年々二十五萬に近き電報と十四萬に上る中繼信との受送につとむ。

群島にはパラオの外・サイパン・ポナペ・ヤルト・アンガウル・ヤップ・テニアンに無線電信の設備あり。その内地への連絡は、ヤップよりの海底電線を除き、他は一旦これをパラオにあつめ、こゝにて中繼をうけ、て受送せらるゝの定め也。

南洋に名物多し。内、通信交通に關するものをあぐれば、まず第一に上記パラオ三百尺の高塔を數ふべく、次にはヤップにある二階屋の電信局。つぎには長官の乗用たる二頭曳の馬車。又そのつぎにはサイパンにある五十臺のオート。終りにマラカルに聳ゆるパラオ港口の燈臺となすべし。

港らしき港……但、南洋にて港らしき港といふはさていすくならむ。又夜間安全に出入しうる港はいすくにあるべき。南洋の首都パラオに入らむとするさへ、まず覺束なげに佇むマラカル燈臺を目當に進み、急右廻し、さてソロリ／＼と東水道をまかるなり。やがて手さぐりに十五尋をさぐりあて、錨をおろす。それよりランチに乗り、二十分を島めぐりの氣分となり、よろ／＼コロールの埠頭につく。

トラックはまず可。ヤルトは潮流急に、ヤップには沈没船の横わるあり。ポナペ・アンガウルいすれも船が、り易からず。サイパン・テニアン共に船を一湮半の沖合にとどめざるを得ず。

但、パラオには汽艇を通すべき掘鑿工事わずかに成り、サイパン又五千噸の艦船を容るべき通航路開鑿されむとす。このもの百餘萬圓を以てリーフをきり開き、幅五十間・深さ二十七尺(?)・長さ一湮の水路を通ずるもの。惟ふにこれ等の工事は少くとも向ふ十数年を見こしての設計ならざるべからず。少々費用はかゝるとも、工事は幾多の餘裕を存し、數年をへだて、補修工事を起すが如き不經濟を避くべきもの。識らず當局者に、果してよく這般の用意ありや。



南洋にマラリヤなく……百日咳なく、又チフスなし。その他・疫痢・インフルエンザ・コロブ肺炎等ほとんどまれに、たゞ水痘・麻疹等少しく行わるゝを見る。

いわゆる熱帯病は十一種を數ふと雖、こゝ黄熱・黒水熱なく、フィラリヤ・象皮病まれに、ガンゴーズ又少し。そのやゝ多きものをアメリバ赤痢と熱帯性の皮膚病となす。

たゞこゝ熱帯病として主として島民を侵すものにフラムベジアあり。又島民・内地人の別なく一般に襲ふものにデング熱あり。

フラムベジアはスピロヘータにより、症状頗る梅毒に似たれど、又非なる所ありて往々幼少の兒童をも襲ふ。

デング熱に至りては島民と内地人との別なく、男子と婦人とを論ぜず、又老・幼を分たさるが如し。始め悪寒、次ぎに體部……ことに脚部……の倦怠を覺へ、忽ち發疹發熱して、體溫四十度に上り後、一週間にして分離す。このも餘病を引起さざること、此上もなき幸といふべく、全快後暫くの間は免疫性を保つといふ。

デングはチーレイの意、その發疹の状態をさしていへるならむ。筆者時に頭いたく胸あつく、脚部又倦怠を訴ふるところありしが、アスピリン劑・三の頓服により、しばしばこの精神的危懼を擊退するを得き。

未開の種族に藥劑の作用著しきことは、しばしば聽ける所なり。されどこゝ切開手術を施すに、急に斃るゝことあり。虫狀突起の大なることも各所において見聞したる所なり。

又所在天水を用ふるがためか、妊婦に惡阻おそつよしといふ。又島民に癰腫なしといふも、これは疑問なりといふをきゝぬ。

島民に最も多きを前記のフラムベジアとしその他、呼吸器・消化器病これにつき、外傷・眼科・神経系・寄生虫等を主要なるものとなす。即ち住居・被服の不完全は呼吸器を害し、神経系統をそこなひ、皮膚病・外傷を誘致し、衛生に對する無關心は、フラムベジア・寄生虫・結核の感染傳播を來らし、ならびに性病の蔓延を餘儀なくす。

いづくも同じ寄生虫……某公學校の検査によれば、兒童の十二指腸虫を有するもの六七%に及び鞭虫はいずれも皆これを存せりといふ。内地の小學兒童にても蛔虫を有する者六〇%以上に及ぶといへば、あまり大口を利きにくきも、糞便の後始末はより以上勵行させたきもの也。其他性病に關しては内地人・島民いずれもまけず劣らずの勢にあり。これ又苦々しき事といわざるべからず。

筆者二旬の航海中、つくづく感ぜしことは、晝夜間斷なく運轉する機關のことなり。勿論特殊鋼にて製せられ、油漬にされ、又たえず周到の注意を加へらるゝとはいひながら、この品もとゞ新陳代謝の機能を有する生物の組織・器官に比すべきものにあらす。

而してこゝに生物の組織・器官と雖、彼等島民の足の裏の丈夫さに至りては又大なる感歎を寄せざるを得ず。アノやけつくが如き珊瑚礁の上、かみそりの如くとがれる安山岩の岩角を、重荷を負ふて平然として歩むこと、生れおちての習慣とはいひながら、合點のゆかぬことどもとす。

パラオの醫院にてチネヤ イムブリガータとて、ピルツの作用により背面上半部に美しき渦狀紋を生ぜるを見き。又勇ましき文身を有する幾多の阿哥にもあひぬ。

ヤップの醫院にては藤井博士の好意により、十餘の癩患者を見るをえたり。肉づきよき妙齡婦人の、臂を肩を、



三寸・四寸とむしばみ行くレプラ菌の殘忍さと、それともしらず、檳榔かむ唇うるわしく、嬉々としてうち興する彼等の無邪氣さを對照すれば、何ともいへぬ心持せらる。

見よ彼等の一人は已に *Loewen-Antilz* を呈するにあらずや。又見よ階下の親と子とは、已に手といわず、脚といわず、濃血流れ膚脂爛壞するにあらずや。

島民の保護……ソソルには百二三十の島民すむ。近頃人口の増さぬに心づき内、四名の婦人をパラオの醫院へ送る。これを叩くに器官に故障はなしといふ。その不妊といふは、一は血族結婚の影響と二には局部の享樂的行使の慣行によるなりと。

南洋の人口すべて八萬。島民は五萬を數へ内地人は三萬を算す。方今人口の最多きものをサイパン支廳の二萬八千とし、これにつぐものをトラック支廳の一萬六千餘人、ヤルト・ポナペ・パラオ・ヤップ等はこれにつぐ。

島民の多き所はトラックの一萬五千、ヤルトの九千八百とし、つぎをポナペ・ヤップ・パラオ・サイパン等となす。他方、サイパンには現に二萬有餘の内地人を數へ基年ならずして尙一萬を加へむとす。

今これを十年前に比ぶれば、内地人の増すこと約二萬なるに、島民の増すこと二千にみたくして、内地人増加の甚しきに引かへ、島民増殖の極めて遅々たるを識るべし。中にもヤップ・ヤルトの如きは、かえつて數百の減少を示すを見る。島民の保護、これ又重要事業の一ならむとす。

……サゴ酒をくむメナード Manado 人……

メナード富士 ……メナード灣頭、美わしきカラバット岳を仰ぐ。岳は雲表にそびゆること二千二百米、その

圓錐形のやさすがたは、メナード富士の別名あるにてもしらる。その上、入江の彼方に連るトンダノの山容は右に駒が岳あり、左に双子山あり。尙その間には湖さえたゝえて、箱根山をこゝに移したる面影あり。加之ミナハサ州人の容貌・こつがら。さては皮膚の色合まで、我同胞のそれに異らず。トンダノ湖畔に行こう生徒たちを見れば全く内地人の兒供そのまゝなるも不思議に尙・はな・たけ・みつ・等の言葉さえありと聞く。それかあらぬか、州人の邦人を遇すること頗るあつく、中には彼我系統を同じくすと信する者さえありて、二百の邦人いずれも愉快に業務にいそしみつゝあり。

市場の辻……市場を見むとてまず青物市場 (*Pasar Minalassa*) に至る。外にも内にも、地上にも臺の上にも、様々のものをひろげ、喧しからぬ程に賈客をよぶ。婦人も多し。パ、イアの嫩葉と花梗・ランサとよぶビワに似たる果實・色づける檳榔子・及これと併せかむサ、ゲに似たる代物・等も面白く、又サゴ椰子よりとれる黒砂糖を徑二寸五六分の圓盤にかため、草の葉にて包みたるもの乃至、米を木の葉に包み、手際よく蒸したるものなども珍らしとながむ。

蒸すには材料を竹筒に收め、外部よりジワ〜とあぶる。在中の品は程よくむれ、竹の油もあんじよくまざり、こゝにメナード名物の馳走できあがる。うなぎ・もかようにしてむし・こゝもり・もこのようにして料理し・うわばみ・も又この筆法によりて調理せらる。

*Ikan-Pasar* (魚市場) には・くろだい・えび・かつお・の類多く、乾魚又中々に多し。こゝに口をパク〜さする・こゝい・を見しは快心なりき。

*Pasar Tjita* (雜貨店) は、棟ひくゝ内くらきことさながら往時の勸工場の如し。更紗賣る店には頭に黒き又は



えび色のトルコ帽をいたゞき、腰に縞物のサロンをまとへる男立つ。中々親切なるも一・二割の掛値はするに似、  
雑貨の大部分も又、大阪の製品なるが如し。以上いずれも市營にかゝる。

市場附近は四辻をなし、商店いらかをならべ、往來織るが如く、乗合自動車さえ十數輛ならびて北・トンダノ・  
へ赴くもの、南・ケーマへ通ずるもの、いずれも満員の勢を呈す。

こゝ人口三萬の都に二千有餘の自動車ありといへど、目新しきはむしろ小形の二輪車にして、二人の客をのせて  
カタコトと行く。と見れば又牛車の悠々轍を轉ずるあり。辻の中央にはヘルメットの交通巡査立ち、何ともいわず  
圓盤のハンドルをまわす。

カンボンボランダ……メナードにはミナハサ政廳ありて州長官あり、又選舉によらざる三十六名の議員、とかく  
の議論を戦わす。守備兵約二十・蘭人百名許。市民の負擔は所得税・その附加税と道路税とあり。後者は往年道路  
改築のため特におこしゝものにして、最低人當十五圓より始まる。

アスファルトコンクリート道も、鬱鬱たる巨木老樹の間を貫けば、ほとんど炎天の暑さをしらす。その上、建物  
は必ず若干の庭園をへだて、これをめぐらすに芝生を以てし、これをかざるに花卉を以てす。

建物又いずれも一樣の形式の下に、オランダ特有の雅趣を帯ぶ。その悠々迫らざる様は全く別莊地帯とも稱すべ  
く、政廳も、郵便局も、學校も、いずれもかような所に建ち、ホテルも裁判所も監獄も、又いずれもかような境地  
を占む。

こゝガスを缺く。水道はあり。電燈點す。電車の未だ通ぜざるはむしろ喜ばしきことゝなす。

サゴ酒とドリアン……かつてウルフ・エムデン殘忍無道の行爲は・八阪・平野・宮崎・常陸の名とゝもに我等國  
民の今尙忘るゝ能わざる所たり。かれ狂亂兒エムデンが、窘蹇身の措く所をしらず、遂に自から座礁爆沈せし所は  
實にメナードの南方一時半程、ケーマ灣の彼方ときく。

メナードよりケーマ海岸に至る坦々たる道路には、清酒たる農家園つゞき、數丈の巨木路傍に連りて、すこぶる  
爽快を覺ゆ。途にパラとて香料に供すべく、木ぶりは柿に似、果實は枇杷に似たる果樹を見き。羊桃もソココ、に  
あり。コーヒーは庭の隅、マングステンは軒先に、而してドリアン又所在におひしげる。時恰かも果期半ばにして  
マングステンにはやゝ後れ（五月）ドリアン（十月）には少しく早きを憾とす。

ケーマの濱には漁家詫しげにならび、波濤しばゝ椰子の根元を洗ふ。半島の、左より右にのび、一抹の白雲の  
まつわる所、即リンベール島うかぶ。

回々教徒の村をすぎ、しばし舊路を辿りて北にサワガンを志す。道は漸く高まり、丘を迎へ谿を送る。心行くま  
で美しき椰子林を逍遙し、簇がりおへる巨竹に驚きの眼をみはり、頗る調法なるサゴ椰子を察して、感歎これを久  
しうす。

サゴ椰子は緑色を帯びて亭々としてたつ。青き種實の簇生して房の如く垂れさがりたるも奇觀也。島民は花梗を  
截りこれに竹の穂を附し、したゞりおつる液を收む。白濁にして甘・酸よろしきに適し、半日をふれば輕量のアル  
コールを生じ、一夜をすごせば即ち一廉の酒となる。このもの島民になくてならぬ嗜好品たり。

サゴ椰子に特有なるは、その巨幹に澱粉を藏することなり。普通の椰子の花梗をきることは、やがて一本の椰子  
を失ふことなるを以て、椰子酒の價は頗る貴し。ひとりサゴ椰子に至りては、花も幹もひとしくこれ日常必需品に  
して且、かの汁液よりは雷にサゴ酒を得るに止らず、糖蜜をとり、砂糖を製し、又酢をつくる。



我等はこゝに又自然の妙趣と、天恵のあつきとに感歎これを久しくする者なり。

上品にいふも、くさつた玉葱の悪臭をはなつ、かれドリアンが、何故あれ程迄熱帯少女の歓迎する所となるか。ホテルは勿論、汽車中にも持込むことすら禁ぜらるゝといふ代物にして又、一旦これを食すれば二・三日は人中に出づるを遠慮せねばならぬといふ厄介物にして、何として又アノような大騒ぎをされることか。

ドリアンは可なりに大きく又、高き幹にみのり、熟しておつるをひろふ。しかも數時間内に味ふを要す。幹よりおつるは早朝なれば、採收者は勢ひ小屋をかけて曉を待つを常とす。

ドリアンを賞味するはひとり男子に限らず。親切なる良人はこれを妻君にすゝめ、親切なる妻君は又これを良人に奨む。但、程々にせざれば充血・逆上すべし。食すれば身體即ち暖まり春風・春水一時に至る。

トンダノ湖畔……トンダノ湖はメナードより三十キロ・二千尺の高地にあり。湖畔には市街あり、水田あり、畑地あり、教會あり。中學や・師範學校もありて二十萬の人々住む。

しかも土地高く氣すみ、日中七十五度を上らず、朝夕は冷涼秋に似たり。されば草緑りに花あかく・ばら・ダリヤ・カンナ・ライラックの類所在に咲きほこり、眞に南洋の一樂地たり。人はいふ、マニラ政府が三・四・五月の交、しばしその居を遷すてふバギオ又これと相似たりと。

行人はメナードと同じく男子は上衣・ズボン。女子は輕衣にサロン。土民は跣足なれど、他は靴をうがち中折帽を戴く。サロンは赤・黄又褐色がゝりたるもの多きも、藍色のものもあり。上下共に黒きは喪服なりといふ。

マレイ種は皮膚暗黒に、軀幹細く眼光炯々たるも、州人……ミナハサ人……は色澤・形態全く邦人と異らず。異らずといへば、犬まで耳たち、尾をまき、トンダノの一割にたてば、身はしばし故國にかえりたる心地す。

且や老人も多く、その容貌いすれもニコヤカなるなど、重ね々めてたしといふべき也。

家屋は屋根をヤシの葉にてふき、床下は高く、上に三間もしくは五間を有する長方形の建物たつ。

左右方、いずれか一方の階段をよすれば廣きベランダあり。天井に大形のランプかけらる。扉を排すれば廣間あり。こゝより奥の方、中央に廊下をとり、左右に寢室を設く。便所は戶外にたてり。

別路によりてトモホンをすぐ。この村落もよき所なり。ことにトモホン女學校の如きは、道路をさしはさみて校舎・教室建ち並び、白き壁に赤き窓、廣き芝生に緑の林、あまつさえ小川の校内を流るなど美まじき光景を呈す。

糸永氏はメナードの紳士なり。行々しきりに、氣候の溫和に……ことに十月の頃最もよく……衣食住も簡易に、州民との折合よろしく、仕事も愉快に營まるゝを述べ。筆者問ふ……卿の言によればメナードはよきものすくめにして何から何まで結構ならざるはなし。さり乍ら多きことの中には、多少の好ましからぬこともありそうなものならすや……と。氏曰く實は往々左様のご質問にあひて數々お答へに困むなり。もししいてこれをいへば、遠隔にして交通十分ならざるがため、故山の消息をきくこと少く且遅きことならむと。これは後にきゝしことなるが、幸か不幸か、氏には子女無く、従つて教育に關する人並の苦心を有せられざりしが如し。

附近に働く邦人……その數二百有餘。椰子園を經營するもの、コブラをあきなふもの、硬材をいだすもの、雜貨を扱ふもの等々あり。オランダの制度たる、土地購入は七年……特別の者は三四年……の居住者……市民……たるを要す。されど椰子林の如き、七十五年を期して地上物として求め得るの便法あり。官有地も州人を介すれば同様、手に入るゝことを得。又廣面積の未墾地ならば隣州においてすべきも、五町内外ならばメナード附近にてことかゝす。尙土人の勞銀は六・七十錢。一町歩の開墾費は六・七十圓を要するも、所詮は一人三千乃至五千圓の準備金を要すべ



く又農園として經營するならばまず千ボウ：六百町：會社としてならば五千ボウを手頃とすべし。尤必ずしも未墾地をめざさずとも、適當の時機をまたば、既墾地を比較的廉價に入手しうべしと。

メナード附近は又黒檀・籐の産地にして、いずれも少からぬ量を輸出す。ゴロンタロにしてもコプラ・籐。ボン又黒檀・コーヒの相當量をいだす。凡これ等の物資、今は一旦マカッサルへ集められ、こゝより改めて輸出せらる。他方、雜貨の輸入すでに一百万圓をいずるといへば、こゝにも南洋航路の延長、又まさに考慮を加ふべき一案件たらむとす。

……アバカにうつもるゝダヴァオ Davao 港 ……

アバカ即マニラヘンプ……その生産はフィリピン群島のみに限られ、しかも一か年の輸出量百五十萬俵内外をはかる、かのマニラヘンプの生體を窺むれば、何人と雖こゝにまた自然の妙趣と天恵のあつきとに感歎せざる者なかるべし。

一口にいへばアバカはバナ、と酷似し、なれぬ者には直ちにそれと識別しがたし。たゞアバカの莖は紅色をおび、その葉身は幅少しくせまく、すかしみてたての筋あり。且葉身の葉柄に接するところ、左右均等ならずして右の方さがる。即ち右半葉身長し。

さらにバナ、の方をいへば莖は青白く、葉身は幅ひろく、且左さがりに葉柄につく。

但兩者相ならびたてる場合において、一目これを識別することソレ者と雖、多少の難色なきにあらず。我等は兩者の葉片をとり、正しくならべあわせ、わずかにこれを諒することを得。

アバカの栽培には肥料分の豊かなる林地を拓くを可とす。數丈に達する巨木をきりたふし、火をかけて大體をかたづけ、しばらくして今一度やき、こゝに一町歩・千株の苗をうゆ。

丈け二尺ほどの苗は、元株よりかきとりたるもの。この苗十八か月をふれば一廉の株となり、爾後三か月をふれば、一株中二・三の成木を見る。

順次にこれをなぎたふし、はがして片となし、器械にかけ、壓出してえたる纖維を天日に乾燥すれば即、いわゆるマニラヘンプなる商品生ず。

さればフィリピン政府の、この株の輸出を嚴禁するもさこそとうなづかれ、又この栽培次第にひろがりて、已に八萬町を拓き二百六・七十萬擔を産し、しかも、尙日に月に盛況を呈するも又道理とうなづかる。

アボの峯そびゆるところ……メナードの北方、海上をさる三百五十哩。北緯七度の地に東京灣を五倍したるほどのダヴァオ灣あり。この灣頭に影をひたすものにアボの峯あり、屹立三千二百米、正にフィリピン第一の高峯となす。

さらにその東方に聳ゆるものにマッキンレー山あり。ルーズベルト岳あり。これ等の山麓をこめ、岳腹をめぐる四萬町歩のアバカ畑ひろく。内、我同胞の手にあるものその半ばをすぐ。

ミンダナオ島はルソン島と南北相對し、フィリピンの二大島をなす。大いさ北海道に匹敵し臺灣の三倍を占め、農業可耕地として四百二十萬町歩を有するも、今は漸くその七分を利用するにすぎず。人口又百萬に上らず。

ダヴァオ州はこの内にありて、我四國の廣さ……七四八六平方哩……を有し、人口を收むること十二萬人にすぎず。ダヴァオ州内の農耕適地百萬町歩。而して既墾地十餘萬町といへばこゝ又漸く一割を拓き得たるに止まる。



この地に農業：アバカ栽培：を営む邦人の會社四十三・投下資本一千餘萬圓・土地三萬町・而して已に二萬餘町歩を耕し、四十餘萬擔の生産をあぐ。

ダヴァオ町は海岸より北方にのび人口約一萬を數ふ。新開の氣分を脱せざる埠頭より、オートをマングローヴ樹林の間に走すれば、須臾にしてプラッツらしき辻にいづ。こゝより遠からぬ帝國領事館の所在地は、むしろ野趣をおびたりと稱すべく又、ご大禮記念として建築せられたる日本人會の破風造りは、少からず遊子の意を強うするを得。

ダヴァオ小學校・州立病院、さては州知事官舎の清楚なるは羨むべきも、邦人・小學校・旅館・商店のいずれも相當の内容・品位をたもてるは嬉し。

知事ヘネロソ氏は壯年有爲の士、さきに三年の任期をおえ近くサレナス氏と争ひかちて再び現職につく。ミンダオ島八州の内、ダヴァオ・ザンボアンガ二州のみ知事の公選行わる。もと議員をおくの制度なるも、今その任命なく、統治は知事と三人の副知事とによりて行わる、

タロモとミンタル……タロモに太田興業の本社あり。ミンタルに太田恭三郎氏の記念碑たつ。ダヴァオが今日の盛況を呈し、この勢を以てすれば州内邦人の數、二萬をこえむとするの状態を呈すること、もと太田氏の識見と努力とに負ふものあり。

ことは明治三十六年の頃、マニラよりバギオに至るベンゲット道路二十五哩の開鑿に始まる。當初アメリカ政府はこれに島民を使役せしも、その結果の抄々しからぬより、邦人の労働者一千五百人を聘してこゝに工事を完成せしめぬ。太田氏は以上の労働者中より百八十八人をえらび、これを當地へ送り、こゝに初めてアバカ栽培の端緒、

開けぬ。

太田氏がこれ等のの人々と起居を同じくし、よく缺乏にたえ艱苦を忍びしことは、眞に儒夫をして起たしむるものあり。かくて明治四十年に至りて株式會社成り、爾來斯業の先驅者として、遂に今日の基礎をきづく。

太田氏は不幸四十餘の壯齡を以てして、尙且甚大の期圖を抱きつゝ中道にしてたふれたりと雖、その名はアバカのたえぬ限り傳はるべく、現に：日・米・比・三國人の協力より成れる記念碑はミンタルの故地にそゝりたち、永えにその功績をたゞえつゝあり。

アバカの畑を察するはタロモより始まる。ダヴァオを西にダヴァオ川を渡り、海岸に近く太田興業の事務所に至る。倉庫中にはしきりに荷造りをなしてあり。大體、麻挽場にて三・四種に分類したる、長さ十二・三尺のものを、こゝにてさらに十二・三種に分ち、品別・秤量して商品となす。一俵は二擔。倉庫の内には積みて山をなす。

倉庫事務所は芝生を前にして椰木林をひかへ、近く浪のさどめきを聴く。階前いろ／＼の花さきほころうちに、もくせい・よくにおひ・アラマング・あざやかに・カデナデアモール可憐にほころぶ。叢にすだく虫の音もなつかしく、窓邊にたちまふ・ほたる・の姿ことにめでたし。

ひろきペランダの眞中、大形の椅子により、貝殻ちりばめたるシャンデリアの下に緩談すれば、數々の珍事奇聞續出す。

まず近くの河にあらわるといふ鱒の話。このものゝ牙は厄よけとして婦女子に喜ばるゝといふこと。タシエールといふ奇怪千萬なる動物の話。アポにすむ特殊のワシの話。そのワシを某貴公子がかりにゆかれし話。ワシはとれざりしも兩性者の研究をされたること。モロ族やバゴ族の風俗・習慣。又まれには人魚もこの附近にてとれると



ふふこと等々……

タロモ附近の曉は膚少しく冷やかに蚊帳の内、何物か、けねばすまぬ程度なり。大抵午後くもり夜、降雨す。くらふに・たひ・かつお・さばの類あり。味ふに・バナ、・アナ、ス・パ、イヤ・のたぐひあり。

タロモはダヴァオより二里。ミンタルはタロモより又二里。州道はオートを走らするによろしく、沿道の電柱に若芽をふきいることも異様に、オートの相踵ぐも裏南洋にては見られぬ光景なり。従つて所々に：DANGER：SHARP：DOWN：SLOWなどの標せらるゝも、必要且親切なる處置と感ず。

この邊よりアバカの林はじまり、大小の農場はマッキンレー山腹、一千米に及ぶ。バンガ・バヤバス・タグラ等の地には邦人の成功せるもの多く、そのバヤバスの吉田山より展望すれば、唯見る視界の及ぶかぎり、峯も谷も、いずれもアバカならざるはなく、人をして思わす快哉を叫ばしむ。

アバカの栽培……バンガに佐藤某あり、十年、太田農場に小作し、やがて地をトし、老婦と共に人夫七名を使役してこゝに五十二町歩を經營す。

五十二町歩の擁する所五萬二千株。一町歩最高四十五擔を數ふるものもあるも、平均三十擔として年收一千五百擔。かくて、今後二十年は、毎年少くとも一萬圓を剩し得べしと。

今個人經營につきて叙すれば、大體一町歩を完成するに五百圓を要すべく、その内譯はまず下拂ひと稱して林地の下草をかり、柵を設けて巨木をきりたふし……たなざり……一か月をおきてこれを焼く。これ等は二月の末までに取行ひ、さて苗を運びてこれを植附く。以上に約百人を要し二百圓、これに苗代及び運搬費等を加へて二百五十圓とす。つぎに苜取に至る迄六回の除草を行ふ。この賃銀百十五圓。

而して開墾に四・五か月、開墾より植附迄に若干月を要し、それより生長に十八か月を要するを以て第一回の苜取……はなびき……は開墾着手後四年目に行われ、約八擔を得べく、三か月後に行わるゝ第二回の苜取には約十八擔の收穫あるべく、これ等の諸費用を合せて結局一町歩當りの諸掛りを五百圓と見る。

收穫はこれより三年間、最大量四十擔をつゞけ、爾後年々五・六擔づつを減じ、二十五年に至りて十五乃至二十擔となる。かくなれば株を植かえるを得策とす。勿論此間特に肥料を施すにあらず、唯苜屑を株間にのこし、随時ひき屑を撒布するにすぎず。

ダヴァオ州の農耕地約一萬町歩内、既墾地十餘萬町……麻四萬二千・いね一萬三千・椰子一萬一千町歩……を除く自餘の地積は大部分官有地にして、これを拂下げ又は租借するにはフキリッピン人。アメリカ人。又はフキリッピンもしくはアメリカの下に組織せられたる法人にして、その株式の六割一分以上が、フキリッピン人又はアメリカ人の手にあるものに限るとは、大正八年發布、現行土地法の規程なるを以て、實際上、邦人もしくは邦人の組織せる會社はより以上の廣面積……一千二十四町歩を限り……獲得することを得ず、従つて邦人の有する農地は現に有する三萬町歩の上にいづること能わざるが如し。

されど規定されたる三十弗を示して上陸し、簡單なる邦文を讀みて入國諮問をすませ、契約移民にあらざること  
を明かにし、帝國領事館に在留登録の手續をすませたる邦人の壯年者は、さらに進みて成功の道程につき、豫期の  
目的を達すること決して難しとなさざるべし。

即、これが順序として當分麻山の除草・手入れ等に從ひ、やゝ季候と事情に慣るゝに及び、麻挽の請負をなす。  
かくて相當の貯蓄生ずるをまち請負即、小作に從ふ。



これが一法に、開墾より植附・手入・麻挽等一切を請負ひ、全生産品賣上高の八割五分を收得する方法あり。  
又一法として麻株・麻挽機械は先方より提供せしめ、請負者は除草・手入・收穫・麻挽等を負擔して、同じく賣上高の六割を收得する方法もあり。

右は小面積の經營なれど、資本の如何によりては會社組織とし、よく數百町歩に亘りて前法に準じ、或は純請負をなし又は半請負をなし得べく、かくてダヴァオ州の容るゝところ尙數千人を數ふべく、他の七州の收むるところ尙數萬人に上るべし。

麻の挽屑は多くは空しく工場附近に委棄せられ、所在つみて丘をなす。近くこれよりパルプをつくり製紙の原料に供するを見る。肥料の問題もさることながら、パルプ作業亦閑却すべからざるもの。

モロ族とみつばち……モロ及びバゴボといふは、この地、固有の民族にしてその數も多く、いわゆる非耶蘇教徒中の錚々たるもの也。土民の婦女は官有地廿四町歩を獲といふ事實あればにや、この一婦人と慇懃を通じたる邦人あり。然るに好男子共棲數年にして糟糠の妻をすて、ひそかに邦人の群に逃れ去る。妻ならびに族人追ふて及ばず。モロ族即ち議して曰く……もし果して本人を見出し得ずとすれば、誰にてもあれ一日本人を拉し來り、これを極刑に處するより外なし……と。かくていひようなき不安は在住邦人の間に漲り、百方慰藉、わずかに事なきを得たりといふ。

附近の山々に一種偉大なる・みつばち・すみ、多くは數丈の樹梢に巢くふ。これがつくる蜜は良質にして多産、頗ぶる人々の珍重する所となる。これをうるには樹下に煙をおこし、蜂族の昏迷に乗じて手早く採集す。されど誤つて徒らに附近を擾がし蜂王國の平安を害せむか、十數の尖兵ます至り、數千の騎蜂つぎ、追蹤又追蹤、全疆を覆

ひて亂刺するに至りてはじめてやむ。しかもこれを追蹤するや、いずれの所いずくの場所たるを問はず、よし家中ののがれ群集の間に投ずるも、蜂群は終始その本人を識別して、聊か累を傍人に及ぼさず。ことごとくに及びては本人は遂に逃るゝゆえんを識らず。唯萬死に一生を僥倖せんには、猶豫なく手近かの川に飛込むの一策あるのみ。但、ソンジヨソコラの川々には、たいてい獐猛なるわに族の、大口あいて待設くるを忘るべからず。

フキリッピン議會……かのモロ族……スルーのモロ族……連署してフキリッピン總督閣下に陳情書を呈し、州知事ゼームス・プゲット氏を排しそのソルタン、ハマル・キラムをこれに代へむことを求む。

これが理由として曰く……スルーの一般人は、ソルタン・キラムを公正なる知事として認めつゝあり。けだし現知事プゲット氏は、ほとんどすべてソルトタンの總意に支配されつゝあり。一般民衆は果していずれが知事なるやを識らざる也。尙プゲット知事は、州廳に於ける知事の職務よりも、自己所有のプランテーションに、より多くの關心を抱きつゝあり……と。

總督デヴィス氏はその就任の當初に聲明すらく……フキリッピンの政治的將來を決することは總督の任にあらず。但、その政治的未來の存する基礎に直接關係ある諸問題は、これを解決せざるべからず。而して政治の基礎中その最も必要なるものを官吏の正直となす。余は新聞紙及一般人士が余を援けて、この官吏の正直を主張すべきを信じて疑わす……と。

フキリッピンの制、總督・副總督……文相を兼攝す……大審院長・判事・會計検査院・同次長等々十三名は米國大統領の任命にかゝり、總督はさらにその上院の協賛をへて、各大臣以下の官吏を任命するの規定たり。上院は二十六・下院は九十三名の議員より成り、議員はいずれもフキリッピン人に限り、公選により、英又はスペイン語、も



しくは土語を読み且書き得る者。或は直接國稅三十ペソ以上を納むる者。不動産五百ペソ以上を有する者。等より選出せらる。而して一か年三千ペソの賣上あるものは、其一分五厘を納めて即、選舉權を有することゝなる。

總督デヴィス・副總督ギルモア・會計検査院長ハモンド諸氏は、いずれも有爲の材にして上院議長ケソン・下院議長ロハスの二氏また並々ならぬ逸足たり。

廣袤十一萬五千方哩・人口一千二百萬・歳入出各々七千萬ペソ・輸入二億七千萬・輸出三億一千万を計上する、フキリッピンにも、今や外にはジョーンズ法、内には土地法の蟠踞するありて、如上の人材又これが斡旋・折衝に多事ならむとす。

かくて又年々のフキリッピン議會には幾多、邦人ならびにこれが經營の事業に關し、とかくの論議の交わさるゝことあり。されど諸州が邦人の努力により次第に産業の開發を見、従つてフキリッピン自體の富も次第に増加するてふことは、全く争ふべからざるの事實にして、而してこの事實も、幸ひにしてまた幾多有識者の認むる所となりつゝあり。

……郷さんと語る……

あゝ今日は法院……にいつて面白い公判を傍聴しました。酒類規則違反の正式裁判で、エラウスイといふ青年外三名が被告であつた。

被告はいずれも筋骨の逞しい若者で、カヌーの一艘づつもち、中には兄弟と共有だが、相當の椰子園をもつてゐる者もある。その上、南買だの御木本などにつとめて月々二十五・六圓の収入もあろうといふものどもサ……

事のおこりは、エラウスイの所で屋根のふきかへをした時、手傳つた三人に、お禮心で一杯つけたのがたゞつた譯だネ。シカモ一本の泡盛をうるためにめぐらした方法は、苦心慘憺たるものがあつたンだネ。

ダガ考へてみりや氣の毒にもなるネー。ダッテ我々は、ナンゾといふと一杯……どころか：幾十杯もきこしめして、時によると島の名物とか何とかいつて、ソコへ大勢よんで踊りをさせたりなんかするじやないか。それで彼等ば一寸一杯で、すぐ酒類取締規則違反といふことになる。

ウム……ナルホドネー。ソリヤそうだ。家へ引こんでねてしまへば天下は泰平だが、いゝ心持になつて、フラ〜往來へでてこられてはたまらんナ……

勿論、島民だつて皆が皆、酒すきといふ譯ではなからうが、多くの青年や、いゝかげんなおやぢが、しかも公學校の卒業生ともあろうものが、酒類取締規則違反の三犯だの、四犯だの、凶状もちであつては困る。長官のご心配もお察しするヨ。それに三個所の検事局の受理處分事件約三百、人員にして六百人の内、半分以上は例の規則違反といふではないか……

ダガ、あの通譯はうまいものだネー。ずいぶんむづかしい言葉を、よくもあんなにつかひこなすことができるネー。ナルホドあれが法院の名物男かネー。

何か、この外……検事の論告に對し……申立てることはないかとの間に對し、四人が四人とも口を揃へて……とんだ心得違ひを致しお手敷をかけて申譯がございません。これからは生涯、酒をのむようなことは致しませんから、罰金の所はどうか軽減していただきたい……と申述べたには、何だかこう、あわれつばいのような氣分になつたネ。ウム……そうかネー。そこは親戚や友達が協力して、いつも金を調達してやるのかネー……



近頃、酒をのむと気分があらくなる傾向があるといふが、全くかネー。酒の上の失態も失態だが、酒を手に入れるために悪知恵をめぐらすのも面白くない事柄だネー。ナルホド正月とか祝祭日とか又は一日なり十五日なりに限つて、大目に見るといふことも考へ物かネー：マアお互ひがなるべく辛抱して、よくないお手本を示さぬことが第一だろウネー……

學 校 も……面白かつたヨ。敷地も廣いが、見晴らしがすてきだネー。そして又あの大木がいゝ。ざんぎり頭の赤ふん姿も氣にいつた。唱歌や手工もうまいネー。國語も二年たてば一通りできるといふネ。これも一學級の兒童數が多くないおかげだネ。

タビオカやアナ、スをつくるにもお手のもので、これもいゝ思ひつき。農藝にしる、手工にしる、簡単な勞作を課して、幾分か報酬を得させ、それを積立て、圖書だの・器具・器械だのを購入させるように奨めたら面白からうネー。そこは學校にもつと土地を與へるがいゝネー。そして又補習科をもつと活用させることだネー……

統治とか同化とかいつても、もとは感情の融和と正しい諒解サ。心からの親切も、産業の指導も、言葉が通じなけりやむつかしい。統治後十年をへた今日、四十以下の者でどの位ひ國語がわかるかネー……人數かい……人數だけなら、半分・三萬位ひはあろう。デモマア、確かな所は公學校をでた者だろウネー。

エート公學校の數が二十いくつ、卒業生がまず六千、現在の就學兒童數が三千、それで毎年六・七百づつ卒業させる……それでは心細いネー。五萬の島民だから就學兒童數は現在の二倍あつてほしい。そして前にいつたように補習科を充分に活用させる。何といつても島の事は大體島の者がやつてゆくようにするのが本當サ……島民も大分お役にたつてゐるようではないか。お膝元の工事にも従事してゐるし、アンガウルでも働いてゐるし、産業試験場で

おかほ・などを作つていたのは心丈夫の感がした。巡警にするなんども結構なことサ。ところで内地の教育は行づまつたといふが、南洋の天地に一つ活教育の範を示して當局者の惰民を覺ましてはどうかネ。

それにしても兒童の顔色はよくない。寄生蟲のせいだヨ。しひて洋服をきせたり、むりに靴をはかせたり……かあいそりに……することはいわば末サ。それよりまず第一に・おちようず・の始末をすることを徹底させるんだネ。これが行届けばあとの事は自ずから解決するヨ……全くだヨ……

文化とか開發……とかいつても、あせつて民度にあわぬようなことを強行するのはよくないネー。彼等には長い歴史もあり、古い習慣もある。培われた思想もあり、養われた情操もある……すべてはまず十年計畫で、それで倦まず撓まず、正確に着實に、その地歩を進めることだと……その通り、全くご同感だナ。

又一方からいつても、この、コセ／＼した世の中には多少、物にゆとりがあることが、むしろ必要だネ。一方里に二千六百といふ人間がウジ／＼している日本だもの、又こういつたような別天地があつてよい譯サ。人間のはけ口は又ほかにその所があらうといふものだから……

産業の開發……だつて、上の要領だネー。由來裏南洋の産業といへば砂糖に、椰子に、アンガウルの燐鑛ぐらひなものではないか。

椰子栽培の奨励も結構だネー。これも十年計畫カネ。マア特産物の生産額を増すといふ點からいつても、島民を保護・指導するといふ點からいつても、これに上こす仕事はない。ダガ、目星しい土地は島民の手にあつて、内地人に譲渡することを禁ぜられてゐる現状で、果して奨励のみで、その目的が達成されるかネ。他方に例へば、軽度の地租を課するとかいふような、多少強制するような方法をとらんでも……



南洋興發もご盡力で着々進行・發達したネ。エエ：もう南洋廳の經濟は自給自足の域に達する：まことにご同慶の至りで、全くアンタが何事をも犠牲にして、南洋の：大名主：を以て、満足もされ、又自負されただけの甲斐はある。

ダカネーその：大名主：の勢力範圍たる、南北一千二百哩・東西二千五百哩は廣いと申せば廣いが、その東南には又ほとんど同大の廣面積が接し、西南には又別に方一千二百哩の天地がつゞいていて、これらはいずれも：大名主：のご出張をまつているでは無いか……

それにしても日本の漁民はえらいネー。アノ巧妙を極めた漁法。板子一枚、下は地獄を何とも思はぬアノ勇氣。これらはとうてい他國民の企て及ぶところでは無い。

そうだ：彼等はいつのまにやら北海道を拓く功績者となつた。又いつのまにやら樺太開拓の先驅となつた。近くは又沿海州に腰をすえ、カムチャッカからベーリング海にその覇を唱へている。

：大名主：のお膝許でも然りだと：その通り、全くその通り：表南洋でも又その通り：フキリッピンではマニラ・ダヴァオ。ボルネオではタワオ。セレベスではメナド・ブートン。その他、ハルマヘラのテルナテ。セイラム島側のアンボン。さてはニューギニアのマヌクワリ。濠洲では西にチモール海、東に木曜島。これらは皆勇敢な我日本帝國民が、ひとしく：海の幸：をあさつてゐる所だからネー……

この現象はお説の通り、ひとり我日本漁民の勇敢さを物語るのみでは無く、我國民の抑えむとして抑えることのできぬ氣魄の發露で無くてはならぬ。左様／＼：換言すれば我日本帝國そのもの、制すべからざる對外發展性のあらわれで無くてはならぬ。

しかもこれには彼等の生活にとり、必迫せる經濟的事情が伴ひ、尙且、我國民の生存にとり、深刻な生態的根據が實在しているのである。

ダカラ：これを抑壓しようとしても、とうてい抑壓しおろすことはできぬ。たゞこれを適當に指導し、又これを適法に統制することによつてのみ、自他の平和と幸福とを享受することが出来るわけだ。

ソコデ：大名主：が一つ、大いに乗出さなくてはならなくなる。

：バラオ港を改修してこゝを：南洋前進根據地：とする：全く賛成だネー：こゝに港灣の設備をとゝのへ、大小の漁船は勿論、五千噸以上の船も夜分、何等の心配なく出入することの出来るようにする：同時に又物資・資料の供給所。調査・研究の本源地。指導・取締の本據：とする。それでこそ：大名主：たる甲斐があり、委任統治の眞意義をあらわすものといふべきだ……

委任統治といへば：大名主：の鼻は高いネー。一體、國際聯盟なるものは日本帝國にとつてどんな意義があるのかネー。

由來日本の外交は一體、何を基調としていたのか。言ふことは大きくなるが：日本帝國の職責：といふはどういふことカネ……

イヤ眞面目に考へてもらはなかりやいかんよ。

國際聯盟における日本帝國の立場はダン／＼困難になつて來たネー。ヤガテ日本は孤立しなければならんかも知れんネー……

しかしどうだ。毎年この四面楚歌の裡にあつて：大名主：の出される：南洋委任統治成績報告書：のみはいつも



百點満點で、いつでさえ、誰でさえ、これに一指をふるゝ者は無い。このところ：大名主…の鼻はどれだけ高いか分らない。

しかもこのことは即、我日本帝國の、南洋開發に特殊の…他の企及しえざる…技倆を有することを證明するものであつて又、疑も無く如實に、我國の南洋統治に對する成功を立證するものである。

一體スペインは十四年間にどんな治績をあげたのかナ。ドイツは十六年もかゝつて一體何をしたかナ。オランダは又あれだけの地積を擁しつゝ、どれだけ文化に貢献しているのかナ。英國はアンナに廣大な土地を領有しているながら、一體何人働いていると思ふ。

僕にきいても分らぬ…と。それはそうだが、フキリッピンは君、十年後には獨立するといふんだぜ。

全くお説の通り：南洋の産業を拓き南洋の文化をすゝめうる者は、支那人でもできない。アメリカ人でもできない。英國人でもそうだし、又オランダ人でもそうだ。

それでは一體どこの者でどこの國だ。それはいふまでも無くひとり我々日本人の手腕にまち、我日本帝國の努力にまつあるのみじゃあ無いか。

加之我同胞は一か年百萬人近く増加する。男女兩性の割合が歐米各國とその選を異にしている以上、これはどうしても致方が無い。そして六十年毎に人口を倍加しなければならぬ運命にある我々は、主はあつても手をつけぬ…否手をつけることのできぬ…廣大な海と陸とを眼の前にし乍ら、指をくわえ手を拱いて、空しく傍觀していることができるであろうか。指をくわえ、手を拱いて徒らに自滅をまつていゝことができるであろうか。

ソリヤそうだ。我々は他國の領土を侵そうとか、他國の住民を征服しようとかいふ考へは毛頭無い。又そういふ

ことは天地公道の上から許されない。

要は關係諸國と充分の諒解をとげ、眞に共存・共榮の根本義の上にたち、互ひに協力・協心して、自他の繁榮・相互の幸福を増進するにある。

關係諸國の諒解かネ。由來外交下手の我國人はモットく、勉強せにやならぬが、しかし何事も誠意だネー。もし關係諸國：他の國々にしても…が假りに我國と同様の立場にありとすれば、探るところの方策は全く同一でなければならぬ。この理法を卒直に、又不斷に、強調したなら、我誠意の貫徹せぬことは無いはずである。なまじビク／＼して、奥齒に物のはさまつたようなことを言つたり、したりするからいかんのサ。

帝國外交の基調：日本帝國の職責…かい…ソリヤいふまでも無く…東洋平和の確保…一本槍でよい。これほど重大で又、これほど意義の深いものは無い。但、東洋とはいへ、その境域は海と陸とをかね且、北洋より南洋に亘るべきで、すべからく天地の公道に基いて、この境域内にある住民の安寧・幸福を圖ること、このことはやがて又、まずこの境域内における…文化の普及と産業の開發…とを方策となすべきである。

ダガこの方策を實現するめには勿論アンタ一人の力では叶わぬ。中央部でも從來の行掛りを一掃して、少くとも外務・拓務・農林・海軍の主務大臣は終始・協調・協力、これを國策として、倦まず撓まず、目的遂行に邁進せねばならぬ。

そこで又…大名主…の職責はいよ／＼ますます／＼重大となるわけだ。

デこの重責にたゆる者は、南洋の狀勢を審かにし、從來の經過を悉知し、而してこの重責を自覺する者で無うてはむづかしい。言葉をかえていへばアンタでなければこれを達成せしむることはできな。



この意味において、どうか呉々も、世論に迷はず、榮達に心ひかれず、一意専心・自重自愛・終始國家のために  
貢献せられむことを祈るのである。

蓬

菜



## 蓬 菜

……こゝも又常春の國……

我等さきに南洋に航し、北緯二十度のサイパンより零度に近きメナードの地に遊び、普ねく熱帯の風物に接し、深く萬物成育の旺なるに感じぬ。

萬物生々……この國またかしこに類し、野に山に、畑に庭に、いずれの所にも常緑の蔭ふかく、常緑の蔭ふかきところ、又旺盛なる成育の力を見ざるはなし。

但、この力をたのまざる者は衰へ、この力を強ゆる者は疲る。唯這裡の環境にあり、優々としてこの力を適用する者は榮ゆ。

こゝに榕樹ありマンダロウヅあり。檳榔もあり椰子もあり。バナナ・鳳梨おんらいは前栽にみのり、バラ・龍眼は後園に繁る。或は亭午の小憩をマンゴの蔭にとるべく、或は夕涼の樂を相思樹さうしじゆの間におふべし。

甘蔗かじちやは十六ヵ月にして登熟し・いね・は二たびうえて六月と十一月にとりいる。茶と桑とは十數回もかり、村の娘は茶つみ唄に興するひまなし。

あひる・にわとり・ぶた・類の繁殖の早きことかな。蠣かきの如きも年中とり得。養殖といへばこの國、特有の魚にサバヒヒといふものあり。このしろ・に似て大きく且ひらたし。春三月、あるかなきかの稚魚を掬ひ四月、池に放つ。池には特別の仕掛けあるにもせよ、五・六分の小魚は年末六・七寸にのび、目方三十匁に達す。もしこれを翌年の



末まで飼へば、一尺にのびて優に百匁をはかるべし。

この國も又常夏の里にして又まことは常春の國なりけり。

但その位置・地勢……は各種の状態をして、かれこれその趣を異にせしむるを見る。即、これを緯度に鑑みるに、この國の奥の間にして名實ともにそふなる恒春こうしゅんは北緯二十一度半を示すも、南洋の玄關口たるサイパンは尙それよりも二度を下る。

東京の溫度は平均十四度、月々の平均に三度より二十五度半の高下ありて、その差實に二十二度を示す。

臺北は平均二十一度六にして、十八度より二十六度の間を昇降しその差約八度。然るにこの國の樂土・恒春においては平均は二十四度三を示し、最低二十二度・最高二十八度、その差は僅かに六度にすぎず。

南洋にては二十六度を平均溫度とし、その高低の差は僅かに一・二度を示すにすぎず。これをこそまことの恒春といふべけれ。

大いさにおいて、南洋諸島の百四十方里はこれをこの國の二千三百三十二方里に比べて物の數ならず。されど又物は考へかたによる。南洋の領域を東西二千五百哩・南北一千二百哩とすれば、この國の二百倍ともなる。

我等はいつも晩夏・初秋におこる暴風に膽をひやす。このもの多くはトラックの西に發し、ヤップ・パラオの邊にて活動をはじめ、西北に進みて本島をおそひ、本州に近づいて東海道より上陸す。

高砂島……本島の暴風に惱まざるゝは、その進行の遅々たるによること多し。即、本州においてはその中心進行の速度、速きは六十哩、平均三十哩といふに、本島においては平均十一哩、遅きは七哩、かくて風伯・雨神は緩々として猛威を全島に逞くしたまふ。

風向・風勢・溫度又雨量の如何は地形に左右せらるゝこと大、而して又これ等のものは生物の成育には勿論、風土・人情に影響すること又もとより鮮少なからず。

東西ひろきところ四十里・南北は百里・周圍三百里・而してその面積二千三百三十二方里の高砂島も、まことは中央山脈その脊梁をなし、シルビヤ・水社・新高・海岸・の諸山脈さては大屯火山彙等蜒々蟠廻し、これ等はやがて七千尺以上の峯を抽くこと無慮百十有五。されば總面積の七割は山嶽を以て覆わると稱して不可なく、かくて高砂島は……蓬萊山……となりおふす也。

蓬萊の山……一か年の平均雨量は二千四百三十三ミリと稱す。これをヤップの三千五百。ポナベの三千九百。さてはパラオの四千四百ミリに比すればいずれも遙かにその下にあれど、同じカムチャの里なるサイパンの二千四百に比すれば正に伯仲の間にあり。

こゝは又位置・地勢の關係上、期節に興味ある現象をあらわす。

大體冬季と夏季・雨期と乾燥期とを別つも、同じく雨期とはいひながら南・北兩部において又異なる現象あり。

即、北部の雨期は十月に始まりて翌年の三月に至り、この間を通じて霏々としてふりつゞく有様は、さながら椽雨に異らず。

然るに南部の雨期は五月より九月に亘り、この間、時に雷鳴を伴ふ豪雨を降らし、従って少からぬ慘害を生ぜしむることあり。

季節風……高砂島はとかく東北風……季節風……に影響せらる。北部地方の、十月より半年の間、連日の霖雨に惱まざるゝも水蒸氣をふくむこの風の、崢嶸たる山嶽にふるゝより生じ、同じき間、中・南部……新竹・苗栗より



以南：が殆んど雨を見ざる上、時に濛々たる塵埃のため村を襲はれ家をつまらざるも、又ひとしくこの風のいたすところ。

この風も、この雨も、かの砂も、住む人には対策もあり、利用もあり、乃至又思ひきるすべもありぬべし。たゞ我等觀光の客にとりては、いずれもありがたきものにはあらず。我等にしてもし選擇の自由を有すとせば四月、もしくは九月下旬より十月初旬の交を以てこの常春の國を訪ふを可なりとせむ。

……地圖をひろげて……

旅 程……地圖をひろげて旅程を案ずるに、この國を一通り視察するには往復七日・在島二十日、合せて二十七日の日子を要すべく、もしこの上、東海岸を巡らむには別に六日を加ふべし。

即、東京驛を午前の急行にて出發すれば、翌日の午前には下の關につき、その正午には、すでに一萬噸級の船に上りて關門海峡をすべりいづ。

門司・基隆間は：復航：約五十三時。船中に二夜を送れば三日目：東京よりすれば四日目：の午後には既に基隆の岸壁にのぼるべし。

基隆の見物は二時間にて足る。後、汽車一時間、人口二十七萬の臺北市にいたる。

臺北の宿は鐵道ホテルか、はた吾妻か。要は洋・和いずれをとるやの好尚による。

臺北見物は總督府：しかもその高塔よりの展望：を振出しとし、目星しき個所を二日に亘りて觀る。中央研究所や。西門市場や。植物園などは初めての人に多大の興味を與ふるならむ。

南國の大觀……第七日には縦貫線を利用して二百三十四哩を南、高雄市にいたる。臺灣の風趣は汽車の走るがまま次第に窓前に展開し來る。これをこれ九時間の長尺フィルムに譬ふべきか。

高雄まで南下すれば數歩をふみだして恒春までいって見たきもの也。この地、北緯二十二度にあたり南國情緒のいよ／＼濃やかなるを見る。

高雄に二泊してソロリ／＼と北を指す。臺南もおちつきあり：定めし諸君の氣に入るべき：都會にして且、附近視るもの少からねば、こゝもまず二泊の豫定となすべし。

第十一日は新化の糖業部と烏山頭の嘉南大圳とを視察し、その夜は嘉義に宿る。

嘉義に一先、荷をおろし：多少の冬仕度をして：一日がかりにて阿里山に登る。

塔山に鼻つきあわせ、開農臺に新高山脈を遠望し、尙又スキッターの偉力に驚く。筆者が少からず眠月の名稱に感服せしはこの折のことなりき。

山容水態……第十三日は阿里山を降りて嘉義市を察す。製材所や農事試驗場は閑却すべからざるもの。市場亦面白し。

第十四日は虎尾に大日本製糖の大工場と大栽培地とを察し、こゝにいかどの砂糖通となる。さて又これより分岐し、汽車・臺車・轎・三様の乗物を利用して日月潭に赴く、今宵のお宿は潭上、三百尺にそびゆるこの地唯一の涵碧樓たるべし。

午前の二時間を名高き水電工事の視察にすごし、山を降り、畑をばせ、員林、彰化、鹿港を訪ふて臺中市に入る。第十六日は半日を臺中の見物にあつ。こゝもよい所、ことにゴミ／＼せぬところが身上と思ふ。



午後より苗栗、こゝより臺車の厄介になりて後埔溪谷を遡る。ゆるく、廣東部落の風俗を察すべし。その夜は日本石油、出磺坑クラブの厄介になる。

主なる産業……第十七日は午前を油井の見學に送り舊路をたどりて苗栗にいで、さて新竹市まではしらす。苗栗・新竹間は約一時間なれば新竹に入りて一通りの見物をすませ、後ユックリ休養することを得。

第十八日はまず平鎮にて烏龍茶の講釋をき、それより角板山を志す。すでに阿里山へ登り日月潭を察したる我々はこゝに角板山をも見残すまじといふも一説、又これを割愛してよろしとするも一説、そのいずれに従ふやは、ゆるさるべき時日の如何による。

第十九日には板橋に下りて近郊の氣分を察し且、臺灣の三井・岩崎・林本源氏の別墅を訪ふ。但、その一族は臺北に、又他の一族は神戸に住む。林家の財産は六・七千萬圓といふも、往年豪奢の生活ぶりはこゝにその一端を想見し得べし。

臺北に歸着する間もなく、わずかにつかれを一浴に慰し、第二日は蘇澳に赴く。

東海岸は……宿るところ蘇澳か宜蘭か、それとも又礁溪か、ともかくにも少々ばかり東海岸の氣分を味ひ翌日三たび臺北へ入る。

臺北にては第二十一日を訪問等にすごし、翌日は誰もゆく草山より北投の地をドライブす。尤午前は淡水を視るを忘るべからず。

第二十三日は午前に、のこる用事をすませ、午後早く、基隆へ向ふ。

サロンの卓上、ビアを酌み、ご機嫌ようの挨拶をかわせば、船は間もなく悠然として纜をとく。

……海上三夜……汽車一夜……次の朝は東京歸着……

### …… 一路 南へ ……

これより急行列車によりて南を指す。臺北の近郊に板橋あり。近く宏壯なる林本源の邸園あれど、汽車の上よりは望みがたし。

桃園丘地……桃園附近には果樹さかゆ。こゝは廣東人……粵族……のいちやく拓きしところ。桃樹はそのもたらせしものといふ。水田もあり、相思樹の植林も多し。さつま芋の花さけるも興多かり。

いね・は七月に植えたるものにて十一月にこれを收め、いわゆる第二期作なるもの。折から風をおそれ、株をくみて地上にふさす。水牛・黄牛・さては竹の子笠頂きたる農夫の姿など、いずれも物珍らし。

桃園の地、又灌漑の工事成る。溝を拓き畦を治め、水を通ずること無慮二萬二千餘甲、世に桃園大圳と稱せらるるもの。

この邊又茶の産地として識られ中樞の東、平鎮には茶樹の試験場あり。又三井の製茶工場あり。しかも沿線の圃場は熱帯地特有の赭土……ラテライト……にして茶樹の勢ひ頗る揚らず。

桃園よりは、東南二十三哩にして角板山の勝地に到るべし。

楊梅附近にて地勢漸く隆起し、湖口に至れば右方遙かに海を望む。稻田をへだつる小川にそひ、林投の立ならべも異趣あり。左方の新埔は、ぼんかんの名産地、麻豆文旦と共にその名高し。

紅毛に至れば可なり大なる緩傾斜の丘陵を迎ふ。いさゝか滿洲邊の面影あり。但、かしこにては高粱みのり、こ



こにては甘蔗さかゆ。

新竹平野……は鳳山・中港・兩溪の沖積層地にして氣宇自ずから宏濶。水田・蔗園相交わり相連る。

新竹市は五萬の人口を數へ、もと福建人・閩族……の來り占居せしところ。海岸には木麻黃・琉球松を栽植するを見る。

海岸といへば油車は古來製鹽地として聲名あり。

苗栗驛頭には臺灣特有の臺車、數輛ひかふ。これ等は苦力によりて二呎の軌道を石油の出礦坑、樟腦の大湖へ運び去らる。

臺灣において石油を出すところ、出礦坑の外、竹頭・通宵・甲仙埔・牛肉崎等を望みありとす。

掘割の間をやゝしばらく進むに、こゝかしの土手に月桃生ふ。

漸く登れば數重の山脈は左方に蜿蜒し遙かに次高の雄姿を仰ぐべく、車は遂に一千二百尺の十六份驛に達す。

總じて新竹平野は帝國製糖會社の勢力範圍に屬す。

大安溪を渡れば後里に蔗苗養成所あり。こゝにて優良の苗を仕立て、會社をしてその中間圃場に移さしめ、さらにこれを農家に交附せしむ。

コンクリートにてかためたる・おくつき・をこゝかしの望む。内地の多角的・立方的なるに反し平面的・圓周的なるが珍らし。

蔗園・米田相つく……もと……ころとん米……の産地として知られたる豊原より、海岸の方面に大甲・清水の庄あり。

山手の方には東勢庄より八仙山に入るべし。この邊、大日本製糖の工場たつ。

かくて車は一百哩を馳せ、小京都の稱ある臺中の都へ入る。

臺中はそのかみ劉銘傳によりて省城とせられしことあり。今尙六萬の人口を有し、兵營あり學校あり、會社あり、新聞社あり。その他、青果物検査所にてはバナナの市を見るべく、農業倉庫にては粳・玄米の山を検すべく、鑛井水道にては物すぎき水勢を認むべく、外に七十四區を劃し百萬圓の賣上ある消費市場。一千七百坪に十五萬圓をかけ、月々一千數百圓をかせぎだす貸店舗に、當事者の技倆を察知すべし。

彰化・員林の地はつとに肥沃・豐饒を以て識らる。農家が、水田の間ところ／＼に竹藪を以て取圍まるゝ有様は、内地沿線のソレと異らねど、その藪蔭や土手ぎわに・バナナ・林のつゞきたると、青田のこゝかしこより白鷺のまひたつ姿とは、また珍らしきものとなす。

この地方又・柑橘・鳳梨の栽培、且は家畜、ことに養豚に名あるところ……

彰化・鹿港……は市街の舊態を存するを以て名高し。ことに磚をしき覆を頂く鹿港の市街の如きは、對岸においても稀有なるものときく。鹿港附近又有數の製鹽地たり。

稻作は恰かも第二期作にあたり、立毛の東北風にうちそよぐ有様はめでたけれど、遙かの空に砂塵の濛々たるには少からず興さむ。車窓又しば／＼閉鎖を餘義なくせられ、二十三度の温室中、夏服の行客をかこたしむること一再ならず。

員林・北斗・南投の三郡には大日本・明治・帝國・鹽水港の諸工場ありて、恰かも群雄割據の勢を現す。

二水には増澤某氏あり、熱帯植物の數十種を栽培す。

日月潭は二水驛より東へ外車埕まで十八哩を汽車にてゆき、臺車を五城まで走せ、轎にのりて一里七町を水社に



達す。この間、人は……

臺灣第一の濁水溪……鉛色の流れと、麓より谷、谷より峯を覆ふ・バナナ・の畑とに眼をみはり、並びに地圖を案じて、陳有蘭溪にそひて進む八通關ごえ、埔里より霧社をすぐる能高越、及びタイヤル蕃地を縦断して羅東に達するピアン越の難路を想像し得べし。

濁水溪を流ればやがて臺南州となり、その虎尾には大日本製糖の大工場そびゆ。南方に北港の媽祖廟あり。三月廿三日の祭日には、殆んど全島の士女を集むるの盛況を呈す。

臺中にて辨當を認めたる我等は、午後三時には嘉義市に着すべし。こゝに營林所出張所・同製材所・中央研究所農業部支所、嘉南大圳組合事務所等あり。吳鳳廟亦詣るべく、人口六萬の都は街路井然として快し。

市場にまこも・たけのこ・ひし・パラ・木瓜・釋迦頭・佛手柑・愛玉子等を見て興じたる行客は、さらに農業部や林業試験所に、蓮草やパラゴムの木やシッソ Dalbergia Sisso や尙コーヒー・橄欖・マンゴー・アボカード・サボデユラ・さてはパンの木等にさらに幾多の興趣を覺ゆるなるべし。

興趣といへば、嘉義ホテルに宿りて、テンノ／＼カン／＼の鍛冶屋の槌の音に和して……ヘン……ニー……デー……の賣聲をきくも又その一。

嘉義より東、四十四哩の鐵道によれば即、阿里山に至ることを得。

嘉義をいづれば・いね・をかる。それより七分ばかりすれば右方に……

北回歸線……の標塔を望む。行客は北緯二十三度二十七分四秒の地點をすぎて恰かも今、熱帯圏内に進みたる也。見ればマンゴーも蕪然としてしげり、檳榔も亭々として屋をめぐる。溫度又二十五度、夏服をまとひて且少からず汗ばむ。

新營附近は茫漠たる甘蔗の畑、一望四・五百町歩にも達すべきか。こゝ山の手には温泉場の關子嶺あり、海近くに製鹽地の布袋あり。間の鹽水街は、鹽水港製糖の名の因つておこるところ。

北は虎尾、南は新化に達して廣きこと十五萬甲に亘り、多くの看天田を良田に化せむとする嘉南大圳、烏山頭の溜池は、番子田驛をさる東方二里にあり。池は曾文溪の流をたゝえ、無慮五十五億立方尺に至らしむ。

こゝ及び新化の中央研究所糖業科はいずれも必ずゆいてとふべきもの……

虎頭埤は水郷情緒を味ふべき一勝地、麻豆街は文旦や白柚を味ふべき一名地……

かくて臺中より百哩にして臺灣第二の大都臺南市に達す。

臺南近くの沿線にはサイパンに多き・ランタナ・さきみだれ・セレベスにしげる・刺竹・家をめぐり、ダヴァオにて見るが如く電柱に若芽ふく。

臺南・高雄……臺南市は人口十萬餘。遠くは鄭成功、軍兵々船をひきいてゼーランジャを略取せることあり。近くは北白川宮殿下軍旅の間に薨ぜられし御事あり。詣づべき所に臺南神社・孔子・關帝廟・開山神社。觀るべき所に赤崁樓・公園・赤崁城址(安平)・製鹽會社(同上)・鹹水養殖試験場等あり。この地又十月十五日まで海水浴場を開く。

これも一度は埤圳工事をやりかけし二層行溪をすぐれば、西に烏樹林の鹽田あり、東に旗山の勝地あり。總じて善化以南の地は臺灣製糖の栽培區域にして、かくて岡山・橋子頭・楠梓等の驛々をすぐれば、よう／＼今宵の宿り、人口七萬、臺北より九時・二百三十四哩をへだつる高雄市につく。

高雄市はもとの打狗。明快なる新市街也。ことに壽山、もしくは高雄神社の社頭より望めばこの感ことに深し。



港は砂糖・肥料・米・バナナ・セメント・木材・石炭の集散盛んに、又魚市場・蓬萊水産・鳳梨罐詰工場等をも察すべく、東郊にいではマンダロウの叢をも見るべし。

高雄・溪州間二十九哩を潮州線となす。鳳山街は高雄より東五哩にありて鳳梨の本場として知らる。行客はこゝにて色も香もあるスムースカイエンを賞味すべし。

無線電信所・後壁林製糖工場・ゴム栽培を主とする藤井農園等はいずれもこの附近の名所たり。

曹公埤圳は延長十數里に亘りて一萬餘甲に上る。

下淡水溪の鐵橋、虹の如くかゝること五千呎、工費百三十萬圓を費して東洋第一の稱あり。溪は流程四十里、濁水溪の四十二里に一籌を輸するも、河口より上、十四里に船を通すべし。

屏東・恒春……屏東に至れば熱帯の氣分漸く濃厚。街區・榕樹・椽果・龍眼の老木所在に綠蔭をなす。臺灣製糖の工場・第八聯隊の飛行場等いずれもその大を誇るべし。

潮州は潮州米の産地且、郡役所の所在地にしてこゝより南、枋寮まで五里三十町、オートを走らすれば一時間。恒春までは十八里にして約三時間。途、車城より石門に至る間に九重溪：四時景：の溫泉場あり。

恒春は北緯二十二度、その平均温度は二十四度、而して最低最高の差僅かに六度にすぎずといへば、眞に恒春の名にそむかざるを知る。人口一萬四千。こゝの林業試験支所にては熱帯植物の數々を、同種畜支所にては印度牛、殊にシンド種・カンクレージ種による改良種を察すべく尙もし餘勇を鼓せば、さらに車を南にはせて大板埤に捕鯨業をみるべく、さらに臺灣の極南、鸞鼻にたちて、空を覆ふ澎湃たる怒濤と、九天にそゞりたつ燈臺とを併せ仰ぐべし。

…… 茉莉花の香り ……

一莖の茉莉花……筆者のポケットノートに一莖の茉莉花をさしはさむ。花はかつて平鎮茶業試験所にて採集せしもの、爾後すでに幾十の日子をふるも、その香りは依然として衰へず。しかも餘香は馥郁として紙片をそめ、衣袂に薫ず。ことにノートを開きて茶葉の條下に及べば、清香の脉々として立のぼるを覺えずんばあらず。

臺灣における茶園は四萬六千甲に上り、よく千二・三百斤の：烏龍・包種・ならびに紅茶：をつくりだし、ほとんど全くこれを移輸出す。

翻りて内地をみるに、栽培面積は八千町を讓るも、生産額は五倍に達し、輸出額においてはかれこれ伯仲の勢にあり。

茶の名所……あらかじめこれ等の状勢を識り且臺北・新竹・ことに新竹州が斯業の本場たるを識れる我々は、ここにこの荒涼たる茶園を瞥見して、しばし東道の友人を顧みざるを得ざるものあり。

友人はまづ茶樹の栽培には、礫質粘土にして表土深く有機質に富み、透水性あるも、常によく水分を保つことを適地とし、且弱酸性を好みてアルカリ成分を嫌ふことを説き、尙この邊一帶のラテライトも、施肥・管理そのよろしきを得ば、倍額：一甲九千斤：又それより以上の收量：をあげ得べく、しかもそのかくのごとくならざるゆえんものは、小作期限の短きにすぎること、その契約の不確かなること等より、農夫の力を入れざるによること多しと説く。

平鎮驛を東へはするに、右方土壘の高きは、林氏の手になる溜池といふ。左方には新しき公學校も見ゆ。桃園大



圳の説もいで、昭和埤圳の企をもきく。

試験所は右方小高き所にあり。クロタラリアは黄に、テフロジアは白く咲きほこりたる間を圃場へ進む。

いそがしき茶つみ……竹の子笠の上、さらに紺布こんねのの頬かむりせる女五六人、サラ／＼と嫩葉を刈るは、長閑なる茶摘にはあらでいそがしき茶刈也。しかも今は冬刈也。

この地茶の木は繁殖は壓條……取木……による。まず三月より六月の頃これを行ひ、一月より三月の間にうつしうえ、適宜の除草・耕耘を加へて三年目より摘採す。

剪枝は行わず、八九年をへて株を刈る。茶刈は毎年四月上旬より十一月中旬に亘りて十三乃至十七回に及び、二三十年より四・五十年に及ぶ。

茶のいろ／＼……従来此地方にて栽培せらるゝ黄柑種くわいかんは紅茶としてはよきも、包種としては不向に且、烏龍茶としても適當なりといふべからず。これ等に好適なるものに大葉烏龍と青心大有おんと硬枝紅心とあり。又收量劣れど青心といふは上々の種類たり。これ等は適當に施肥せば、生葉七千斤より七千五六百斤をあぐ。たゞ黄柑といふは多産種にて、現にこの圃場においても樹齡四十年のものに大豆粕・過磷酸石灰等約百六十圓を施し、甲當一萬一千斤の收量をあぐるを見る。

内地の茶はほとんど緑茶なるが、臺灣の茶は包種と烏龍とに大別す。包種は産額四百萬斤・烏龍は七百萬斤・いずれも約二百萬圓に達し烏龍は合衆國、包種は蘭領東印度を最大のお得意となす。

而してこの包種・烏龍ともにいゆる半醱酵茶の部類に屬し、中にも包種はその三・四分に止めしめしもの。その出來上りの色合も、包種茶は黄金色をおび、烏龍茶は橙紅色を呈す。

緑茶はことさらまず蒸熱を加へ……煎茶……もしくは釜炒を施し……釜炒緑茶……醱酵作用を阻止し不醱酵に終らしめ……たるもの。紅茶はこれに反し萎凋・揉捻の後、特に醱酵室において醱酵箱を用ひ三〇度以下の温度、九五度以上の湿度の下、六・八種の厚さにかさね、三―五時間に及び、葉莖部の鮮銅色を呈し、特殊の芳香を放つに至る迄醱酵をとげしめ後、水分五％以下にまで乾燥したるもの也。

香味色澤……以上の各種につき成分上の差異を検するに、その變化の著しきものを單寧・茶素・脂肪となす。即、單寧は醱酵せざる緑茶に比し醱酵の進みたるものほどその量を減じ、茶素は紅茶は緑茶よりやゝ増すも、烏龍・包種に至りては著しく増加す。脂肪は紅茶において約半減し烏龍・包種においてさらに一層減少するを見る。

烏龍・包種においてはさらに再製の法をとる。結局粒を揃へ商品價値を高むることゝ、再び火にかけて色澤香味を増すことゝにあれど、包種は温度をやゝ低くし又多くは花香を附す。

花香を附する……賦香……には黄枝花くわちなし・秀英・樹蘭・又茉莉花を加ふること十二三時間又二十時間後、大部分をさり、その幾分を存して包装す。

その他の種類……茶樹の品種は中々に多し。中手にして大株、收量も多き・埔心・といふものあり。又株は小に收量も多からねど、烏龍に適する・白毛猴・と稱するものあり。晩手にして枝葉密生、よく八千斤を收むる・猫耳・と唱へらるゝものもあり。その他可憐なる・時茶紅花・あれば、偉大なるアッサム種 *Camellia thea* var. *asamica* Mostars もあり。

黄枝くわちなしにも薄葉・漳洲・大智等の種類あり。これ等は初夏花さき・樹蘭・秀英これにつゞき、茉莉花又これにつゞ。

十一月の交・樹蘭・又ほころび・秀英・について又芳香を吐く。



終りに合衆國は綠茶・烏龍茶の得意なること。この國への輸入總量九千萬ポンドの内、綠茶・粉茶・烏龍茶を合して二千九百萬ポンド。セーロン紅茶二千六百萬ポンド。印度紅茶千九百萬ポンドを數ふること。包種をより以上フキリピン・蘭領東印度・佛領印度・シヤム・等へ輸出すること。烏龍・包種の支那輸出を恢復すること。紅茶の産額をまして移輸出を努むべきこと。等の特記しておく。

……出 礦 坑……

後壠溪畔……苗栗より後壠溪畔にいづるまで、野をはしり村をすぐるの道はずいぶんともに長かりき。それより溪を右にしてトンネルをくぐり掘割をすぐる途も、又ずいぶん長かりき。但この間、廣東部落の風俗、ことにキビくしたる廣東婦人の行動を視たるは、けだし忽倖の幸といふべし。而して又この邊、耶馬溪に劣らずと主張せる東道の某氏に對し、然らばこゝは青の洞門かと酬ひしこと等は、車上のつれづれをいやす一服の清涼劑ともいふべかりき。

この長き軌道は尙、南進して大湖街に至る。これも臺灣軌道會社經營の一つにして、このもの他の諸線と併せて八百哩に上り、これ等は約同様の鐵道と相倚り、ひろく國內の交通に寄與しつゝあり。

後壠溪も又厄介なる河川の一也。この邊、河原の廣さ七八町に亘るべく會社：日石：が力を入れてかけ渡せし數十間の鐵線橋も、あわれや先度の出水に押流されて、今は二條の鐵管を力に、風に吹かるゝくものすゝに異らず。

我等は石ころ道をトボくと、よう／＼對岸の事務所へたどりつく。

起伏せる鑛區……こゝの鑛區を一覽せむには、第一號インクラインによりて四百メートルの高さに達し、帆を行くこと約半里、ついで又ケーブルカーに運ばれて六百四十メートルを登る。この間幾十の油井あり。十數のタンクあり。工場もあり。宿舍もあり。學校もあり。校舎もあり。

かつて北越の地に幾多の油田・油井を見學せし我等も、後壠溪畔より起りて直ちに觀音山脈に連り、千波萬波の如く起伏する本鑛區の地勢を見ては、一方ならず奇異の感を覺ゆるともに、少からず當事者の苦心に敬意を拂はざるを得ず。

但、棟々はばら／＼にたつも、人々はちり／＼にすむも、棟と棟・人と人・乃至人と棟との連絡はつゆ、そこなわるゝこともなく、相より相むすび、こゝ一都會を現出するぞめでたき。

ロータリーと鋼索鑿井……頂近くのロ式第四十八號井は、八百八尺の追掘により、しばらく日に一千石を出せりといふ。

我等は程遠からぬ第五十八號井につき、鋼索鑿井の一斑をうかゞふことを得たり。このもの五旬に近き勞苦酬われて、今一息にて油層に達せむとするところ。プルホールの鋼、ほとんどのびてドリルリングツール數百メートルの地中に降り、ピットマンさかんに上下動して、テンパースクリュー數々加減さる。鋼索をにぎる二人も、エンジンを守る一人も、いずれも皆眞摯の氣、眉宇に溢れ、緊張の態、全軀に滿つ。懸命とは眞にかくの如き状態の謂ならむ。

汲上げられたる淡褐色の原油は、パイプによりてタンクに運はれ、集められてまず一〇%の揮發油を分離され、さらに我等のきし道を鐵管によりて苗栗の製油所へと送らる。



こゝにて重ねて揮發油を分離する、こと約一五%、つゞいて各々三〇%ほどの輕油・燈油・抽出せられ、あとに一〇%ばかりの重油のこる。別にピッチ・パラフィン類の生産さるゝこと式の如し。

錦水のガス坑……同じく日石の經營に錦水のガス坑あり。一日、水二千石と共に二千立方尺のガスを噴く。このガスは直ちに燃料に供し得らるゝも、壓縮又吸收の方法によりこれを揮發油に變ぜしむることを得。

こゝ出礦坑の噴油量は、かつて一日三百石、年額にして約十萬石……一萬六・七千噸……と稱せられき。但、臺灣における燃料問題は未だ切迫せざるが如きも、現に三百萬石の木材をきりて薪炭となし、百五・六十萬噸の石炭をほりて大部分を消費し、乃至三千六百萬擔のバカスをそのまゝ汽罐に投じつゝあり。

こゝにも又燃料政策……他方、我國の石油消費量は已に二百五十萬噸を突破しその大部分を輸入に仰ぐ。これがためには、さきには石炭を熱して五百度に昇らしめず、コークライトと共に原料の一〇%にあたるタールを得べき低溫乾溜案ぜられ、ついで無限の原料を以てして、採油率五%を確かなりとするオイルシェールの乾溜計畫たたられ、近くは又石炭に高熱・高壓を加ふることにより六五%にあたる油を得べき石炭液化法提唱せらる。

かゝる内外の狀勢に鑑み、我等は近く、かの嘉義の南より高雄の北を蔽ふ油田帯より、何等かの好消息を得んことを冀ふと共に、燃料政策に關し又永遠なる計圖のたてられむことを望まざるを得ず。

### ……バナナと椪柑……

ことしの晩秋はよくよく果物にめぐまれたるものかな。大邱の苹果・サイパンのマンゴー・員林のバナナ・鳳山の鳳梨・麻豆の白柚・これ等は續々としてこのせまき僑居におとづれ來り、小兒をたのしませ、妻君を喜ばせ、

かつは主人の自慢となり、ひいて來客の禮讚となる。

臺灣の鳳梨……但、ありていにいへば臺灣の鳳梨は思ひの外に不味なりき。アノ琥珀の如き色合、部屋中に漲る

芳香、乃至とくるが如き舌觸りは、不幸にしてこれをこの地に見出すこと能わざりき。

高雄の産にクラッシュドパインアップルあり。罐詰製造の際、生ずる屑よりなるものなるが、このものかへって風味あり。且その價も恰好なれば或は思ひの外に歡迎さるゝやもしれず。

罐詰の移輸出も俄かにその量をまし二百七十萬打・五百餘萬圓に達するはまことに結構のことながら、六千甲の内、在來種尙八割以上を占むるといふが如きは、少からず考慮を拂ふべきこと也。

椪柑類のかず……椪柑類も四千五百甲・五千萬斤・近き收穫あり。椪柑は實にこの半ばをすく。

これにつぎては桶柑。斗柚と文旦とはおっつかつにして前者の方幾分多く、雪柑は遙かに少し。たゞ我等のこれとは思はるゝものに白柚あり。樹も一萬餘、甲數も五十をいえず。所産亦もとよりいまだ寡少ないと雖・ざぼん・のつややかなる膚と、文旦の穩やかなる味に、なお甘酸兩味の漿液を備へたるところは、惟ふに都人士の好尙に適するものといふべし。

ぼんかん・の、いはゞヌーボー式の味ひにも、一種すてがたきところあれど、アノ去るにかたく、のむにもろき内皮には少からず閉口す。我等はむしろこれより弾力にとむ温州を禮讚すべし。

近頃禮讚すべき新品種に小夏あり。又の名をニューサム・マール・オレンジといふ。もと宮崎に生じて土佐にさかえ、よろしく世人の注意をひき來る。形も大ならず、内に甘皮なきにあらねど、外皮をむき圓き實をサラ／＼と削りて皿にもる。その上品なる色合と味ひとは、たしかに・ざぼん・文旦の上にあり。しかもこの小夏の特徴は、その名



の示すごとく夏季、卓上にあらわれいづるにあり。

夏季、食卓にのぼすべき種類に・夏みかん・とグレップフルーツとあり。いずれにしても少からぬ砂糖を加へ、峻烈なる酸味を調和して後、これを賞鑑す。されどこれにはそれ／＼の好尚ありて、萬人向とは稱しがたし。もしこゝに小夏類似の品種をつくりいだすことを得ば、臺灣の柑橘業は或はバナナの壘を摩するやもしるべからず。

バナナ君の繁昌……バナナの栽培は二萬甲に近く生産又二億八千萬斤、その價格五百五十萬圓。移輸出額又七百餘萬圓といへば所在、土手のかげ、農家の脊戸、ソソコラになみいるバナナ君に對しても、少からぬ敬意を拂ふべきに似たり。

我等は苗栗の奥、後隴溪にそふ山村にさえ、婆娑たるその影を認めてやゝ意外の想ありしが後、日月潭への途次、水裡坑驛後、滿山のバナナ林を仰ぐに及びて、全く驚きの眼を睜りぬ。

さらにトロを濁水溪畔に進むるにあたり、屏風をたてたるが如き山ふところに、又この林の斷續せるを望むに及んで、恰かもミンダオ島の一角、アバカの林を逍遙するの感を去ること能わざりき。

正直にいへば我等は在臺中、南洋にて味ひしほどの品にであわす。この點少からず豫期に反せし憾はあれど、何といふても臺灣の果實としてはバナナをその第一位に推さざるを得ず。

バナナの産地としては臺中州を筆頭とすべし。こゝ總生産額の半ばを出す。高雄州も名所にはあれど、これに比すれば遙かに下る。

これ等は……臺中にていへば……同業組合所屬検査所の嚴選をへ、臺灣青果株式會社の手によりて内地の荷受組合……輸出は組合の直扱にて指定の組合・會社・商行等……へ送らる。

生産者は検査所搬入後、遅くも二週間にして代金を受領し、會社は一割の委託手数料をうけ、内七分を荷受組合に、三分を會社の収益に、而してその内のさらに一分を同業組合に歩戻しするの規定也。會社の資本金は百五十萬圓、その設立は大正十三年ときく。

收支計算……この國のバナナに七種あり。北蕉・は平地に・仙人・は山地に作らる。植付後八ヵ月乃至一ヵ年にして花梗をぬき後、二・三ヵ月をへて收穫せらる。

植付本數は一分……一反……に百三十株、收量は平地と山地、又地方によりて差はあれど、大體反當一千三百斤より三千五百斤なるべく株は四年目に更新せらる。

今、員林における一例を案ずるに、第一年には七割の株より一房づゝ……平均二十五斤……を採取し、第二年には八割五分より平均三十斤、第三年には六割七分より平均三十三斤づゝを收め、百斤の價を四圓五十錢とすれば……

……一分……	收量……	收入……	支出……	差引……
第一年……	一三〇〇斤……	一〇三圓……	九九圓……	四圓……
第二年……	三三〇〇斤……	一五〇圓……	八八圓……	六二圓……
第三年……	二八七〇斤……	一三〇圓……	一〇三圓……	二七圓……

の計算となる。但、支出中には農會・水利組合の費用・地租等の諸掛り並びに農舍・農具費・土地資本利子……小作料……等をも計上す。尙勞賃として男八十錢・女六十錢・牛付人夫二圓二十錢を加算するときは、第一年は(四〇圓。第二年は三三圓。第三年は(七圓の差引勘定となる。

一方發送・販賣の場合を考ふれば、大體京阪地方へ送るものは基隆より神戸へあげ、關東へ送るものは高雄より



芝浦へあぐ。即、臺中・臺南の組合は主として關西へ、高雄の組合は京濱地方へ販路を有するものにして、これらの地方にては一籠…七十五斤…の價五・六圓を唱へこれより生産費と出荷諸費とを差引けば生産者の手取り…純收益…は、高雄よりするものにて一籠平均四十五錢、基隆よりするものにて同じく一圓内外にあたるにすぎず。

椏柑はまず三年生の苗をうゆること一分に八十本。栽植後四年までは缺損となるも、第五年には百九十餘圓の收入ありて十餘圓の益金を見、第十年には五百十八圓の收入ありて二百七十圓の益金あり。爾後數年はおもむく状態を保持し第十五年には下り坂となるも尙二百圓をあますべし。こゝにては百斤を十三圓五十錢と見る。計算の基礎・方法等又大略前者に同じ。

……甘<sup>かむ</sup> 蔗<sup>ちや</sup>……

山野をおもふ甘蔗畑…人もし臺灣の地をふみ、野に山に、村に里に、至る所に甘蔗の影を望み、及び地圖をのべて、十一會社の原料採取區域なるものが、無慮六十四萬甲の廣面積に達するを聞すれば、誰人と雖、想ひを甘蔗栽培の上にそゝがざるものなかるべし。

思へ六十四萬甲といへば、臺灣の全面積三百七十一萬甲より、林野二百六十一萬甲を除きたる百萬甲の六割四分にして、恰かも全耕地面積八十四萬甲の七割六分にあたる。

尤、この八十四萬甲内の四十萬甲が、その適地と認めらるゝといふも、それにしても四十萬甲といへば臺灣における水田の全面積とやゝひとし。

臺灣の製糖業者はつとに…明治三十八年より…いわゆるその原料採取區域を定めらるゝことにより、必然的に各

自區域内の耕作者より所用の甘蔗を購入し得。このことは又當事者の指導獎勵と相俟ちてその耕作を改善し、種苗を向上し、及び收量の増進を圖ることを得。

三十年前…糖政樹立…明治三十五年…の頃普ねく使用されし種苗を・竹蔗・といふ。一甲の收量四萬斤・歩留り七・四%・作付反別一萬六千甲・全産糖額又五千萬斤を數ふるにすぎざりしが、ローズバンブーのハワイより舶載せられ、一甲の收量十二萬斤をいづるの成績を示してより、漸くバンブー全盛の時期を招來しぬ。

然るに大正初年の暴風はこれに大打撃を與へ、ついで病害虫の蔓延となり、その慘害は遂に一甲の收量を半減…二萬三千斤…せしむるの甚しきに至りぬ。

かくて栽培反別十萬甲・一甲五萬斤・歩留り一〇%近くの成績を示せしは大正四・五年のことにしてそれより後さらに爪哇大莖種の舶來あり。臺灣實生種の育成あり。これ等は耕作・栽培・ことに早植、ならびに蔗苗更新等の學と相俟ち漸く斯業を良導し、やがて現況に達するの機運を作らしめき。爪哇大莖種の二七二五又二七一四は舶載後十年をへてひろく各地に栽培せらるゝも、近來二八七八盛況を呈するに至る

早植更新…大體、苗は十二月より四月にかけてうえつけられ普通十六ヵ月をへて收穫せられ、十一月より五月の間を製糖の時期となす。然るに南部地方にてはその雨期を利用しうるより、従前よりも一層早く…七・八月より九・十月に亘り…うえつくる、いわゆる早植を獎勵しいます。

この早植面積は今六割以上に達せるが如く、これに用ふる種苗は主として…一六一POJ…一〇五…三六…三六M…又いわゆる大莖種等となす。

この早植普及と蔗苗更新…それも三年以内に全蔗園を一更新せしむるもの…とは、前記の蔗苗・栽培の改善と共



に次第に収量増加を實現するに至る。

収量といへば臺南糖業試験所に偉大なる標本あり。二七二五種にして草丈十六尺・一本の重量九斤半・これを甲當にすれば五十萬斤。但、施す所の肥料は堆肥二萬貫・硫安三百貫・過磷酸石灰百五十貫・客土五十萬貫に上りしといふ。

斯業の經營……斯業の元老、臺灣製糖株式會社の創立は明治三十三年にして、その橋仔頭工場は實に臺灣における新式製糖場の鼻祖たる也。傳ふる所によれば當時一面、土匪の強襲あり他面、農家との折衝あり、従業者は劍をおび銃を擔ひて業務を辨じたりといふ。

製糖業者對耕作者の關係、中にも原料獲得、ひいて米作との關係については、始終微妙なる因果現象あり。此の如くにしてある會社は耕地を購入して自作に努め、ある會社は新たに原野を拓きて自作もし貸附もし、又ある會社は水田を借入れて年々増加しゆく購耕料に苦しむ。

こゝに列記する一經營法は、あらかじめ……五・六月の交……規程を公示し、これを諒承する者に約定書……甘蔗耕作約定書……を添へて植付を申込みしめ……いわゆる書面契約を結び……然るのち種々の便宜をも與へ獎勵をもほどこし、かくて收穫物を買入れ收得することとなす。

書面契約……即、植付品種は二七二五、その他特に指定されたるものに限り、甲當二萬本をうえ、間作はなさざることとなす。

金肥は指定せる調合肥料を甲當二十畝以上施すこと、但、現品は貸附し後、清算すること。

七・八月にうゆる者には毎甲六十圓、九月にうゆる者には同じく四十圓の早植獎勵金を交附す。

但、一甲の収量は六萬斤以上なるべく、又前者には毎甲八十圓以内、後者には同六十圓以内の耕作資金を前貸すること。但、これには月八厘の利子を附すること。

排水溝の浚渫又新設には補助をなすことあるべく、嘉南大圳に屬する甘蔗耕區には埤圳維持費たる甲當金八圓を交附することあるべく及び灌排・栽培・原料調製そのよろしきを得たるものには、別に獎勵金を與ふること。

本期原料の買入値段は千斤に付金四圓とし成績によりては五錢より二十錢迄の額を、或は加へ或は減すること。收穫はレフラクトメーターにより成熟の度を檢し、すべて指定をうけて指定の貨車につみこむこと。

こゝ今……十月下旬……八月にうえたるものと、十一月より十二月にかけて收穫するものとの二種さかえ内、後者大部分を占む。現に植付けつゝあるは、いわゆる補植にしてこのもの普通、一割はありぬべし。かくて製糖は十一月より始まりて五月に至る。

砂糖需給の大勢……昭和七年期臺灣に於ける甘蔗栽培の現状は作付十萬甲、收穫百三十四億萬斤・一甲當収量十二萬六千斤・製糖十六億四千萬斤・歩留一三・一％○を示す。これを十年前に比すれば作付において三萬甲を減ずるも收穫において約倍加し……一甲當り七萬九千斤……を増し、従ひて産糖額七億萬斤・歩留り亦二・五％の増加を示すを見る。

由來我々は下ノくらい砂糖をなめるべきか。まず朝、紅茶をのみてスプーンに二杯。晝、來客のお相手に角砂糖二個。晚、七・八時の頃つかれやすめの一杯にスプーン二杯。而してこれを妻君に叩けば、スプーン一杯は一匁二分・角砂糖一個は一匁七分をはかるといふ。果せる哉家政簿記の示すところ、平均一人一日八匁餘・一ヵ月二斤半・一ヵ年三十斤となる。



翻りて日本全國における總消費額を案すれば、十四億三千万斤にして人當十七斤となる。而してその内譯は朝鮮において一斤七。臺灣において十五斤。内地において二十二斤を示す。さらに翻りてこれを生産の方面より見れば……

栽培反別	昭和六年	昭和七年	
臺灣	十萬甲……	十三億三千万斤……	十六億四千万斤
内地	二萬五千……	一億三千万……	一億三千万
南洋	四十七百……	六千四百萬……	七千萬
北海道	九千……	三千六百萬……	四千萬
朝鮮	一千……	百十萬……	二百九十萬
計	十四萬甲……	十五億六千万斤……	十八億八千万斤

の大勢を示し、これ等の事實は或は賣おしみとなり、或は輸入となり、時としては生産過剰となり、投資となりひいては逆移入禁止運動となり、取引所設置の計畫となり、生産協定となり、共同販賣となり、這般の統制頗る紛糾・錯綜するを見る。

……嘉南大圳……

看天田……番子田驛より東、烏山頭へ向ふ。途に白茶けたる看天田を望みつゝ、ひとり往事を想ひいだすは、二層行溪の工事打切りに關し時の民政長官、下村氏と應酬せし時のこと也。

初めて埤圳の二字にでくわせし我々は、このよみかた分らず、わざ／＼圖書室に漢和字典をさぐり、かくてよろ／＼埤とは低くて潤ふ地、又低きかき。圳とは溝の義、今様ふりに訓ずれば、埤とは人工的につくれる灌漑用の貯水池をいひ、圳とは同じき水路。結局一方、貯水池をうがちて水量をゆたかにし他方、水路を通じて灌・排を適宜になすの謂なるを識りぬ。

第一期作と第二期作……こゝに米作に關する資料によるに、一甲……在來種……の平均收量一期作は十三石、二期作は十二石、兩者を合すれば約二十五石と見るべく、その第一期作は二十九萬甲・收量四百二十萬石。第二期作は三十九萬甲・四百七十萬石となすべし。

凡收量を増すには品種の改良も必要ならむ。栽培耕作、ことに肥料の改善も緊要ならむ。將又ことに苗代期間の短縮をはかるといふも又もとより必要ならむ。されど又一方耕地の改善……或は畑を化して田……今四十四萬甲……となし、或は單期田……十三萬甲……を兩期田……三十一萬甲……とし、或は又看天田を變じて完全なる單期田となすの類、結局こゝにいふ埤圳の途を講ずること又等閑に附すべきにあらず。

埤圳事業……は古來もとよりこれあり。すぐる明治四十一年・官設埤圳規則……を定められてよりまず三萬三千甲の工事をおへ、これにより又七千二百馬力の電力を得たり。この間年所をふるること前後十九年にして經費一千五百萬圓を要したりといふ。

内に桃園大圳あり。新竹州桃園の丘地、最高三百六十尺の地點に及ぶ。このもの初めは官設埤圳なりしが、中ごろ公共埤圳となり、十三年の日子と一千二百四十萬の金額を費して現に二萬二千餘甲の耕地をうるおす。

臺南州下、嘉南大圳の工事はさらに遙かに大なるものにして、公共埤圳・嘉南大圳組合の手により大正九年九月



起工され組合員の支出約九百萬・國庫貸附金・銀行よりの借入金合せて一千八百萬。國庫の補助金二千七百萬。總額五千三百八十萬圓を以てして廣袤十五萬甲、北は斗六・虎尾より南は善化・新化・臺南近くまで……を其區域としこれを三分して輪作の法をたて内、五萬甲の看天田をして完全なる單期田に化せしめむとす。

烏山頭の大觀……烏山頭になごやかなる社の岡あり。もくまわう・おふる運を頂上に達すれば四顧宏潤、本工事を大觀するに最も便宜の場所たり。

眼下、左より右にのぶるものは高さ三十間、長さ七百間の大堰堤にしてこの堰堤こそは延長一千七百間の隧道が、烏山嶺の彼方より曾文溪の水を最大流量一千八百立方尺の勢を以てもたらせるものを、さらに官田溪の流れと共に、その流域にせきとめて、こゝに最大貯水量五十五億萬立方尺の大池を現出せしむるもの也。

堰堤の中、頂きは三十尺、底は一千尺に及ぶ。これを築くにはまず二條の石垣をならべ、この石垣の上より中央へ向ひて土をおろす。垣の内側には所々にポンプあり、垣の内壁に向ひ放水して土砂の沈着を促す。勿論水は流れおちて石垣の間……堰堤の中央……に河をつくる。

かくて石垣のつまるゝに従ひ、堰堤もようやく形態を具へ來り、それにつれて中央の河はようやく深さと巾を減じ、河床又自ずから隆起す。幾輛の機關車、土を仕入れ來れば、百餘の人夫これを鹽梅し、強力なるスプレッダーは巧みにこれを調理しさる。

ソコデ水の出口……はと問へば、左寄りの池の内に……水の中に……吸水塔を設け堰堤下の隧道を通じて眼の下の、アレ、アソコより導水路へ入らしむ。ソコカラ開渠によつて遙か向ふの、コレモ池の向ふよりいづる餘水はけの水と一緒になし、アノ深い谷を曾文溪に流しこむ……と。

右下の溪はナルホド深谷也。幾千仞はいかゞあらむも幾百仞はありぬべく、この心地よき涼風も、正しくその谷底より吹上ぐと覺ゆ。

さて堰堤の上にたち東方、官田溪を望み及び烏山嶺を仰ぐ。  
一億平方尺を有するといふ官田溪の流域も、今は數限りなき丘々・岬々に圍まれたる湖水といふべし。但、アノ烏山嶺腹を貫ける隧道は、高さ・幅ともに十八尺、延長一千七百間、勾配千二百分の一と稱せらる。

このもの堰堤の竣工と共に千個以上の流量を通ずれば今、見ゆるアノ小屋もアノ森も、須臾にして水底深く沈みさり、アノ島もアノ丘も、倏忽にして半ばその影を失ふべし。かくて滿々たる碧潭はこゝにたつ我等をして直ちに烏山嶺の山伯と對語・應酬せしむることを得む。

我等はつぎに嶺を背にして遠く茫漠たる平野を望み、そゞろに半か年の將來を思ふ。  
渺茫たる沃野……見よ、圳路の幹線はこゝよりいでて北へ向ふこと二十六里、濁水溪の水と相合してさらに西へ支線を分つこと三十有餘、このもの又さらに分線をいだしこと幾十百・三百餘里。これ等大小の圳路は百三十里の排水路・二十五里の防波堤と相まち相より、よく十五萬甲の耕地をして、米において四十六萬石、甘蔗において二億四千萬斤の増收を得せしめむ。

但、こゝに灌溉十五萬甲といふも、その實内、三分の一即ち五萬甲づゝを別ちて・夏季水稻作・甘蔗作・雜作……又は・夏季水稻作・雜作・甘蔗作……を行ひうるよう給水す。従つてやゝもすれば三年一回の輪換作を強ゆとの批評をきく。但、この批評もあながち望蜀の言とのみ稱しがたく、やがては今の・小組合・を進めて耕地整理を執行するの時機も到來せむか。



ともかくにも本工事は内・外兩地を通ずる未曾有の工程にして又將來斯業にむかひてその範を垂るべきもの、  
旁々以て一日も速くその實績を示したきもの也。

因にいふ、以上の外、埤圳工事をおこし或はおこしうるもの尙數個所、その面積も又十八・九萬甲に達すべしと  
す。

米作と糖業……臺灣における米の平均收量は甲當り第一期作十三石餘・第二期作十二石餘・兩作を合して二十五  
石と稱せらる。而して内地の中村種よりいでたるいわゆる蓬萊米、又兩期を通じて各々十五石餘・合して三十石：  
をあげ、これを全體に比すればその反別において二八％・收量において約三三％を占めむとす。

きくところによれば合理的計算の下、在來種は兩期とも小作にて四・五十圓。自作にて六・七十圓づゝの利益あ  
り。蓬萊種にては小作にて七十餘圓。自作にて百六・七圓づつの利潤をあげうべしと。

甘蔗作の収益は畑と田、北と南とにより少からぬ差額あり。今その大要を叙すれば……

甲	……	北部水田	……	中部水田	……	南部畑	……
小	作	……	六三 <sub>円</sub>	……	一二五 <sub>円</sub>	……	八八 <sub>円</sub>
自	作	……	一三七 <sub>円</sub>	……	一九一 <sub>円</sub>	……	九三 <sub>円</sub>

の如し。これによつてみれば米と甘蔗の、農家經濟に對する位置は單簡・明白なるが如しと雖、かの蓬萊種の普  
及・看天田の改善・兩期田の増加等は又内・外糖業の消長と相まち・將來數々兩者間……ひいて農家……に混亂・迷惑  
を生ぜしめむとす。

なお米は六十八萬甲より約九百萬石を收め、三百五十萬石を移出す。今一石の價を十五圓とすれば、約一億三千

萬圓を收めて五千萬圓を移出することゝなる。

さらに甘蔗は十萬甲より約百三十億萬斤を穫て十六億萬斤の砂糖を産し、その約十四億萬斤……約八六％……を移出  
するとせば……百斤の價を十三圓とし……二億萬圓を收めて一億八千萬圓を移出することゝなる。

### ……阿 里 山……

阿里山行のうるところ……嘉義城外、北門驛におりたる筆者は、夕日にかゞやく新高山彙を顧みて、あまたゝ

び阿里山行の企ての、最もその當を得たるものなることを感得しき。

但、阿里山行のうるところは第一に風景の變化にして、これにより我等は又氣分の轉換をかちう。

つきはその雄大なる自然と偉大なる人力にして、これ等はもとより長く行客の印象に存すべしと雖、しかも我等  
をして最も深く感激せしむるものは即、この人力と天然との調和にあり。

南國の秋はさながら北國の初夏に似たり。附近の草原に遊ぶ牛の脊を小鳥つひばみ、むかひのチーク林を村の子  
ら犬とゝもに戯れゆく。

パラの木がかく、道の邊や門のほとりにはえおるものとは思はざりき。この若木、外見・くぬぎ・に似たり。

蕃人の娘……車は四・五輛をつらねて二呎六吋の軌道をはしる。苦力を滿載せる前方の貨車に三人の蕃人兄弟  
あり。姉は十六七、頭に黒き布をいたゞき、軀にかすりの單衣をまとふ。

ひらたき顔・つぶらの眼・色は勿論白からねど瞳は黒くてすむ。新らしき木琴を携へたるは、いずくの誰に贈ら  
むとてか。



竹崎邊より山路にかゝる。獨立山のスパイラルとて、七百尺を三廻轉して登るはこのところにして、その間・桂竹・孟宗・籐・さかえ・榕樹・龍眼の梢の間を・バナナ・檳榔・へご・の屬つゞる。いぬびわ・ことに白芙蓉を見るはなつかし。

熱帯林より暖帯林へ……竹崎ステーションのあるあたり即、二千五百尺迄はいわゆる熱帯林に屬し、山そのものはとりたて稱すべきものなきも、山腹をめぐるにつれ局面のあらたまると、眼界の次第に擴げゆくとは又山中名物の一たるを失わず。

トンネルをくゞり橋梁をすぎ、登り／＼て平遮那に至る。この間二千五百尺以上六千尺の間には・くす・たぶ・かし・しひ・のたぐひ直立し中に・あみがし・おゝばかし・の巨木を認む。この邊すでに暖帯林地にいる。

その他特異のものに・ふかのき・くすのはかえで・やなぎばいちご・等あり。強健なる・かや・の叢について眞紅の・ベゴニア・の綻ぶも可憐に、蓮草又所在におふ。

これよりさき交力坪よりは竹紙を出し、附近の人家の、屋根も竹、壁も竹なるが物珍らしく、水社寮・奮起湖・哆囉焉附近に・杉・廣葉杉の林を見るは頼もし。

廣葉杉：福州杉：はよくこゝの地味にあひ、生育佳良、將來阿里山の名物となるべく、由來沿線五千六百町の地域に、盛んに植林されつゝあり。

哆囉焉をいづれば暫らくにして蕃地界標のたつを見る。

十字路附近に至れば四顧曠濶、谷を尋ねて北すればララチ社に至るべく、峯をつたうて南すれば達邦社へ達すべく、我等はこゝに容貌骨柄遅しく、威風堂々たる阿里山蕃に接することを得べし。

平遮那には・さくら・おふ。附近の女・兒供、パラの類を竹籠にいれて勸む。我等は今已に……

六千尺の天上……にあり。これより上、九千尺の地はいわゆる温帯林にして針葉樹の繁殖地帯とし以上、新高山麓の寒帯林に接す。

二萬平驛前、大崩れの跡を俯觀してより道は漸くけわしく、林相又漸く一變せむとす。即、紅檜ます車窓を壓してたち、ついで・ひのき・亞杉の類時にその雄姿をあらわし來る。

路の急峻なるは七千尺附近を最とし、半径は百尺を算し勾配は十六分の一に及び、我等はたゞスウキッチバックの設けをたよりに辛くも車を進むることを得。

名にしおふ……神木……べにひ……は右方、咫尺の間に聳ゆ。周囲は六十四尺樹齡は三千年と註せらる。かくて我等は六十二のトンネルをくゞり、四十四哩の軌道をよじ、阿里山中の都・沼の平に着す。こゝ海拔七千四百六十尺、北門より時を費すこと七時間也。

天上の都・沼の平……この地、上に機關車庫・工場・配給所・郵便局・クラブ・ホテル等ならび、下に學校・寺・社・駐在所・醫務室・林間學校等相つぎ、大様・伊香保の地勢を思出さしむ。たゞ異るところは彼に煩しきまでの石段々あり。これに鼻つき合さむばかりの絶壁あり。

大體阿里山といふは新高山西、廣袤約三萬二千町歩の地帯をいひ、内に針・潤葉樹九百萬石を蓄積し年々三十萬石を斫伐す。

伐るものに扁柏・紅檜あり。これに・つが・亞杉・姫小松・を併せて阿里山の五木といふ。

阿里山ホテル……もしくは阿里山クラブ……にしばし疲れをいやしたる我々は、さらにゆきて眠月に集材を、塔山に



展望を窮めざるべからず。

スキッダーの偉力……かの雲をついてそよりたつスキッダーが、丈け四間・三抱え四抱えの巨材を、谷をこめ峯をとさず霧を分けて曳揚ぐる光景には、誰人と雖痛快を叫ばざるものなかるべし。

塔山驛より左してガソリンカーのあとをおひ、伐木・集材の作業と、かねて附近の林相とを察し、やがて塔山の絶頂にたちて南を望めば、新高連峯は重々相連りて、恰かも怒濤の天地を涵さむとするの勢を呈す。中に一きは色こき西山の彼方、新高主山の屹として九天に秀づる様は、さながら英主の群雄を率うるに似て、人をして崇高の念にたえざらしむ。

もし我等にして尙數日の滞在を容されむか、こゝより南、鹿林山をへ、前山に一休みし、新高下にて一夜を送り、一萬三千尺をよじて主山の頂きをきわむべし。

風光の變化……我等は半日を以て七千尺をよじ、斷崖にのぞみ絶壁をあおぎ、熱帯林をいで、暖帯林を貫ぬき温帯林に達してまさに寒帯林に進まむとし、及び途すがら大自然を大觀すると共に又刻々かわりゆく風景を鑑賞するを得たり。

但、かわりゆくものはひとり風景のみにとどまらざる也。

阿里山の氣温は一・二月の極寒も晝間七度を下らず、七・八月の盛夏も十八度を昇らず。この日我等の北門にたつや、二十五度の温度に額の汗をぬぐひしもの、奮起湖に達するや十九度に下り、嵐氣のよう／＼身に迫るを覺えたり。かくて平遮那にては、さくら・の葉の紅葉せるを認め、針葉樹林に入りてより冷涼頓に加わり、窓をとさし、手袋をうがち、遂に相顧みて外套を着用するに至る。沼の平に着して検すれば正に十六度、而してその夕、室

内においてさえ尙十三度を示すを見る。これを山下に比すればほとんどその半ばにあたる。

天上と下界とにて異なるもの、ひとり温度のみには止まらじ。氣壓の如きも五百七十臺を上下し、雨量又四千ミリ近くをふらす。但、雪のふるは三・四年に一回、霜のおくは秋より春にかけ一か月平均三・四回を算するにすぎず。

凡これ等の事實は相倚り相合し、よく行客の氣分を一轉し、神心を新たにし、加えて又意氣をして振作・緊張せしむ。

人力の偉大さ……延長五十餘哩の軌道を七千七百尺の上まで敷設せしこと、已に近代の驚異に屬し人力の偉大さを示すに充分なるが、尙千年の齡を重ねる立木を、しばらくのまにきりたふし、スキッダーをしてこれらのいわゆる圓木をあつめしめ、阿里山特獨の汽罐車をして日々その七・八百石をもたらして、これを嘉義の製材所へ送らしむ。

こゝ二萬坪の貯木池あり。圓木はこゝより引上げられ、まずはなぎりされ、エレベーターをつたひてすみとりせらる。かくて臺上にまろばさるれば、さしもの巨材もおもちやの如くに取扱われ、忽ちの間に大小十數種の片々にひきさらる。この量一日四百石、一年を通じて二十萬石の能力ありと稱せらる。

阿里山は現在針・潤葉樹の蓄積量約一千万石を有すといふも、已に六百五十萬石の針葉樹きりいださる。これより従來の如く木材十五萬石・百六十萬圓の収入をあげむとせば、年々百五十町歩の地積より三十萬石近き立木を伐採することゝなり、結局今後十年を以て、あらゆる針葉樹をきりつくすことゝなる。

但、阿里山鐵道によらざれば搬出することを得ざる大學演習林内には尙巨多の針葉樹おひいて、數年の斫伐にことかぬ上、伐採地跡の植林と、鐵道沿線、杉・廣葉杉の造林とは、その面積年々二百町歩に達し、相當の年限……



鐵道沿線にては伐採期二十五年・町當り杉一千五百石・廣葉杉二千石・阿里山にては杉四十年・檜八十年・町當二千五百石に達すれば、これより町當二千五百石・年額二十萬石をあぐるは決して難事にあらずといふ。

天然と人力との調和……我等は尙こゝに阿里山の經濟につき附記する所あるべし。蓋し經濟は施業と相まち……天然と人力との調和……の結論を値すれば也。

かつて百二十萬圓を以て藤田組よりうけつぎしこの山は、爾來六百萬圓を投じて今は約一千萬圓の評價々格を有す。

こゝより十五萬石を出し、單價を十一・二圓……丸太……より十七・八圓……製材……とすれば、百六十萬圓の收入となる。而して他方、斫伐製材……石當り六圓……に約百萬、造林に十五萬圓を投ずとすれば、差引約五十萬圓の利益をあぐる算當となる。

終りに、檜といへば扁柏と花柏とをふくみ、世界中、日本と米國とのみに成育するものなるが、しかも扁柏 *Chamaecyparis obtusa* に至りては正しく木材の王者に屬し、かのポートオルフォードシダー乃至ウエスターンホワイトシダーの如きいずれもこれが足許にだに、よりつきえざるものなることをのべおかむ。

……日月潭……

稀有の濁流……二水より外車埕まで十八哩の間、汽車は名にしおう濁水溪にそうて走る。

濁水溪は臺灣第一の大河なるも、こゝに見るは網の目の如く分岐せるその一つにて、河幅數十間にすぎざるも、その鉛の如き……又灰汁の如き……色合は、ます行客を驚かすに足る。

溪は源を蕃界の深谷より發し、その支流の主なるもの北、能高山下より水社大山の東をめぐるもの、南、新高山下より郡大・陳有蘭の二溪をなして北流するもの等を合せ・虎尾・北斗の平野を培ひ、西走して海に注ぐ。

かの凄まじく、到底一魚……一生物……すら棲むまじく感ぜらるゝ濁濁は、河の、軟脆なる粘板岩層を貫流するによる。濁濁も時にこそよれ、年から年中かような濁水を流す本溪の如きは、世界中メッタに見當らぬものなるべし。

流量八百倍……濁水溪の延長四十二里、集水面積百八十五方里、流量は約千立方尺と稱す。幅四十里の臺灣に四十二里の長さといへば、なるほど臺灣には大河たらむも、このもの雨期に際するや一朝にして八十萬立方尺の水量を推流すといふに至りては、まことに驚くべき偉力を有するものにして、かの荒川も吉野川も、乃至日本一たるかの信濃川も遠く三舍をさくるもの也。

臺灣における治水事業が甚だ緊急なりと認めらるゝに係らず、その未だ見るべき成果をあげ得ざるは往々にして上の如き事實の存在するによる。

集々庄は落差四百六十五尺・出力五萬四千馬力の發電所を置かるべき地點也。路はこゝよりようやく山ふところに入る。

汽車より臺車へ……水裡坑附近、バナナ畑の奇觀は已にのべたるところの如し。外車埕に至り、汽車をすて、臺車にうつる。

路はよろしく、溪谷の間をぬひ又しばらくバナナ林の内をゆく。臺車をおす二人の苦力よく走る。ことに橋上、車臺にまたがりて疾驅さするさま中々に巧み也。

途々さびたるレールを見、半ば雜草に覆われたるトンネルを仰ぐ。門牌潭發電所はかしこかや。落差一千八十五



尺を算すといふもあの峯かや。

臺車より轎へ……五城にて、水社より出迎へたる轎にのりうつる。外を青、内を紅べにがらにぬれるは俗悪なれど、前の長き棹を二人にて、あとの短き方を一人にてかき、ヤンワリフンワリと擔ひゆく調子は、金剛山のアームチエアよりは乗心地よきよう也。友は・おしり・がいたくなる故、兩脚を前上方の板にのせよといふ。

かくて晝なおくらき……時には・へご・大わらび・のむらがる……木の下道をゆられゆけば、名にしおうからすなき烏啼坂七町の難所もウツラくと、一里餘を恙なく水社の村に入る。

この地唯一の旅亭涵碧樓は潤如たる三百尺の丘上に建ち、周廻四里の日月潭を椽先の小池とながめ、標高七千尺の水社大山を庭の築山と見る。

但、かの山もこのうみも、山容水色ともに穏和、あまつさえ北緯二十四度に位するこの土地は、たとい標高二千四百尺をぬくといふとも、嵐氣の膚に迫るなく、氷雪の人を脅かすなく、我等はたゞ日月潭の親しむべきものあるを知る。

美わしき日潭・月潭……日潭は北……左……にありて廣く、月潭は南……右……にありてせまし。かれの水は青くこれの水は赤しといふも、さていかゞあらむ。中の島なる珠仔嶼も風情あり。漂々たる浮島も面白く、汀の芦間に白鷺のおりたつも美わしく、筏船の四つ手綱をあぐるも興あり。水は深からねど名物になお奇力仔きりかと稱する細鱗、鱈魚らひとよぶ巨口も棲む。

湖邊・つゝじ・多く、そゞろに初夏の美觀を想わしむるも、今は・たいわんひめつばき・の楚々たる姿を見る。

化蕃女子のコンカンくと杵つく響又雅趣なきにあらず。中に六十近き一老婦の聲は、さながら銀鈴をふるが如し。化蕃今三十一戸・百二十人、いずれは適所を選びて移るべしと。

痛ましきその運命……かく親しむべきこの日月潭も、過去においても、はた又未來においても幾多論議の中心となり、あまゝたび活劇の本源となり、又なりうべき運命を荷ふ。

かの臺灣電力の再興計劃といふは一方・水社・社頭の兩地に延長千尺内外の堰堤を築き他方、濁水溪を五里の水路に通じてこゝに導き、かくして潭の水面を高むること八十五尺、その有効貯水量をして六十六億立方尺たらしめこれより九百立方尺の水量を放ちて平均六萬五千……最大十萬……キロワットの電力を生ぜしめむとするにあり。

而してこれが財源としては政府より四百五十萬圓の出資を得、會社の社債發行額を四千九百萬圓……外債・手取四千百六十五萬圓・三十五年期限……としこれに百八十萬圓の株式拂込金を加へ合計四千八百六十餘萬圓を以て如上の計畫を完成し昭和八年度に豫定の電力を發生せしむべしといふにありき。

臺灣電力……さらに當時の會社につきては、大正八年總督府の現物出資一千二百萬・株式募集一千八百萬・社債募集二千百萬・合計五千餘萬圓を以て事業を開始し、まず發電所・鐵道・軌道・索道の建設・機械の購入等を行ひしが物價の騰貴・金融の硬塞により大正十一年六月工事を中止するのやむなきに至り、ついで大正十三年、これを再興すべきや否やにつき特に權威者の調査を求め、大正十五年十二月に至りて暫らく工事を打切ることとなす。かくの如くにして會社は已に三千七百餘萬圓……内・諸機械八百萬圓……を費し、既に二千八百八十萬圓の資金を固定しつゝも他方・水・火力を合せて二萬九千餘キロの電力を供給して尙三百九十餘萬圓の益金をあげたりき。

論議の一……今これに關して行われたる論議を約説すれば……

その第一は濁水溪水量調査に關するものにして、三年九か月に亘る各月平均流量の最小三百四十個・最大一千七



百五十九個といふは或はその如くならむも、本溪は年により特に甚しき旱魃・渴水あり。一丈五尺を掘さざれば忽ち干涸となるとさへ稱せらるゝかの潭のことなれば、水量調査には十二分の講究をとぐるの要あり。

その二……は工事の設計、ことに取入口に設くべき沈渣地と堰堤とに關す。即、會社は米國技師ストーン・ウエプスターの言に聽き、コンクリートダムを變じてアースダムとなしたるに、沈渣處分についてはさらに百萬圓の増額を敢てして、別に七千坪の沈渣池を設くることとなす。濁量平均・一二六：一月平均・〇二四：七月平均・二一：なる濁水溪の水質を處理するには、さらに深き講究を要すべきにあらざるや。

その三……は電力の需給に關す。會社は現在水力一萬・火力二千・購入電力五千キロを以て事業を經營し別に近く一萬の火力をつくりいださむとす。而して昭和三年中の契約量三千二百キロといふも所用電力は二千五百内外にすぎず。これ等の趨勢を以てして昭和八年即ち日月潭の發電工事成るの曉を慮るに、かれこれ三萬二千キロの供給を以て足る。これを、電力の需要を、肥料ことに窒素肥料・ソーダ・製紙・纖維工業等の大工業にまたず、とくに確實なる小工業の發達に期待せむとする會社の主張に徴して、果して昭和八年以往昭和十四年までに六萬キロの需要を見うべきか。かりに百歩をゆすりてこれに近き需要を見るするも、高々四萬キロ内外の供給を以てたりうべき昭和八年に、十萬キロをいだし工事完成せむとするが如きは電力經濟上、果してその當を得たるものなりや。

その四……は採算に關す。曰くこゝに別に五萬キロの火力發電をおこせば本事業即、十萬キロの水力發電よりも、經費において二百萬圓の多額を要すと稱せらる。しかも工事の本源に立もどりて考察すれば、一キロ當りの費用或は六百圓の如く、七百圓の如く又九百圓とも考えらる。

且電力の價についていふも、本工事の完成により、原價五厘を減じて一錢三厘となり、従つて電力の値下げをなしと稱するも、値下げといふはその實、單に電熱のみに止まり他は本工事遂行による剩餘金の減少により、昭和十一年に至らざれば一般にこれを行ひ得ざるもの。

然るにもしこゝに現状のまゝに進みゆくとせば、二百五十七萬圓の剩餘金は昭和八年において即時に一般電力の値下げを斷行せしめ得るにあらずや。

畢竟、こゝに豫備火力ともなるべき二萬キロの發電裝置をなし、數年をすぎ一は相當需要の起るをまち一は其間に尙十分の調査をすゝめ、徐ろに本工事を再興するも遅からざるべし……

以上やかましき論議をつくしたる後：政府は工事に着手する前、さらに權威ある専門家の意見を徴すべく、募債は必ずしも外資によるを要せず且、從來關係者の責任を明かにし、さらに適切なる監督をなすべき：希望決議附せられ、よろしく再興を認められたるもの也。

山靈水神の言にきけ……惟へばすぐる議會はたぐひまれなる、混沌たる議會なりき。その一たび端を優詭問題に發するや、或は閣僚の奏請に關し、或は地租委譲の是非につき、論難辯詰尋常にあらず。或は臺灣の水掛論につきて樺太に飛火することあり。論難辯詰はまだしも可也。或者はあの巨軀を急がわしく運びて奔命にこれ勉め、又ある者は策動にいらだちて數々狂態を演出す。遂に勢ひの及ぶところ、あろうことかあるまいことか、公けの席上、無恥と罵り虚偽と叫ぶに至る。

かくして代かわり時はうつろひぬ。されど輪廻はあざなえる繩に似、榮辱は猶手をくつがへすが如し。我等は如上諸氏の、親しくゆいて日月潭の山容水色に接し、虚心坦懷、山靈水神の言に聽く所あらむことを勸むる者也。



水産界の珍物……かつて水の都・關門海峡のほとり、名物ちりなべに親しめる折、斯界の一權威者の曰く……臺灣の魚にサバヒーといふあり。形は・このしろ・に似、味は・いわし・に類す。小骨多くして特にうましといふにあらねど、その養殖に一種獨特の趣あり幸、一見せらるべし……と。

筆者の初めて足をこの國に下すや、まずキールン港を一巡してその漁港を案じ、ついで南下して高雄市に至るや曉起、魚市場を訪ひ、つぎて冷蔵庫に及ぶ。

かくて臺南に車をとどむるや、プログラムを急ぎて水産試験場に至り、幸にしてこゝにかのサバヒー氏に對面するを得たり。

試験場は、數十個・幾十甲に亘る養殖池の間にたち、内に幾多の標本と數多の魚苗池とを有す。

親と子……この魚は近海に棲息するらしといふも、その邊尙未だ明かならず。親魚を捕ふることも又甚だ稀有なりといふ。魚苗として捕獲さるゝものは孵化後間もなく、身長一・五センチ、わずかに眼點を認めうる、無色透明の稚魚なりとす。

このもの三月下旬臺東廳下より恒春沿岸に現われ、漸次北進して九月の頃まで、ひろく沿岸を洄游す。

これをとるには沿岸隨所、ひとり又は二人にて麻製の三角網を曳く。

サバヒーは本國人の常用となり、その産額一千万斤・二百万圓に上る。さればかの稚魚をとること、少くとも二千萬、時には又五千萬尾に達すべし。

すくわれたる稚魚は一まず特にしつらわれたる粘土池に移しかわる。

これを運搬する容器、又一種獨特の品にして、竹にてあみ、内を線香末に牛糞を交へたるものにてぬりかたむ。

養魚地の仕構え……養魚池は小なるは一・二反なれど普通は十甲内外、大體、敷二間高さ一間半ばかりの土手にてめぐらされ、内に水路・養魚池・魚苗池・冬圍池・等の仕構えあり。

池は毎年十一月より二月まで、水をのぞき、土壤の風化を促すと共に又水路内の浮泥によりて堤防を修めらる。

充分にひかたまりたる池には、まず豆粕・胡麻粕・落花生粕・又特に人糞・を施され後二・三寸水をたゝえ、肥料分の滲透をはかる。かくすること再三、三月中旬に至って、水を増し肥料分の溶解を促す。

この際、別に適量の茶糟投ぜらる。かくすれば餘計な仔魚・蠕虫の類殲滅し、池水は漸次清澄となり、しばらくすれば、かえつて藍・硅藻類の發生を見る。

こゝにおゝて一甲につき二千乃至八千尾の魚苗放たる。

著しき成長……魚苗の發育は五・六月放たれたるもの十一月、即ち半年をへて二十五・六寸となる。その七・八月に放たれ二・三寸になりたるものを、北方をかこへる冬圍池に收め、翌年四月再び養魚池に放てば、六・七月の交……滿一か年にて……四・五寸となり年末には百匁に發育す。

常春の里・成育の國にありては・うなぎ・も六・七寸のもの四十匁となり。金魚や食用蛙も一か年にして産卵し・ぼら・も一月より三月の間、體長わずかに一寸あるかなきかのもの、十月には四十匁より六十匁、一か年をふれば六十匁より百匁に達し・こひ・は間違ひなく百匁……一斤……に成長す。

サバヒーと混養せらるゝものに紅蝦・うしえび *Penaeus carinatus* あり。このもの斃死率は多けれど、四五か月



にして十匁、一か年にしてよく八・九寸にのぶ。

えび・もうまけれど・かき・も美味也。ことに北・中部にては九月より三月に亘りて採收され、臺南や高雄においては七・八・九月の頃賞鑑さる。このものも七・八月より一か年をふれば生肉二十匁内外をはかる。

臺灣の水産業……臺灣の水産養殖高約四百萬圓、サバヒーは二百萬圓といへば、恰かも全額の半ばを占む。尙これを・かじき・れんこだい・の百五十萬圓。まぐろ・かつを・の百萬圓に比するも遙かに優越なる地位を占む。

近來長足の進歩をなせりといふ・節類・の製造百二・三十萬圓にして、かれと相さること遠く・鮮魚貝の移出又百七・八十萬圓にして、又かれに及ばざるもの。

北、彭佳島に・さんご・さかえ、つゞいて・れんこ・かじき・まぐろ・むらがる。東、蘇澳に近く・ふか・かじき・の漁場あり。つゞいて・そうだ・かじき・かつを・ことに紅頭嶼附近は・かつを・の好洄游區域と稱せらる。

西方、臺灣海峡は・たい・ぐち・の名所。その澎湖列島には・いわし・さわら・の類夥しくむらがる。かくの如くにしてその總水産額二千萬圓にみたすといふに至りては、又餘りに心細き憾なからずや。

今こゝに水産統計を案ずるに、養殖高三百七十萬圓は十二年にして二倍となりしもの。製造高二百七十萬圓は十一か年にして又漁獲高一千三百萬圓は七か年にして倍額に達し、これの總額一千九百萬圓、又十一か年をへて二倍となり、人をしてその進歩の績を思わしむるも、しばらく眼を水産貿易の上に轉じてその大勢を察すれば大様、ます七百萬圓がものを移入し、百萬圓内外のものを輸出し残りの約三分の一を移出：かつをぶし三十萬圓・鮮魚貝・百五十萬圓・合せて百七十萬圓：によりて補はむとするもの、如し。概言すれば臺灣の水産貿易は過去二十年間終始入超をつゞけ來れるもの也。

筆者は蓬萊の自尊を傷けざらむがため、否大いにその自重を促さむがために、由來勉めて島と呼ぶことをさけ、島内を國內といひ臺灣と稱し、本島とよぶべきを故らに本國とさえ稱し來りぬ。

何はさて漁政の確立……されどこの臺灣も畢竟、一つの島に外ならず。しかも鹿兒島をさること六百四哩、福州をへだつる百五十一哩、マニラをさること七百七十四哩、パラオをさること一千三百哩の海上に浮ぶ。蕞爾たる一孤島のみ。

凡そ環境に従ふものは生き、環境に逆らふものは滅び、環境を利用するものは榮ゆ。常夏の里にいね・をうえ・茶をそだつること、もとより可。常春の國にカムチャをかり、オンラインをとりいる、ことまた大いによし。もしくは蓬萊の峯に斧をふるひ、高砂の濱にもしほかること又ひとしく好ましき所也。

されどこゝに、はかりしられぬこの環海を利用すること又この國をしていよく榮えしむる所以といふべし。近くはトンキンのほとり、バンコックの沖。遠くはハルマヘラのかけ、モルッカの水門みなと。勇ましき欸ふなうた乃をあぐること正になすべき使命にあらずして何ぞ。

我等は水産に關する施設について或は指摘し、或は苦言を呈せむとするところ少からず。されど、要は漁政の確立に存す。臺灣漁政の確立、これ今日當局者のなさざるべからざるの急務なりとす。

……東 海岸……

變りゆく目前の景色……筆者にしてさらに再遊の機を得むか、まず例によつて臺北にその第一夜を送り後、臺南に二日をすごし、恒春に南國の入日を賞し、浸水營ごえを強行して東海岸にいでむ。



こゝ二島の呼應するあり。その左に浮ぶを火燒島とし、右に横わるを紅頭嶼とす。

火燒島には花鹿産し・大ころもり・棲む。紅頭嶼には一千七百のヤミ族、水入らずに根城をかたむ。

こゝより以北、臺東に至る約四十哩は、未だ鐵道の恩恵に浴せず且、太麻里蕃：パイワン族：勢力をふるふ。

臺東・花蓮港間は卑南・秀姑巒・の二溪にそひ、百七哩の鐵路の上、變りゆく目前の景色に親しむことを得む。

しかも灌溉の便は、住民：アミ蕃といわず、内地人といわず：の努力と相まち、日一日と森を拓き野を耕さしむ。

アミ蕃は七族の内最も溫和・勤勉なる種族にして臺東より花蓮港に至る海岸一帯の地に住し、その數四萬五千を算す。拔子・馬太鞍・兩驛の附近、其他所在これが風俗を察し得べし。

吉野村……内地人の移住には臺東開拓會社これに勉め、旭・鹿野・月野の村落成り、又鹽水港製糖次第にその根帯を下して大和・萬里橋・平林・賀田の諸村おこる。

官營には林田・豊田・吉野の三村ありて吉野村はその模範的のもの。我等はアミ蕃の圓舞に興ずると共に、往いてかの村の大勢を察すべし。

吉野村の視察に少からず里心づきたる行客も、旭光にかゞやく能高の峻嶺を仰ぎみては、忽ち勇猛心をふるひおこし一舉、太魯閣峽：タツキリ……の絶景に邁進することを得。

タツキリの絶景……まオートを北に一時間許りはせ、新城をへ、ブセガンをよぎ、海岸にいで、つぎでタツキリ溪谷にそつて廻る。

けだし海内第一と稱せらるゝその絶勝は、溪を覆ふはかりしられぬ斷崖と、これをぬひ、雲に入り霧にかくるゝ細逕とに存す。中に三角堆山といふは直立八千八百尺、人は二千五百尺の中空を爬行す。

曾て臺灣の八景を論ずるものあり。山に八仙と阿里山とをあげ、水に日月潭と鸞鑾鼻とを加へ、眺めに淡水と壽山と旭か岡とをすゝめ、別に新高と臺灣神社とをおす。

タツキリ又八景の一たるもの。その奇抜の點においては全く他に類例・匹儔を見ざるところ。

交通脈の結滞……タツキリの絶景に神おそれ膽おのゝきたる行客は、さらに花蓮港・蘇澳間四十四哩の航海に、やもすれば眼くらみ胸いたみ、心神顛倒の厄にあふことなきを保せず。

東海岸の交通をしりきれとんぼになす當局者には、又ソレ相應の言譯はありぬべし。されどこの波風あらく船つきあしき東海岸に、かくの如き船と、かくの如き設備と、かくの如き取扱ひとを看過するは、恰かもかの竹菴が、患者の脉膊結滞を看過する緩怠にひとしかるべし。

交通といへば又東西兩岸を通ずる通路にもボツ／＼治療を加へざるべからず。

その地域は總面積の三分の二を占め、内に十萬の住民ありといふそれだけにても、又この地積の調査討究尙未だしといふ、たゞそれだけにても、乃至將來日月潭・阿里山・新高山を結ぶ一帯の地域が、この國の重要な場所となり、又ならざるべからずといふたゞそれだけにても、一日もはやくその主要路を開通もしくは修築すべき要あり。

十萬の山地住民……蕃族……にも又自ずから幾多の區別・差等あり。

次高を中央とし北は烏來、南は霧社に近く、最も廣く山地に蟠れるタイヤル族は最も犖猛なる蕃族にして、その數無慮三萬四千。その南方、新高山をへてほとんど臺南を劃する緯度にまで住するブヌン族は、その數一萬八千、それよりさらに南、恒春に至る山梁地帯をしむるものに四萬二千のパイワン族あり、



ブヌンは獐猛タイヤルにつき、パイワン又これと相似たり。ブヌンを中央とし西に二千のツオウ族あり。東に四萬五千のアミ族あり。その他ヤミ族は紅頭嶼に、サイセツト族は竹南の東、タイヤルに接して棲むも、その數はとも二千人に足らず。しかもこれ等四族はいずれも柔順にしてよく農耕・漁業に従ふ。ことにアミ族は最も開け、その文化はやゝもすれば國人の上にいひむとす。

マラリヤとはぶ……よい加減に膽を冷やさせられたる我々はこの上、蕃族の武勇譚は姑らく遠慮することゝせむ。従つて又例のマラリヤ患者の死亡率は・六%にしてその原虫保有者數は大體二・九%：内、花蓮港廳にては二・五%：臺東廳にては四・三%を示すその内容に、立入ることをもさくべし。

且かの青竹とか、雨傘とか、百歩とか、鎖とか、將又龜殼花とか、飯匙倩とかに嚙まるゝ者も思ひしほどは多からず、すべてにて四百人・死亡率の五%なることをも詳説することをやめ、たゞこゝには東海岸にはその被害者あまりに多からざることをのみのおかむ。

蘇澳も又將來發展を期すべき要所にして、こゝにも二日の滞在をふりあてむ。即ち海に漁港を見、漁況をき、山には太平山の斫伐、野には大南澳の開墾を察せむとす。

大南澳原野は蘇澳の南方五里にありて約八百甲に亘り、いわゆる東海岸可耕未開墾地四萬甲のその一部たり。今百數十戸を容る。

太平山の大森林……太平山の森林地帯は濁水溪の上流にありて幅五里・長さ十二里・廣袤六萬餘町、羊腸たる幽逕はピヤナン鞍部をこえて霧社より埔里に通ず。今、年額二十四・五萬石を伐出すも蓄積量は實に五千餘萬石と稱せらる。

これを阿里山の三萬二千町・蓄積量九百餘萬石に比すれば又格段の懸隔あり。又これを八仙山の一萬六千町・蓄積九百萬石に比するも尙、甚しき差違あるを見る。

車は宜蘭をすぎ礁溪温泉をよそに見て、基隆郡に入る。

龜山島といふも奇なるが、龜卵島といふも妙なり。草嶺の險も七千呎のトンネルによりて一路おだやかに、澳底のご遺跡を平沙の彼方に拜し瑞芳・四脚亭の間に鑛業の隆替を論ずれば、六十哩はいつしかすぎて、車は再びなつかしの臺北市に入る。

### ……臺北見物……

#### その一

臺北の朝……白き蚊帳をすかして高き天井を仰ぐ。曉の光はカーテンをかすかにおし、やがてあたりの壁をうすみどりにそむ。こゝ電車の響なく、自動車の騒音なし。臺北の朝は物靜か也。

旭光、欄杆の半ばを彩るに至れば、彼方の相思樹頭、白頭翁うたふことしきり。臺北の朝は長閑也。

見物はまず總督府の邊より始まる。

この尨大なる赤煉瓦の中央に高塔聳つ。その高さ幾何あるべき。これをしる者はまれなるべく、これに登臨する者は尙一層まれなるべし。我等はまずこれによりて臺北市を大觀するを、最も氣の利きたる方法なりと考ふ。

つぎに博物館へ行く。このもの新公園にありてドリック式の二層樓、無慮一萬二千點を収む。

公園を漫歩して早速南國の氣分を味ひ、その東門よりいでて中央研究所を訪ふことゝす。遂に總督官邸あり。某



總督が屈託の餘り緋鯉を釣りて時を消したりといふ池もあり。

中央研究所……は明治四十二年に大成し今、百萬圓の經費を以て農・林・工業乃至衛生方面に亘り廣く百般の研究に従ひ且、育種・種苗の養成・その配附・鑑定・分析・製造其他講習・講話等を併せ行ひ、及び士林その他に十ヶ所の支所を配置す。

さしもに多かりしマラリヤ患者も十年來半減し、死亡率又・六%を示すに至りしときく。それにつけても二十六萬の蚊を捕へて内に一萬のアノフェレスを認めしといふ實驗や、さゝやかなる木箱の内に青蛇や雨傘蛇、さては臺灣ハブや臺灣コブラを飼ひ、その毒をとる装置等を實見すれば、今更ながら科學者の献身的努力に感謝せざるを得ざるべし。

研究所の仕事を仔細に觀察すれば正に半日を要すべし。我等はしひて割愛して新公園に立もどり、そのライオンにおいて晝餐をとり、三線道路を南下して專賣局工場を訪ふ。

阿片と樟腦……の工場は兒玉町、酒工場は樺山町、煙草工場は上奎府町にあり

阿片は原料を印度・ペルシャ・トルコ等より輸入し、これを稀釋し、さらに又煮つむるものとす。徑三尺もありぬべき鐵鍋にいれて搔廻わす様は、かの漆をかきまわす所作に似、立のぼる香ひ、又感心したるものにはあらず。できあがりたる煙膏は一斤三・四十圓。今吸煙を許されたる者：特許者：約二萬・人口に比すれば・〇四%特許者一人一日の吸食量二・七グラム。煙膏の販賣價格三百數十萬圓に達す。

樟腦は臺灣製腦株式會社によりて所在腦寮より取集められ、こゝにおいて精製せらる。要は鐵の釜にいれ加熱・冷却して樟腦と樟腦油とを分ち收むるなり。

油に赤・白・芳白・藍色・芳油等あり。香料・防臭・驅虫・又殺菌劑となる。芳油はリナロエ油と性分を同うし赤油と、もに香料原料として歡迎せらる。

龍腦より合成せらるゝ人造樟腦の價相當高値を唱へ、天然との開き今日の如き状態なるにおいては、臺灣樟腦も決して悲觀すべきにあらず。今も尙六・七百萬斤を供給しうるものゝ如し。

酒と煙草……臺灣酒にして最も我等の口にあふものを紅酒となす。これには *Monascus purpureus* 働き、初め

紅色を呈するも貯ふれば次第に褪す。このもの再製酒也。

國人の間に常用せらるゝものに米酒あり。これには *Ryzopus Peka* 働く。八萬石を醸すと、へば全製酒の半額以上を占む。これは蒸溜酒なり。貯ふる瓶、雅致あり。

藥酒として虎骨・五加皮酒等をもつくる。これらはアルコール分多し。萬壽・福祿はこゝにてつくらるゝ清酒なるが所柄一石に付十匁以内のザリチル酸を加ふるも是非なきことか。

酒の定義を問へば、アルコールの含有量九十%未満のものといふ。勿論ビールも專賣の規程を受く。煙草工程はいつ見ても面白きもの。但、こゝにては口紙つきものは作らず。兩切：ジャスマイン又レッドジャスマインは……白き紐となりてあらわれ、ポツン／＼と截たるゝ様、造作なし。國人の用ふる刻煙草、例へば鱗煙・赤厚煙には落花生油を、條絲煙には茶の油を注ぐ。

シガーをまくを見るも興あり。まず心を束ね中巻をなし上巻をなす。細く短かきダイトンを巻くに一人一日百本より百五六十本。並大、しかも上物……次高……に至りては四十幾本にすぎずといふ。

上巻、ことに上物に用ふる葉は特に吟味を要しハヴァナは八百圓もし、スマトラの優良種は三千五百圓もす國産



は二十圓乃至百圓を算す。

かくて七百の男女によりてつくりいださるゝところ、年額葉卷四十萬・兩切三億四千萬本・刻み又三百萬斤に達せむとす。

阿片・樟腦・食鹽・酒・煙草はいずれも專賣にかゝる。酒・煙草の販賣高は合して三千萬圓をはかるべし。煙草の作業に思はず時をすごしたる我々は、御成町をまつすぐに北へ向ふ。右に明石總督や乃木母堂のおくつきあり。左に廣き馬槽病院あり。町とはいへど田もあり。その田の小溝には・あひる・の群遊ぶ。

圓山公園……丘に據りたる圓山公園もよき所也。入口の右手に龍眼の巨木あり。その木蔭に村の男、湯茶をひさぐ。

園内、小高きところには相思樹しげり、低きところには幾十の動物棲む。みかどきじ・てっけい・ほいーび・八哥カク鳥カク。さては水鹿・花鹿・きよん・豹のやから。その他狸々の勢づきて檻の内に躍り、大蛇の頭をあげて舌をペロペロさすなどは、内地にては見られぬ光景なりとす。

明治橋は基隆河にかゝり、河は西流してさらに淡水河に合す。劍潭寺も曲線に富み、彫刻に富み、はた又色彩に富む臺灣風のお寺也。本尊は觀世音菩薩。こゝにて若き婦人の、紙を焚き香を捻じ、吉凶をためすを見るもふさわしき心地せらる。

臺灣神社……白く清き參道を登ること數町、こゝ臺灣神社の階前に額けば誰人と雖、まず皇國のありがたきを覚え、つぎて此國の發達と安寧とを祈らざるものなかるべし。

ことにうれしきは歴代總督の心をこめて捧げし猷木なり。その種類は異れど、その大小に差はあれど、捧げし心は皆おなじ。起つて社頭を低何すれば四十年の史實は徐々に胸裡に甦り來りて追懐・追憶・ほとんど底止する所を識らす。

大稻埕……暮靄をついで舊路をはせ、蓬萊町の邊を右折すれば大稻埕の境域に入る。

一たび車を臺北橋上に停めて淡水河の夕映を賞し、再び城隍廟畔にたちて國人祈願のあつきを察す。さてその後……蓬萊閣……江山樓……に臺灣風の夕食をとるを可とせむ。

食後は太平町を漫步してこの商業地域たる大稻埕の一端を察すべし。

## その二

西門市場……第二日は少々早めにいでて、まず西門外の市場を覗く。

臺灣にて視るべきもの、一つは市場也。濫觴も古く、設備もよく尙且、風俗を察するに便あり。こゝ臺北に限らず、臺中に、嘉義に、臺南に、高雄に、機會を得る毎に往いて訪わば、興味は中々につきざらむとす。

西門に達するには北門をすぎ、鐵道線路にそつて南下す。凡四門のたつところ、もと城壁これをめぐり、いわゆる城内の一廓をかたちづくりき。今は城壁をこぼち、地を平らげ、うゆるに樹を以てす。三線道路と稱するものはこれ。

市場は大様、シツカリしたる建物中央にたち、内に肉・魚・野菜・乾物などの店舗あり、建物を中心に飲食・雜貨の小屋たちならぶ。

肉は勿論豚を主とし、往々にして上肉十錢並八錢の掛札を見る。こゝに煮込みの芳烈なる香ひあれば、かしこに串ざしバラの緑いよく濃やかなるあり。まこも・の嫩芽わかめの、所せまくひろげられたる・ざぼん・ぼんかん・の山



とつまれたる、いずれも物珍らしき光景なりとす。

諸學校……つぎは小學校。それより高等女學校。ついで公學校を參觀す。この邊は萬華……艚舩……の地に於て地積に制限あれば致方なけれど、この地各學校とも總じて敷地廣く建物廣きは喜ばしとす。其上多くは朝禮に際して遙かに北方、帝居をふし拜み且、祝祭日には恭しく國旗掲揚の式を行ふ。

艚舩はそのかみ出船・入船いそがわしかりしところ。今は繁榮を大稻埕に譲るといふも、萬華園や龍山寺のあたりは尙往時の盛況を偲ぶべく、さらに數十歩を轉じて入船町の河岸にたてば、戎克・舩舩の右往・左往を認むるあらむ。

農業部……さて又車を東南にはせて、龍口町に第一中學校をたすね、佐久間町より兒玉町にいで、千歲町を左に見一路、富田町なる中央研究所農業部を志す。

こゝは停車場をさる一里、名は町といふも實は郊外といふべし。まずめづらしくうつくしき榕樹の並木道を三・四町すゝみ、本館に白髮慈眼の大島博士に逢ふ。

境内廣きこと六十五町、相思樹おほる山あれば、蓬萊米みのる水田あり。種藝・糖業・化學・病理・畜産・動物等の各科を分ち七個の支所に屬し、これ等の要所々々には博士直參の諸學士、根ざしを固む。實に博士は臺灣殖産界の元老にして且、大御所たり。

こゝにて晝飯をご馳走になることゝし午後、臺北帝國大學を見まひ、土地に、建築に、人に物に、多大の苦心を拂わるゝ幣原總長を慰む。

それより特に村道を迂回してしばし田園情緒を味ひ、やがて第二師範を巡覽す。

あわたゞしかりし昨日・今日の視察に、我も人も少しく疲れしよう也。旁々二日目の終りには植物園を訪ふこととなす。

こゝ大學に附屬しその他、武徳殿あり建功神社あり。商品陳列館あり研究所の林業部あり。植物園の廣さ五萬坪、内に百九科・五百二十一屬・一千二百種……内、島外産八百……の植物をうえ・樟楠木・樟大杉・油杉のたぐひよりマンゴー・パンの木・印度をけい・イランイランの類を見るべく又・もくせい・樹蘭・玉蘭・含笑化・夜合花のかぐはしく・あさひかづら・大輪ありあけかづら・のうるわしきを認む。

うるわしといへば林投の林も存外うるわしく、椰子の並木はことにうるわし。籐をめぐらせる亭も乙なり。かくて南洋氣分に涵ることしばらく、やがて陳列館に臺灣殖産の大體を察し且若干の土産をとゝのふれば二日の臺北見物こゝに終る。

### ……基隆と淡水……

埠頭の感……二夜を海上に送り七百五十五湮・五十三時をけみして、さて初見參の基隆港は、何とはなしに物さみしく感ぜられて、まことこれが臺灣の表玄関にして七市の一、出船入船四千五百・四百萬噸・二億圓の貨物を吞吐する港かとあやしまれぬ。

つぎでランチを牛稠港にはせ、山とつめる石炭を左に、ドック會社の工場をみ、舵を轉じて新岩壁の上屋を仰ぐに及び、こゝに少しく基隆港の基隆港らしきを覚えはじめぬ。

つぎでランチの二沙灣頭、トロールや手繰りの雜然としてかゝれるあたりをへ、仙洞山の防波堤をすぎ、火號澳



より萬人堆鼻を左に、社寮島の陰に入らむとするに及び、ほゞ築港の大様を解し、八尺門の漁港となりしことをも承知し他方、又港は今、擴張工事のさ中にして、このことは又市をめぐる丘陵の要塞地帯なること、相まちて、北來の客をして如上の第一印象を得せしめたることをも悟りぬ。

基隆・高雄の築港……基隆港修築工事の大様は運河を開きて外港を浚渫し、岸壁を延長して上屋を増築し、棧橋を架し浮標を増し、又別に漁港を修め、かくて二萬噸級以下三十五隻の同時繫船をゆるし、岸壁の荷役能力をして二百八十萬噸ならしめむとす。

本工事の竣工は昭和七年なりしも、前後三十餘年に亘る總工費は無慮三千萬圓を算す。

修築といへば高雄港又その道程にあり。即まず港口百尺をひろげて四百五十尺とし、北防砂堤の新築・南防波堤の延長・内外港の浚渫・岸壁・棧橋の増築等により一萬噸級以下二十隻を繫ぎ、一年よく八十萬噸の貨物を吞吐するに難からざらしめむとす。その竣工は昭和十二年度の豫定にしてこゝ又工費總計三千萬圓を計上す。

臺灣貿易の大勢……凡臺灣近時の内地貿易額三億六千萬圓。外國貿易額五千萬圓。而して外國貿易においては一千萬以上の輸入超過を示すも、内國貿易においては約九千萬圓の普通外地において見るが如く、移出超過を示すを見る。

總督の視察……我等は牛稠港の埠頭において、ゆくりなく總督の一行に邂逅し、圖らずもこれと視察を共にしえたるを喜ぶ。

筆者はこゝにその紺サージの制服を顧み、總督も屬官もおんなじだよ……といふ無邪氣なる總督を見き。

筆者は又鼠色の巡警の彼方、慇懃に迎ふる群集に對し、數々親しき一瞥を送る好々的の總督を見き。

筆者は又ヘルメットを頂ける重砲兵の將卒に一場の訓示……前代かつてこの類例なかりし……を與ふる懇篤なる總督を見き。

一行は又水産會にアジノコート近海の珊瑚をけみし、肥料會社に過磷酸石灰の製法をきく。こゝにも筆者は細心にして且熱心なる總督を見き。

總督は又税關に至りて税關長の報告をうく。初め卓をへだて、坐せる兩者はようやく相接近し、今は互ひに顔つき合さむ許りになりぬ。

見よ……半白の髪・廣き額・つぶらの眼・すぐなる鼻……何ぞ兩者の酷しく相似たる。髻も同様、眼鏡も同様、まなじりの優しき皺さへ全く相ひとしきにあらずや。

筆者はこの平和にして興味ある光景をながめ、ひとり微笑を禁ずる能わざりき。唯憾むらくはかくまで瓜二つなる某君に、特にその旨をつとふるの機會を逸したることを。

基隆・高雄の隆運に向ふにつけ、人をして今昔の感にたえざらしむるものは淡水なり。かつては安平と共に一方ならずときめきしこの港も、河口うもれては又往年の俤なく、今はたゞ二萬五千の人口を擁するに止まる。

國人保健の謀……されど適當なる遊園地に乏しきこの國にありては、淡水より草山に亘る一帶の地域は、國人保健の資に供すべく、まことに恰好の個所にして、眞面目に設備を加ふべきものと思料す。

淡水河畔より望む・七星・大屯の山谷は秀靈の二字につく。オートを士林より草山にかり、北投を一巡し來るも快心の業ながら、しばし足を草山・一千尺のあたりに留め、しばらく山氣を吸ひ心意をすまは、むしろ必要のとたる也。



それにつけても各般の設備を要す。峯を傳ふ散歩道の修理もありたく、プール・コート・リンクの開設も必要なるべく、碁棋・玉突・音楽・キネマ・醫療・圖書閱覽等の機關をも備へ、公共浴場の三・四か所、簡易ホテルの五・六か所、又貸別荘の數十棟をも設け、ひろく中部・南方の人々をも誘致し、眞に國人健康の恢復ならびに増進を圖るの計畫肝要なり。かの國內有數の勝地たる北投をして、徒らに脂粉の氣を漲らし、酒肉の樂を極めしむるが如きは、そも／＼識者のとらざる所なりとす。

……語を寄す

街庄長諸君……

筆者の臺灣にあること二句をいはず。この短時日を以てして、一々諸君と相見へ、巨細に諸君の言をきくこともとより能わざるところなるも、たゞいたるところ、諸君の努力の大なるを認めえたるを喜ぶ。

諸君の内には新しき教育をうけ、正しき國語に堪能に、熱心、當局を扶けて地方文化の向上を圖られつゝあり。或は又たとえ國語を充分に解しえざるも、由來地方の名望家として、躬を以て地方人を率ひ、かくて産業の開發に日もこれ足らざるものあり。

産業の發達……由來萬物の生成旺んなる常春の國に生れ、常緑の蔭に人となる。南國の人、數頃の地積をえ、一臂の勞を投ずれば、衣食即ち足る。

この故にセレベスの邦人、質問をうけて曰く……何が故に卿等はしかく日夜營々たるや。その上、金錢をあましめて何を求め、何をなさむとするか……と。

かゝる太平の逸民、今これを諸君の附近に發見しえずとするも、ともすれば天恵に忝れ、逸樂につくの大衆を導き、或は産業の開發を叫び、衛生の設備をすゝめ、或は教育の普及を促し、風俗の改善を畫す。この間に處する諸君の苦衷と根氣とはまことに容易ならざるものあり。

臺灣の農産物はすでに二億七千萬圓をあげ、畜産物さへ四千萬圓を算す。その他林産に三千五百萬圓あり。鑛産に一千五百萬圓あり。水産の二千萬圓は甚だ少きにすぎても、工業の二億五千萬圓は割合に多く、かくて合せて六億萬圓の總生産價格はこれを一方に配すれば二十六萬圓となり、これを一戸に配すれば七百四十七圓となり、これに戸當負擔額百二十三圓を比すれば、あたかもその一六％にあたる。

生活の向上……但、生産額の増加は大體、國人收入の増加を意味するも、又たしかに消費の増大を招來す。而してこの消費たる、直接、生産に要するものもあれど、また間接のものもあり。中には全くこれと没交渉のものも生じきたる。

この邊あらかじめ諸君の考慮をめぐらさるべきところにして、即ち生産の増加を圖るとともに、配給そのよろしきを講じ、消費亦その當をえせしめむを要す。

我等の處生觀によれば人はまず身體の壯健を第一とし、衣食足るを以て第二とし、居常怡々たるをその至境となす。而して人、この至境に入らむとせば、まず物の道理を識ること。氣分轉換の技を修むること。事に忍び時を俟ちうることを。等の修練を要す。

我等は優々たる天地にある諸君に、優々としてこの言をなす。これ我等の境遇の優々たらざるがためにして、又諸君の郷黨生活の、漸く優々たらざらむことを想見すれば也。



生活の改善……諸君が諸君の郷黨のために圖るべきところ、まず住宅の改良を急なりとせむ。より以上耐久的に、より以上日光と空氣とにめぐまるゝよう……又かの南國所在に見る住居の緑化の如き……とくに併せて考慮をめぐらさるべきところ。

つぎは衛生に關する設備にして、これに伴ふものに火葬と阿片との問題あり。

慣行の改善にも又甚大の考慮を要す。在來の村俗・民風は、大體これを尊重するを可なりとするも・公正・風紀・衛生・勤勞・純朴・經濟等に反するものは、その程度の如何により、よろしくこれを矯正するを怠るべからず。例へばかの賭博の如き、健訟の風の如き、又は祭祀に關する濫費の如き、又かの種々の小作慣行の類の如き、いずれも如上の趣旨にてらし須らく刷新・改正を加ふべきもの。

音樂と文學……相思樹頭にさえづる、かれ白頭翁は無上の曉舌家にしてしかも又臺灣唯一の音樂家也。中空に・ひばり・の聲なく、樹間に・ひぐらし・の吟なく、叢に松虫・鈴虫の曲なきこの國に、詠すべき歌謡なく、きくべき音樂なきは、或は自然の歸結と稱せむも、さりとは又餘りに心淋しき限りにあらずや。

されど歌謡に通ぜざるに拘らず、かの單純なる支那劇に少からぬ感興をよする態度に徴するに、國人の音樂に對する趣味の、萬更乏しきにあらざるを思ふ。

それにつけても胡弓・ギタ・マンドリンの如き樂器を推奨せむはいかゞ。これらのバンド又可なるべく、これをめぐる老若の圓舞又大いにめでたからずや。

既に音樂の發達に欠くるところあり。その文藝に對する興趣の索然たる、また怪しむにたらざらむとす。假名・諺文は内・鮮、幾千萬の人に少からぬ便利を與へつゝあるも臺灣には由來これに類するものなく、しかもかの漢字

さへ尙且行わるゝこと極めて少し。

當局の意志と内地の事情とを、最も正しく傳ふべき使命を荷ふ臺灣日日さえ、その發行紙數は三萬七・八千にすぎず。これに臺中・臺南にて發行するものを合するも、その總數は僅かに六・七萬。この國の人の所見を最も卒直に表示すと稱せらるゝ臺灣民報すら、ようやく二萬をいでざらむとす。されば地方青年の指針となり、若き主婦の手引きとなり、乃至趣味と實益をかね、家庭の伴侶となるものゝ如きはいずれもこの國に見出すこと能わざる也。

幾多の民族……我等は山地占居の一族十萬が、その實七族に分れ、これら七族又各々その言語を異にするを知る。されど又いわゆる廣東部落なるもの所々に存在し、この六十萬……福建人の二〇％に近き……人々又他と言語を異にし、風俗を別にし、婚嫁さえ尙未だ容易に相通ぜざるの現状を目觀し少からず意外の感にうたれしが他方、内地人の臺灣語を解する者甚だ少く、臺灣人の國語を辨する者さらに少きの事實を識るに及むで、さらに甚しく怪訝の念にたえざるものあり。

これを前の、この國人の間に文字なく……よしありとするも……その行わるゝ範圍の極めて狭小なるに考へあわせ、日常生活の不利不便は姑くこれをおくも、改隸以來四十年、依然として太古の民に安んずるこの國大衆のため……ひとしく臺灣文化のため……長歎息を禁ずる能わざる也。

見學と就學……こゝにおいて諸君の考慮と努力を煩わしたきは、地方有志者の觀光・見學のこと也。適當の時期を卜し十人・二十人を一團となし、まずゆいて臺北市にこの國の首都を訪ひ、この國文化の一般をうかゞひ・草山・北投の地についてしばらくその心身を新たにし、つぎて阿里山・日月潭に遊びて誇るべき斯國の大自然を察せ



しむ。

さらに進みては海を渡りて内地の文化・風俗を探ぐらしむべし。

この國には大小一千の學校あり。これに三十七萬の兒童・生徒を收め、年に一千七百萬圓の經費を支出す。教育の業はまことに肝心なるも、それには又少からぬ費用を要す。しかも我等は家のため、村のため、社會のため、國のため、勉めて子弟を學校の門に送らざるべからず。

學齡兒童の就學率三五%にとどまるといふも、すておきがたき事態なり。

我等の諸君の力を煩わしたきこと、このいわゆる就學獎勵のほかには補習教育のことあり。社會教育のことあり。尙且社會事業のことあり。將又産業組合のことあり。農業倉庫のことあり。又かの業佃會の如き、小作慣行改善のごとき、或は又家長會の如き、主婦會の如き、青年會の如き、處女會の如き、ならびにかの國語普及會の如き、いずれも諸君の力を煩わすにあらざれば到底その發達・普及を期するをえざるものなり。

自治制度……この國の自治については大體、この國の總意を重んじ又主としてこの國の人の力により、これが完成を期すべきや論なし。但、その徑路は大様、朝鮮・樺太・北海道の先蹤をおふべく、やがては有能の代議士數名を帝都に送るべく、又しかあるべき時機の、一日も速かに到來せむことを望むもの。而してこのことたる、一に國人の純正なる自覺と勤勉と、而して又當局者の公正なる理解と判斷とにこれよる。

惟ふにこの間に善處する諸君の勞や容易ならざるべし。我等は五百萬のこの國のために、切に諸君の自重と奮勵をねがふもの也。

#### 州知事諸卿……

難い哉良二千石……近頃政黨政治の波及するところ、地方牧民官をして長くその地位に安住せしむることを容さず。従つて眞に國利民福を圖るの良二千石、ようやく跡を朝野の間にひそめむとす。

たま／＼働きありと稱せらるゝ者も、年齒未だ熟せず、經驗未だ深からず、多くは功をあさり、績を急ぎ、自己の存在を示さむことをこれかかる。

ことに代かわり時うつろひ、總選舉式かたの如くに行わるゝや、同類相倚り、同朋相結び、ゆきて前任者の餘威を地方官民の間に示さむとする者あるに至る。時弊の然らしむる所、やむをえざるものありといへ、我等をしてよろに京童うきこのいふ……萍稼業うきかぎやう……の言を想ひおこさしむ。

臺灣五州の知事諸卿……卿等既にこの國にあること數年、そのかつて最高學府にて修められたる學術は、多年の實歴・經驗と相まち、幾多臺灣治績の上にあられ、又現にあらわれつゝあることは我等のひとしく認むる所也。

且、卿等の足跡は既に隈なくこの國に印し、地方の民俗・習慣又夙に卿等の熟知する所となり尙、地方の有識者この國の縉紳は、いずれも卿等の親しく交遊する所なるべきを思ふ。

總督に學べ……我等はかつて某總督の屈託談をきく。即、總督は臺灣の王様を以てその自重を餘義なくされ、市中觀光のまゝならぬは勿論、官邸への訪問者もおのずから局限せられ、ホンノ一跨ぎの總督府への往復さえ、尙且乗車を必要とさせらる。

かゝる状態の下、本來家庭にめぐまれざりし該總督は、やむなくひとり廢墟にひとしき官邸にこもりいて、時に



糸を後園の池にたれしといふ。

けだし苟くも總督の天命を拜し、この國、統理の重任にあたる。舉措輕々なるべからず。常に相當の威嚴を保つこと、もとより必要なりとするも他方又寛仁、躬を以て衆を率うる所あらむを要す。

如上の點において、我等は深く現總督の行動を賞讃す。

即、その視察は殆んど普ねく全國に及び、民情を察することひろく、産業を閱すること遍ねく、所在有志にきき有司をねぎらふ。しかもその人に接するや極めて懇切。かくの如きは卿等のよろしく學ぶべき所なりとす。

寛嚴よろしきをうといひ、恩威ならび行ふといふが如き、古來しばしば唱道せらるゝところなるも、その實行は中々にむつかしきもの。要は諸卿の、知事様の重々しきに尙、知事さんの親しみを加えられむこと也。

夫人の力……知事さんの親しみを成さしむるものに夫人の働、與りて力あり。

この國に家長會・主婦會の設けありと雖、その數前者は平均一街庄に二か所、後者又一か所にみたく。青年會又一街庄に二か所の設けあるにすぎず、處女會の如きも全國を通じて四十にみたく、會員又一萬に達せざるの現況にあり。

我等の最も望をかくる國語普及會の如きも、晩近盛運に赴きしといふも尙、講習所の數一千五百。四萬の修了者を出すにとどまる。しかも他方、國人學齡兒童の就學率は三五%。その公學校の卒業兒童も一か年僅かに三萬にすぎざるの實狀にあり。

よしこゝに四十萬……全戸數の五〇%にあたる……の農家あり。このもの一戸平均二甲づつを耕やし、各戸七百圓づつの生産物をあぐるとするも、彼等の變化なく、趣味なく、四季を通じて營々たる生活は、又少しく文化の露のうる

おすことを要せずや。

諸卿すでにこの國一流の人物として朝野の信望をその身にあつめ且永へにこの國の恩人たらむ者。その夫人の、その夫君を助け各々この國のために竭されむこと、又もとよりその所なるべし。

凡そ治績を地方にあげむ者、その民俗・狀勢を識るより急なるはなく、その民俗・狀勢を識る、その言語を解し、總意の所在を察するより急なるはなし。けだし民俗・狀勢をつくさざる所に、融和なく協力なく、言語・總意を解せざる所に、諒解なく心服なし。

言語相通せずして……かつて内地人十七萬の折に臺灣語を解する者一萬七千あり。又國人三百五十萬のときに國語を辨する者十萬あり。今かりに臺灣語を解する内地人を二萬、國語を辨する國人を十五萬とするも、相互正しき諒解をとげ、よく和平親善の交りを訂すべき同志は、僅かに十七萬にして、恰かも全住民の三・四%を占むるにすぎず。かくの如くにして内・臺の融和、はたいすくにかこれを求めむ。

我等は諸卿ならびに令夫人、のいずれも如上二萬の……しかも最も重要なる……一部なるを信じ、かくて國語普及のより以上獎勵されうべきを欣ぶと共に他方、總督府の吏員の、必ず臺灣語を修むるの制の定められむことを獎むるもの也。

國人の登用……諸卿の部下……五十九の理事官・二百五十餘の街庄長・五百の屬……その他技手等々又いずれも怡々としてその職にいそしみつゝあるは、これを終始齷促たる我等の境遇に比すれば、まことに羨ましき限りに思ふ。唯望むところは諸氏の優々に慍れず、不振に陥らず、毎に清新の氣分を持し緊張の態度におり、かくてよく國策の遂行・達成に努められむこと也。



さるにても今少しく國人の拔擢・登用を見たいもの也。

人或はこれを能力の問題に歸す。されどこの國すでに一千の學校あり。こゝにて教育・訓練せらるゝ者三十七萬、その業をおゝるもの年に三萬數千、しかも年所をふること四十年、もしこの國の教育にしてよく適當に行われたりとせば、すいふんともに國人の多くが、ご用にたちおるはずと考へらる。

又たとい民族自決といふが如き奇矯の議論に口角泡をとばさずとも、この國のことはなるべくこの國の人にやつてもらひたきもの。但、この人たる、忠誠・着實にしてさらに相當の學識あり技倆あるべしといふに止まる。

國人の教育……學校教育・社會教育については最も諸卿の考慮を求めざるべからざるもの。もし徒らに局面展開を必要とする内地のソレの模倣に止まるとせば、我等の失望は甚だ大なるものあらむ。

この國の學齡兒童にして就學の始期に達せるもの九十萬・公學校兒童數三十二萬・人口千人に付六十四人にしてその就學率は三五%。かゝる状態なりせば義務教育制の實施もいつのことか。又國人の在學者、師範學校にて七〇%といふはめでたけれど、中等學校にては三九%、専門學校にては二五%に止るといふが如きも正に講究を要すべきものたらむ。

地積二千三百万里・人口五百萬・その財政は一億三千萬圓・又よく六億圓の生産物をあぐる國柄として、こゝに文化の中心たる帝國大學の設立あるは、もとより然るべきところにして、従ひて高等學校あり、又別に各種一通りの専門學校あること、又もとより不思議のことにはあらず。要はこれらの教育機關が、大いにこの國の文化をすゝめ、この國の福利に貢献せむこと也。

されば收容すべき學生・生徒につきてもこの國人に對して相當の考慮を拂ふべきものにして萬一、これが充實をしいて内地に求め、國人をしてかえつて國外に遊學せしむるが如きことあらば、まさに本末顛倒の譏りを免かれざるべし。

形式をのみ學ばざれ……社會教育に關しても内地施設、成敗のあとに鑑み、徒らにその形式を學ぶの愚をおふべからず。例せばかの青年會・處女會の如き・主婦會・家長會の如き、將又國語普及會の如き、地方團體・學校・圖書館・博物館等との連絡・協調によらば、よく産業の開發に資し文化の向上を促すことをえむ。

又かの學校ごとに争ふて圖書・標本・器械を購入し、しかもこれを死藏するが如き、又圖書館の、名は圖書館といふも實は圖書館にひとしきの類は、内地所在に認めらるゝもの。もしこれを然るべく鹽梅・利用すれば、地方幾か所に小博物館の設立を見るべく、こゝにて講習を行ふも又面白かるべし。圖書館にしても學修・講演・映畫・圖書刊行等をも併せ行わしめむには、これ又興がる仕事とならむ。

由來諸卿は内地の事物に對し、自由なる觀察者にして且公平なる判斷者たり。而してこの觀察者にして判斷者たる諸卿は又有力なる實行者たり。けだし諸卿の位置は内地百般の事象につき、その由來を考へ、その經過を案じ、その効果を斷じ、さらにこれをこの國の狀勢・緩急に配し、その移すべきを採り、その阻むべきを退けうるもの。かくの如くにして假りに治績のあがらずといふが如くむば、何物か一時、諸卿の聰明を蔽ふものあるに外ならざるべし。

#### 總督閣下……

國勢を審かにす……我等の初めて足をこの國に下すや、ゆくりなく閣下の一行と邂逅しこゝに親しく閣下の視察



ぶりを諒することをえたり。

のち一路、南に向ひさらに北上して要所に車を駐め、その観るべきを觀、聽くべきを聽くに及むで又到るところ閣下の島勢を察するの熱心、配下・有志に接するの懇切なるを識り深くこの國のためにこの總督をえたるを欣びぬ。大策の樹立……惟ふに總督として統理の大任を完うせむがためには、まず以て島勢を審かにし、かくてこれに適應する計畫をたて、當事者をしてよくこれを諒解せしめ、その技倆を發揮せしめ、而して尙これを遇するにその道を以てするにあり。

かくの如くにして公正の統治しかれ、産業の開發行われ、文化の向上とげられ、官民その堵に安んじ、内・臺の融和始めて成らむ。

我等は閣下の新任にあたり、某方面よりいたせる建議書を閲し、その十一か條についてとかくの考察を加えたるところあり。今一々これを論評するをさくべしと雖、中には又他山の石となすべきものあるを見る。

要は過ぐる十年を顧みて、來るべき十年を測り、十年さきにはかくなるべし又かくあらざるべからずてふ判断の下に、こゝに統理の大策を樹立するを最も妥當なることとなさむ。

氣分の振作……常春の里・優々の國にありては、俄かにその舊慣を打破し或は強いて他の形式をとりいるゝはさくべきこと也。又一部の主張に動かされて、大衆の未だ希望・實行にそわざる施設を勵行すべきにもあらず。

たゞしかしながら、官民をして優々に流れ、沈滞に陥らざらしめむがためには、特にこれが對策を講ぜざるべからず。

今これを閣下の部下についていへば、視察可なり。招集可なり。上京・出張いずれも可なり。街庄の有司はこれ

を州に集め、又時に總督府に集む。州知事・理事官はこれを總督府に集むるの外、少くとも毎三年、相當の期間を附して内地へ赴かしめ又時に他の外地を視察せしむ。

又たとえ國內にある者と雖、年一回は或は臺北にいでて草山に遊び或は阿里山・日月潭を訪ふの便宜を與へ、かくて神心の振作・體力の恢復を圖らしむ。

如上の點に關し相當の設備あること、印度然り、フキリッピン亦然り。尤緯度・體質において彼我その趣きを等しうせざるものありと雖、彼是參酌して、閣下の部下・この國の人々をして、より以上、有爲の生活を營ましめむことは誰人と雖異議なき所なるべし。

待遇・施設……すでに郷里にそむき、骨肉と別れ、四季の變化なく、耳目を樂ましむることなきこの國に來る。こゝにその安住を求めむとならば、それ相應の待遇を講じ、適宜の施設を加えむこと、むしろ當然のことに屬す。一般人は三・五年は心もうごけ。七・八年をへば安住の氣分おこり、十年たてばこゝに觀念の臍をかたむ。

凡そこれらの勤績者に對しては、從來よりもより以上、さらに考慮を加えられたきもの也。中にも知事級にありては殆んど全生涯をこの國のために捧ぐるものなれば、ことさら特別の取扱ひを要すべく、或は將來・市尹・協議員などの職制あらたまらむには、これらの方面において引つゞきこの國につくさしめむこと、また一法なりといふべし。

監督と統制……我等はかつて帝國の財政を審議し、各省の對峙・割據により、少からず事業の進展を阻み、經費の膨脹を招くあるを案じぬ。其後一省わかれ、さらにまた一省の増設を見るに及び又往時の事蹟をくりかへさむがために、とくに處務・統制上、重ねて考慮を須んことを望みたりき。



臺灣の財政一億圓は、これを帝國の財政に比すれば十數分の一にみたと雖、すでに自給自足の域に達して比較的自由を事業遂行の上の有す。旁々以て、處務の上にも事業の上にも、いずれも監督そのよろしきを得、又つとめて各部の統制をはかるの要あるを思ふ。

かの三千萬圓近くを固定し遂に朝野の論議を引おこしたる日月潭の工事に、八百萬圓に上る不急の器械を購入したるが如きも、たま／＼以て如上の一例を示したるにあらざるなきか。

又閣下の親しく視察せられたる某々築港工事にも、或はその工程の進行上、さらに統制を促すの餘地なかるべきか。

さらに閣下の國人のために謀るに、その神心の振作・體力の増進を促かさむがために、少とも二國立公園の設置を要せずや。

社會教育の徹底……つぎに博物館の完成と増設と博覽會・展覽會の開催を提唱したし。

内地博物館の未だ民衆的・實用的ならざることは閣下の夙に悉知せらるゝ所の如し。博覽會につきてはこの國又すでにしば／＼その開催を見き。我等は當時その状況を審かにせざりしと雖、さきに京城に開かれしものゝ如きは豫期の如く百五十萬の觀衆を集めたりと稱す。その國人を啓發し、文化の向上に資し及び自覺・發奮を促すこと、けだしこの種の企にしくものなし。惟ふに十年を期しこの舉あるを可なりとせむ。

活動寫眞の問題に至りては事或は小なるに似て實は大いに然らず。けだし二十年の昔、初めてこれを歐洲よりえたる當時の有司は、これを活用するの頭腦と手腕とを有せず、従つてその眞價を發揮せしむること能わず、ひいて今日に至りぬ。

今この國においてよくこれを利用し又よく眞にこの國の文化に寄與せしめむとならば、須らく閣下の發意と主張とにより、これが發達と普及とを期すべき也。

國語普及の對策……この國農村に文字乏しきこと、而してこのことたる、この國にとりて眞に悲しむべきものなることは、すでに述べたる所の如し。我等は閣下の發意によりて、まず向ふ三年間に五十の假名文字の普ねく國人の間に慣用せられむことを望み、これと同時に新聞社・圖書館を中心として、簡單なる國語週刊冊子の、まず十萬の門戸に配布せられむことを望む。

國語普及をして、より以上獎勵せしむべきこと。學校教育・社會教育をして、より以上實際的効果をあげしむべきこと等もすでに敘したる所の如し。

この國……ありていにいへば百四十万里・人口八萬・六百萬圓の身代なる南洋は、我等にとりては餘りに小さし。されど又一萬四千里・人口二千餘萬・二億三千萬圓・の朝鮮は又少しく大にすぎ。ひとり二千三百万里・人口五百萬・部下三萬三千・經費一億圓のこの國は、よく統理の大任を遂行し、我等の抱負・經綸を實施するに、恰かも適應せるものあるに似たり。

しかもその職責たる、必ずしも五百萬人口の統治・方二千三百里の開拓に極限せられたりといふべからず。よろしく大いに商權を南支に伸べ、すべからく弘く産業を南洋に拓くべく、かくして太平洋域、文化の向上に寄與し、東洋半球、平和の確保に貢献する所あるべし。

これがためには或は自ら海峡を渡りて要人と民國に會ひ、或は親しく船をかりて總督とバタヴィアに語るの概あるを要す。かくの如くにして總督の榮職始めてはえ、親任の恩遇始めて酬むる。



16

鶏  
林  
十  
三  
道

5

望むところは上、ご信任のあつきに對し奉り下、國人期待の深きに鑑み、潔く政黨・政派の園外にたち、時流に阿らず、世評に惑わず、眞にこの國の幸福・帝國の發展に立脚して自重・加餐、永く十年計畫の達成にいそしまれむことを祈る。



## 鷄林十三道

……鷄林……

悠々三千年……この國の由來を考ふれば悠々こゝに三千年。初め太白山頂、檀君のことあり、箕氏・衛氏のことこれにつぐ。

のち一たび漢に北方の地をゆるし、二たび高句麗に強を唱へさせ、三たび新羅をして覇をなさしめ、四たび高麗をして天下に號令せしむ。

李太祖北陲よりおこり國をたて治を統すこと五百三十年。凡この間、人に榮枯あり世に盛衰あり、土に廣狹あり國亦隆替なきあたわざりしも、その事蹟をかんがへ、その文化をたすぬるの蹟、またもとより少しとせず。

即、平南の平壤に樂浪・高句麗の址をもとむべく、慶南の金海に任那の故地・日本府の昔をしのぶべく、京畿の開城に高麗四百五十七年の夢をはかなむべく、忠南・扶餘の地には百濟の最後をとむらふべく、咸南・咸興のほとりには李朝の發祥を想ふべし。

ことにこゝ慶北の慶州は、新羅五十六代・九百九十二年の蹟を語り、而してその文化は遙かにわが奈良朝に照應したるもの。さればこの國を訪ふ者の、まずゆいてその址をたすぬべき所たり。

由來、國の興り、偉人の生ずる、ほとんどつねに傳説・異聞を伴ふ。蘿井における始祖赫居世の出生の如き又全くこれに屬す。



高墟村長蘇伐公、望揚山麓蘿井傍、林間有馬跪而嘶、則往觀之、馬忽不見、只見大卵、剖之嬰兒出焉。則收而養之。及年十餘歲、岐嶷然夙成、六部人以其生神異、推尊之、至是立爲君焉。辰人謂瓠爲朴、以初大卵如瓠、故以朴爲姓……と。

新羅の勃興……始祖・朴赫居世・一たび楊山の麓よりおこり、代を累ねて次第にその勢力を伸張し、南方に覇をとなへてよく北方の高勾麗と拮抗す。かくて第十九世より第二十八世にいたる二百數十年の間は支那・南北朝の影響をうけ、ことにその後期にありては佛教傳來と、これに伴ふ藝術の輸入とにより、よく文化の進歩をいたし、わが朝またこれが影響をうくること著しきものありき。

二十九世武烈王の頃より國運ますく隆昌、その子文武王にいたりては、唐と力をあわせて高勾麗を滅ぼし、遂にこの國統一の偉業をなしき。武力已に然り、他方亦唐の文化を攝取し、しかも尙これを凌駕するものあり。かくてこの國獨特の藝術うまれ、遙かにわが奈良朝文化と相照應するを見る。

鷄 林……慶州の東南約半里、南川の支流にほど近く一樹林の鬱蒼たるを望む。境域二千坪・けやき・えのき・の老木枝を交ゆ。傳ふる所によれば新羅第四世脫解王の九年…垂仁天皇の九十四年…金色の小櫃この樹枝にかゝり、白き鷄その下になく。王これをきゝ小櫃を開きみるに、内に小兒あり、容姿すこぶる奇偉、乃たてゝ太子となす。これ金閼智にして、その七世の孫・味鄒たちて王位につき、これを金氏の始祖となす。この故事により樹林を鷄林と改め、ひいて又國名となすに至る…と。

新羅五十六王、中に金氏三十八世・朴氏十世・昔氏八世を別つべし。

慶州……新羅の故都・慶州は大邱より十七里、釜山より二十八里、迎日灣をさる七里、廣表二里半・明活・

仙桃・金鰲・小金剛の諸山・四方をめぐる、内に伊川・毛良・南川つらぬき流る。今二千戸を収むるにすぎざるも、その盛時に當りては、よく一千三百坊・十八萬戸を算せりとつとふ。

慶州の探勝はまず鳳凰臺上の展望より始まる。こゝに舊都の大様をうかゞひ、東に向ひて途すがら小金剛山・栢栗寺・脫解王陵等を望み、芬皇寺にいたりて一種異様の三層塔を見る。

つぎて皇龍寺址に入り、その偉大なる礎石を検して、そのかみ八百八寺の一をおもふ。

雁鴨の池としきげば甚だ俗なれど、臨海殿の眺めは慶州隨一と知られたり。こゝ文武王の築かれし所。

月城より南川のほとりを四天王寺畔に逍遙すれば、そのなごやかなる風光は、人をして遠く千年の昔を回想せしむるに餘りあり。

歩をかえして・たかきび・の間に瞻星臺をあふぎ、鷄林をそゞろあるきし、さて五陵と蘿井とに詣りて始祖をとむらふ。

鮑石亭址に曲水の遺跡あり。五十五代の景哀王たまゝこゝに置酒し、後百濟の甄萱のために害せられしところとつとふ。

亭址に至らむとする所に小流あり、水清く流れ優に、ボブラ三・四影をひたして、すこぶるカメラマンの好尙に適す。

つぎに西川をわたりて仙桃山下、武烈王陵にもふで龜趺を見、西岳書院を訪ふ。

以上に三・四時を費し、かえりて博物館に石器・陶土器・瓦・埴・佛像・石獸・石燈の數々を鑑賞す。

スウェーデン皇太子の興がられし瑞鳳塚、鳳凰臺南・半壤の古墳、又鳳凰臺西等より發掘せられたる金冠。その



他粧身具・武器・用器・ことに漆器の類は、いずれもこの珍寶に屬す。

中に今をさること千百六十年、三十六世惠恭王の代に鑄造せられ、もと奉徳寺にかゝげられしといふ梵鐘に至りては、その形態といひ、紋様：ことに飛天の像：といひ、雄健にして流麗、よく當代美術の精華を發揚せるものにして、こゝ隨一の稀品たり。

佛國寺……故都・慶州を大觀せる行客は、躬を可憐なる輕便鐵道に托し、數哩・一時間をへて佛國寺驛に着しホテルよりの出迎えにより、まず名刹佛國寺に詣づ。

佛國寺の草創又遠く一千四百年の古えにありといふも、大部分は景德王：千百八十年前：の修築にかゝる。

寺は吐含山の丘陵による。行客はまずその石壇の奇巧なるを認め、これを登りて泛影樓を通りすぐれば、脚は期せずして多寶・釋迦・二塔の前に停まる。

大雄殿に向ひて右方、方形基壇の上、矩形の柱をたて、上に斗拱あり又方形の屋蓋を支ふ。屋蓋の上に勾欄あり、以上層を重ねること三、さらに八角の屋蓋を冠して頂に相輪をたもつ。石造築造物にしてかくの如きものは、ほとんど他所にこれをみず。名にしあふ多寶塔といふはこれ……。

釋迦塔は左方にありて一に無影塔といふ。方形の三層石塔にして高さ二十七尺、塔身の四隅を柱狀にきざみ、軒に五重の持送りをあらわす。この塔、手法簡なるも、各部の權衡最も整ひ、沈着にして優麗、まことに快心の傑作たり。

石窟庵……長閑なる一夜を佛國寺ホテルに送り、露をふみて二十六町を、あえぎく石窟庵……もとの石窟寺……をみまふ。

山稜にたちて日本海を望む心地はさすがに快し。少しく降りて又少しくのほれば、道は自ずから窟前に通ず。

窟内中央にいますは花崗石・丈六・跏趺の釋迦如來。そうごう・姿勢ともに莊重、この國無雙と稱せらる。これをめぐる周壁亦・觀音・羅漢・菩薩の陽刻あり。これ又特殊の形態をそなふ。中にも杯を捧げて供養する文殊菩薩の立像の如きは、秀麗・溫雅・ほとんど他にこれが匹儔を求めざるもの也。

この他、傳説を語るものに南山の影池あり。鷄述嶺の望夫石等々あり。掛陵・又文武王の陵とも稱せられ、閑寂の地域に傀偉なる石人・石獅ならび、丘狀にして頂圓、芝をうえ護石をめぐらし、石欄を設く。ついで新羅陵墓の態様をうかゞふことを得べし。

## ……の國……

この國廣きこと……一萬四千三百二十方里。これを本州に比べて僅かに六百方里をゆするも、北海道：五千七百……九州：二千七百……臺灣・樺太：各々二千三百方里……を加えたるものに比して尙一千方里を超過す。しかも海岸線の延長又四千四百里の長きに達す。

この國又道を別つこと十三。その内、咸南の二千七十四方里・平北の千八百八十四方里・江原の千七百三方里・咸北の千三百十方里・慶北の千二百三十一方里……はいずれも一道にしてよく内地の四國を凌駕す。その小道・忠北・忠南・全北といへども大縣・官崎・鹿兒島の諸縣に匹敵すべく、慶南・京畿・全南・平南に至りても又よく新潟・長野・福島・岩手の諸縣にくらぶべし。

山秀で水ゆたか……この國又北緯三十三度……六分四十秒……より四十三度……三十六秒……の間……のび、釜山は名古屋



と、京城は福島と、平壤は水澤と、咸興と新義州とは秋田と、清津・羅南もしくは會寧は函館とや、その緯度を同じうす。

尙この國の地勢たる、長白山脈東方より入り來りて西南に走り、咸鏡二道と平南に亘りて一大高原地帯をなし、やがて一は北境を劃し、一は南に走りてこの國の脊梁を形づくる。

こゝに冠帽・雪嶺・胞胎・白山・蓮花・稀塞・猛扶・狼林等の諸峯をびえたち、中に冠帽は咸北の茂山郡に蟠りて標高二五四一米、實にこの國第一の高山と稱せらる。

南走するものは江原道に入りて東海岸に近く、金剛：一六三八米：五臺：一四三四米：の名山をおこし、忠北・慶北の境において、さらに東西に岐る。その一たび海に没するもの、即ち西に巨多の島嶼を現出す。

慶北の俗離は一千米、同じく伽倻は二千四百、慶南の智異は一千九百米をぬく。

さればこの國の地勢は自ずから三斜面にわかたれ、東、日本海に面しては急峻にして平野に乏しく、南、朝鮮海峽に向ひては地積又甚だ廣からず。唯西、黃海に面しては沃野遠く開け、大河又これを貫流す。

鴨綠江が咸南より發して平北に至り、流程二百一里・流域二千五十七方里。この國第一の巨川たる、人皆これをしる。

又漢江が京城をめぐる：流程百三十一里・流域一千七百万方里。豆滿江が：流程百三十二里・流域六百八十一方里。滿洲との境をなし、大同江が百一十一里を流れ流域一千八十一方里に及び、溶溶黃海にそゞも人又これをしる。

その他、清川の平安を、載寧の黃海を、臨津の京畿を、錦江の忠南を、萬頃的全北を、將亦榮山の全南をうるおして共に黃海に注ぎ、且、蟾津・洛東の：流程百三十三里・流域一千五百四十七方里：慶南を培ひて朝鮮海峽に流

れいり、及び漁郎・南大の咸北を、北大・城川・龍興の咸南を、東の方に日本海に朝するのたゞひは、いずれも皆この國に對して重要な使命を有するものとす。

**三寒四溫**……この國の氣象はさすがに大陸の影響をこうむり、寒暑ともに烈しく雨量又少きを以て、大氣自ずから乾燥す。その一年の平均溫度は南部において十三度、中部において十度、北部において四乃至八度を示す。これを緯度を同じうする内地の各地に比するに、低きこと約一度なるも、晝夜における較差は比較的大に、時には十五度にも及ぶことあり。且、春秋の期間短く冬季長きの差違あり。

雨雪の量：降水量：亦概して少く、釜山地方にて約一千四百、京城附近にて一千二百、平壤にて九百耗。これらは同緯度たる名古屋・福島・水澤に比して二・三百耗を減じ、清津・會寧の五・六百は函館の一千百耗にくらべて約その半ばをふらすにすぎず。

されどこの國にては、降雨期と乾燥期との區別截然たるものありて大部分を六・七・八の三ヵ月にふらす。従つて一日：百：又二百耗：尙それ以上をふらすこと珍らしからず、しかも一年を通じての快晴日數は内地のそれに比して二倍もしくはそれよりも多し。

快晴日數の多きこと：日照時間の多きこと：及び強烈なる暴風の少きこと：二百十日・二百二十日などの厄日もなきこと：ならびに夏期において雨量の潤澤なること等は、この國をして農耕、ことに稻作に至大の便宜を與ふるものにして、かねてこの國をして農業國としてその名をなさしむる所以ともなる。

この國の北境を劃する豆滿江は十二月にあれば堅氷直ちに至り、ひいて四月上旬に及ぶ。鴨綠江の徒渉亦十二月の上旬に始まり三月中旬、春江水暖鴨先知……。



雪や氷にとざさるゝもの、ひとりこの河のみには止まらじ。大同・漢江の二江又十二月には結氷し三月上旬に至りてわずかに氷を解く。

今もしこの國、海岸線の状況を知らむとならば地形の示すところ、日本海・多島海・黄海の三方面に分ち察するを要す。

この國・海岸線の延長四千四百里に達すること已に記せし所の如し。日本海面即、豆滿江により釜山に至る海岸線はその間實に千里にのび、水深くして干滿の差著しからず、且リマン海流は北より、對馬海流は南よりいたり、いずれも多種多様の魚族を洄游・繁殖せしむ。

釜山・迎日・永興の諸灣もとより結氷を憂へず。釜山より木浦に至る間は多島海の名にそむかず、島嶼散在・岬灣錯雜・剩さえ又寒暖兩海流の影響をうけて魚類の分布すこぶるひろく、且交通の發達はいよ／＼益々これが配給を容易ならしむ。これらのこと馬山・鎮海・巨文・濟州・諸島の附近、光陽・江西・木浦の沿岸等をことに著しとなす。

木浦以北、鴨綠江口に至る、いわゆる黃海沿岸は岬灣・群嶼相食み、淺灘・瀉洲相望み、黃海の中心に至つても尙五十尋をこえざるの状態にあり。しかも各所とも干滿の差甚しく、中には三十三尺の多きに達する仁川の如きもあり。

この國もと、三寒四溫の語あり。寒きこと三日の後、暖き日、四・五日つゞくをいふ。このこと嚴冬期において、ことに正しく終始・循環す。

凡これらの事實を顧るときは、ほどこの國の地勢・風土が、いかにこの國の國風・國人の氣分、並びにその生活状態に影響するかを想ふべく、併せて又この國、産業の沿革・發達の如何を察するに足るものあらむとす。

土地と人と……この國の總面積は恰かも二千二百二十六萬町歩にあたり、耕地の四百六十萬町はこの二割一分

……内地は一割七分……林野の一千六百五十萬町歩は七割四分にあたる。

今少しくこれが利用を案ずれば、まず農業に従事する者は總人口の七七％……内地は五〇％……耕地の内、畚……水田

……と田……畑……との比は一と二。但、畚の六割は南鮮……忠清以南の六道……に存し、中部……京畿・江原・黃海……は三

割、北部……平安・咸鏡……の諸道はわずかにその一割を有するのみ。

畚と田との割合亦南部は相半ばするも、中部にては一と二との比となり、北部にては畚は耕地の八分の一を占むるのみ。

自作と小作との割合は平均畚において自作三七……内地は四九……小作六三。田においては自作五六……小作四四。

農家一戸當の平均耕地面積は一町・五七……内地は一町一……多きは咸北の二町九五。而して咸南・平安・黃海は、いずれも二町餘にあたり、慶南最も狭小にして・九五を示す。

つぎに一千六百五十萬町歩の林野について見れば、立木地は九百十七萬町歩にして五割餘。但この内、半數は地勢上未利用の状態にあり。而して殘餘の七百三十萬町歩の半は、散生地なるも地力減耗して充分の生育を望みがたぐ半は全く生産に與らざる未立木地、然らざればいわゆる荒廢地に屬す。

以上の林野を所有別に見れば、民有七百三十萬町歩・國有實に九百十七萬町歩の多きに達す。

この國の總人口二千一百萬。内、男一千八十萬は女一千三十萬に比して一・〇四六にあたり、はるかに内地の一・〇一を凌駕す。



この國由來・平南・黃海：又慶南：に婦人多しと稱せらる。しかもその平南を以てするも、女一〇〇に對して男一〇二の數を占む。江原・全北・忠北・忠南・京畿の諸道は男の數はるかに女の數にまさり、その江原道の如きは女一〇〇に對して男一〇八の多きを見る。

この國十三道の平均人口は百六十二萬：内地の府縣は百二十四萬：人口の密度は一千四百七十一人：内地は二千六百〇二人：にあたる。而して尙こゝに、明治四十三年併合の當時、五萬戸・十七萬人なりし内地人が今約十三萬戸・五十三萬人となり、總人口の割合において二・五%を占むるに至れることをしるしおく。

### ……水原の半日……

西湖のほとり……海上八時間・百二十二湮、釜山にこの國の初歩を印すれば、軌幅四呎八吋半の列車は我等を迎へ、北走十時間、かくて我等をしてこの國の首都・京城府に到らしむ。

京城より南一時間、我等は右窓に鏡の如き西湖と、えがくが如き麗妓山と、規制正しき水田と、低き林と、點々たる農家とを望む。

こゝ農事試験場の廣さ百四十町歩。畜あり田あり。池あり林あり。果樹園もあり。畜舎もあり。かくして一般農業・園藝・畜産・分析・土地改良等に關する試験・調査・講話・はた亦種苗の配附等をつかさどり尙、蠶業試験所と女子蠶業講習所とを設置す。

この外水稻に關しては南鮮支場を裡里に、干拓に關しては出張所を金堤に、棉作に關しては、木浦に支場と、龍岡に出張所とを、畑作ならびに甜菜作に關しては西鮮支場を沙里院に、北部蠶業に關して出張所を車輦館しやれんくわんにおく。

かくて場長はじめ専任の技師技手等四十餘人・經費四十八萬圓。而して研究・調査に關する報告・彙報を發行・頒布することかたの如し。

かつて本場に附置せし農林學校は、すでにこゝより分離して水原高等農林學校となる。この校、すでに千に近き卒業者をいだし、年々志願者の四分の一を收めて今、百七十餘名：内、この國の人三分の一の生徒を有し、かねて教員養成所と實業補習學校とを經營す。

この國の農業……加藤・八田兩氏の東道により諸君の熱心なる研究と、不斷の努力とをうかゞひ、又ゆく／＼この國農業の大様をきく。

本場の前身・勸業模範場の創設は遠く明治三十九年の昔にあり。その翌年：四十年：五月十五日、伊藤統監は部下數十名を率いて來場し、内外朝野の名士・婦人・席につらなること八百、かくて花々しく開場の式あげられき。烏兎匆々こゝに三十餘年、今日この國の農家を數ふること二百八十萬戸。これ等は四百六十萬町歩：畜百六十五萬・田二百七十五萬・火田二十萬町歩：を擁し、これに約一億圓の肥料：内・金肥約二割：を加へ、よく十三億圓の生産物をあげ尙よく二億數千萬圓がものを移輸出す。

農産物の大宗はいふまでもなく米にして一千六百萬石。麥亦一千萬石に近く、大豆の四百萬石。粟の五・六百萬石。ばれいしよの一億萬貫。棉花の一億七千萬斤。蠶糸の四十萬貫の如きは、いずれもひとしく重要な生産物に屬す。

さらに注意を要すべきは各主要農作物の反別と收量とにあり。但、米の反當平均一石にすぎざるが如き、麥の九斗をいでざるが如き、大豆の六斗にみたざるが如き、粟の六斗九升を示すが如き、たうもろこしの・六・七斗の收量



に止まるが如き、乃至・ばれいしよの百四十貫、さつまいもの二百二十貫を示すが如き、その他燕麥の七斗。大麻の十八貫。棉花の九十六斤を收むるといふが如き、いずれも尙當局の努力と當事者の奮勵とを要すべきものたり。  
當局者の努力……されど過去三十年、當局の努力は遂にこの國において優良水稻種をしてよく八割に近き面積にまで普及せしむるに至る。今これが續を榮するに、穀良都・早生神力・多摩錦は南・中部に榮え、龜の尾・日の出・關山等は北部にみのる。

然るに近來施肥次第に行わるゝに至り、いもち病・ようやく蔓延し、こゝに又種類の選定・品種改良の要、認めらるゝに至る。

陸稻の栽培面積は今、三萬八千町歩にして約二十六萬石を收むるにすぎざるも、北部地方には漸次これが栽植を増し來らむとす。

この國の、粟を入れて……二百萬石・二千五百萬圓……米を出すこと……七百萬石……これ亦特殊の現象に屬す。我等の、一人一か年一石二斗の米を用ふるに對し、國人は米約五斗・粟四斗等々を用ふるものゝ如し。

粟の・しらが病……又さゝら病……はこの國において容易に五百萬圓の損害をかもす。この病菌の胞子は土壤中にありて相當生命を保つ。これにはセメサンにて土壤を消毒し、休閒一か年を要すべしと。

増殖計畫……この國もとより各種の増殖計畫あり。即ち棉につきてこれをいへば、大正八年以降十か年を期して栽培反別を二十五萬町とし、實棉の二億五千萬斤を收め、かくてその半額を移出せむとし、養蠶については大正十四年以降十五か年を以て生産百萬石に達せしむべく、畜産、ことに牛につきては、現在の百六十餘萬頭を、二百二十萬頭に増加せしめむとするの類也。

この國由來馬少く……五萬頭にすぎずして……耕耘・運搬のこと主として牛背による。この故に人畜相親しみ相馴れて、垂髻の少年少女にして自由にこれをあやつること、所在皆然り。

牛は甚だ大ならざるも、負荷量は平均四十貫、耕作使役は一か年七・八十日より百二十日にいたるときく。

十三道中・慶尙・平安・江原・咸南は牛多きところ。されど全國を通ずれば耕地の十町歩に對して三頭七、農家十戸に對し五頭七にあたる。

乳質はホルスタインに比して脂肪量やゝ多しといへり。方今百六十六萬頭ある内より年々約五萬頭を移出す。

豚の百三十萬頭は農家十戸につき僅々四頭半にあたり、鶏の七百萬羽は同じく二羽にすぎず。緬羊につきては今、會寧のあたりにそれらしき一群……五百頭……をみとむれどかつて生産率九八・育成率八六をえたる事實によりてこれをおすに、その五・六十萬頭を飼育せむこと、さまでの困難にあらざるが如し。

産米増殖計畫は大正九年に成り、同十五年に更新せられ、昭和四年、一部に改訂を加へらる。

大體土地改良と農事改良とに別たれ、大正十五年より十四か年を期し……

- 一 三十五萬町歩の地に土地改良を行ひて…… 二百八十萬石……
- 二 これに施肥・耕種法を施して…… 百九十二萬石……
- 三 前記以外の百三十九萬町歩に耕種法により…… 三百四十四萬石……

合せて八百十六萬石の增收をえ、この内三百萬石をこの國需要の増加にあて、殘餘の五百萬石を移出し、當時の移出高と合して約一千萬石を内地に供給せむとするにありき。

而して本計畫に要する事業資金は、すべて三億二千五百餘萬圓とし内、土地改良事業に二億八千五百餘萬圓を、



農事改良には四千萬圓をふりむく。

但土地改良事業には二割より五割の助成金交附あり。且預金部より低利資金。東拓・殖産二銀行よりは社債による貸出金融通の便宜あるを以て、前記三億二千五百餘萬圓といふも内、六千五百餘萬圓は補助金となり、二億三千八百餘萬圓は政府の斡旋によりてえられ、結局企業者の調達するところは二千二百餘萬圓を算することとなる。

本田博士を憶ふ……さて又ルーセルンしげり、ハーリーベッチ花さく畜舎の地域をいで。はとやばら・うつくしくまとふ果樹園の事務所をみまひ、女子蠶業講習所の寄宿舎につましましやかなる部屋々々をみめぐり、ついで高等農林を訪ふて八田學士の懇篤なる説明をきく。

かくてその長く清き林をとおりにぬれば、我等は再び試験場の前庭にたちもどる。

こゝに歴代總督手栽の樹木を見るはめでたし。中に伊藤公の・さくら・ことにめでたし。これに對して本田幸介博士の胸像たつ。

博士の、誠實なる學者・温厚なる長者として、弘く内外人士の尊敬と信頼とをうけられたること、及び本場の草分けにして尙この國農業の大恩人たること等は、今更これをのぶるの要なし。唯我等さきに博士と相別れ、圖らずこゝに温容に接するに及び、追憶の情さらに新たに、左顧・右盼殆んど辭去するに忍びざるものあり。

西湖に面する杭眉亭に數氏と會す。談は再び本田先生より、ひいて駒場の學生々活に及び、轉じて生産より配給、組合より金融、進みて小作・移住・農民の負擔、やがては總督の田植：六月十四日：轉じて・まくわ・ポテト・はくさいの味。小麦・燕麥の對策。はては・あゆ・こひ・しらうを・そがり・かむるち・の品評にまで伸展す。

たゞこゝには小作慣行として・打租・執租の二法多く行われ、定租法亦行わるゝも一般に小作年限の定めなく、その上、地主は小作料額を自由に決定し、尙且舍音なる者兩者の間に介在してとかくの累をなすこと等……

負擔に關しては、まず地税は登録地價の千分の十七を税額とし、これに附加税たる地方費等々を合算すれば一反當り番一圓四・五十錢、田三十四・五錢、恰かも内地額の約三分の一にあたり……

かくて農家の平均負擔は、地税及其の附加税に、地方税たる戸別割。農會費・學校費等を加へて戸當十五・六圓となり、内地の約四分の一にあたること等……

移民に關しては、東拓は明治四十三年より始めて、今四千戸を留め、不二興業は全北に三百戸を移さむとつとめ、平康産業組合なるもの、又江原道に百戸を移さむとすること等……

かくて又内地人の農業經營面積は二十三・四萬町：内、三十町歩以上を經營する者五百二十有餘人に及ぶこと等……をしるすにとむ。

我等はこゝにこの國農業の大様を案じ併せてこれに對する施設の大體を觀き。

但、お國ぶりのステーションをかえりみてさらに舊城内へ進みいり・訪花隨柳亭・に正宗王のあとを悼み、赤松うるわしき山路を壯麗なる華山陵に詣で、やがて又三十一本山の一たる龍珠寺をおとづれむとならば……水原の半日……はよろしく……水原の一日……に改むるの要あるべし。

……綿の木浦……

太田は京釜線中重要な一驛にして京城より四時間餘、そこに湖南本線へのりかへ、西南へはしることさらに



七時間にして木浦府へ達す。

綿の木浦といへばあたかも飛絮繽紛たるが如く思われるれど、事實は左様なものにはあらず。この地西に儒達じゆたつの山影をおひ、東に黄海の煙波を漾わし、その岳をあふぎ水に臨むの形勝は、釜山・清津・乃至函館に髣髴たるものあるが如し。

儒達山上の展望亦すこぶるよし。さゝやかにして可憐なるは鮮人の部落。形勝の地をトして巍乎たるはクリスト教派の學校。名にしおろ木浦臺又脚下にこれを望むべし。

眼前に展開する島々の景色は、正に棋布碁列の四字につく。全南名物の一たる濟州島は百漚をへだて、今これを指點しがたしとするも、これより訪わむとする靈巖れいがんの山々は即ち彼方に望むべし。

綿の研究……綿の木浦の見學に、府をさる東北方約一里、一老面なる木浦支場を訪ふ。五月にまきたる綿は今、四五寸にのび、白衣の農婦、列をなして手に手にホミをふるふ。圃場ところへ、紫色の誘蛾燈のたてるも奇觀也。

こゝ試作の結果をきくに海島棉・エジプト綿は成績不良。米國陸地綿よりは・キングス・イムブルーヴ種を選び、この内よりさらに又優良系三八〇號・早熟系一一三ノ四號等々數種を得。

種子の交配……品種育成……は、東洋種と陸地棉とは交配至難。この國在來種と支那又は内地種との交配は意外の好果を收む。即、在來種は纖維細長・品質優良なるも、繰綿歩合二七より二八%にすぎず。これを繰綿歩合は大なるも、纖維短粗なる内地又支那綿に配すれば、よく三三乃至四〇の繰綿歩合を得。これによれば品質はとにかく、陸地棉の繰綿歩合三四より三五%なるを凌駕しえたる譯なり。

かくてこの國、綿作の方針として南鮮六道にはキングス・イムブルーヴ種を、北部四道には在來種の栽培を奨勵することゝなす。

温室には幸に前者の開花せるものあり。こゝにこれを要記すれば、莖は中大・樹姿下より上にせばまり恰かもかのピラミッド形をなす。

葉は小、花は乳白色、蒴は小形にしてやゝ圓形、多くは四室、種子は小、肩まるく一端とがり、灰褐又緑色の短毛をおふ。纖維の長さは一吋ばかり……。

播種は四月上旬より五月上旬までを適期とし、六月上旬をすぐべからず。十五日にして發芽し、九十日にして開花し、後四・五十日即、九月にいりて摘採はじまり……前後八回……十一月に至りて收穫を終る。

反當收量はこゝにては二百斤以上にも達すれど、總平均すれば九十六斤にあたる。但、在來種の平均は七十二斤にして、これをかの反別二十五萬町歩・實棉二億五千萬斤の計畫と共に、陸地棉は百五斤、在來綿は九十五斤の平均收量に達せしめむことをはかる。

つぎに陳列室にて貴重なる標本をみ且、興味ある研究談をきく。

中に開花順序につきての面白き圖解あり。結局、開花の順序は恰かも螺旋狀をなし、下部にありて、しかも莖本に近きものほど開花……やがて開絮……の早きを示す。

この國の栽培反別は近く十六萬町歩に達し實綿の收穫亦一億七千萬斤に近からむとす。内、全南・平南・慶南・忠南・忠北の諸道はいずれも一千万斤以上の産額をあげ、慶北・全北これにつぐ。ことに全南の産額は總額の三分の一以上を占め、實に全道の首位にあり、しかも木浦よりは總輸出額の半ばを出す。綿の木浦の稱、偶然にあら



ざるをしる。

製 油……綿の木浦を察したる人は又、日華製油の工場をみるの要あらむ。棉の實をむし、人毛布につつみ、壓力を加ふれば、黄褐の油タラ〜と流れくだる。幾十枚となく重なりあえる滓粕を取おろし、取はこび、處理鹽梅するいそがしさ。もとよりこれを滿洲の油房に比ぶべくもあらねど、正しく一見の値あり。

棉實よりは黒棉油得られ、さらに白絞油得らる。白棉油といふは、さらに一層精製されたる品也。

棉實よりは又、挽殻分離せらる。このもの燃料に供せられ、これより生ずる灰は又恰好の肥料分となる。

工場は十二月に工程をはじめ、七月に終る。尙會社の工場はこゝの外・若松・咸興・青島等にありといふ。

製油工場を察したる行客は、さらに東亞ゴム工業のゴム靴製作工場を訪ふを可とす。但、この國ゴム靴の需要は年額少くとも二千萬足には達すべく、しかもその半ばは、内地ことに大阪・神戸地方よりの供給にまつ。其上本品の製作は有力なる婦人工業に適するもの。

こゝ工場の生産能力、年額六・七十萬足にすぎずと雖、女工百五十人、男工五十名を擁し、これ等は各自廻送されくる素品を、鋏と小刀とベンジンとを以て容易に仕上げう。十時間の工程・三十乃至六十足、一足の工賃五錢として、一日よく一圓五十錢乃至三圓をかせぎうべし。こゝ不合格品はます五%なるべしといふ。

靈岩農場……舊友・佐々木仙助氏、大學をおふるや、一青年を拉してこの國に來り、南北をめぐる後、筈を月出山下・靈岩邑にとどめ、書をとばして會心の地を得たるを報す。かれもと法科の出、これより農耕々耘の業に努め、已にして又幾十町歩の地主様になりたる由を報す。

一兩年の後、かれの上京するや、盛んに經綸を吐いて同學を驚かし且、モーゼル銃一挺を抱いてかえりゆきぬ。

翌年、新居の成れるを報じ添ふるに家族團樂の圖を以てし、且曰く……月出山の虎、頃る農場に出没するの形蹟あり、いさゝか戒心を要す。子にして内地に獵心を満足せしめえずとならば、むしろ一たび來りて虎兒を逐ふの勇なきか……と。當時の筆者、未だそれほどの勇氣を有せざりしも、かれ茶々黙々……當時かれ好んで百姓をかくよびぬ……モーゼルをひねくりまわすの姿を想像し自笑禁ぜざるものありき。

然るにかれまもなく疾をうけ、意を兵頭青年に囑しつゝ中道にして遂に逝く。

邑 内……汽船靈岸丸は二・三十の客をのせ、海の如く河の如き水路を東方にすゝむ。低き空・ひろき瀉・十六哩・二時半をへて船はようやく靈岩の岩壁……海倉……にたどりつく。

車を東に走すること一里餘にして靈岩橋を渡り、いわゆる邑内に入る。

左方形勝の地に文廟……孔子廟……を仰ぐ。こゝ毎年釋奠の式行われ且、圖書館の設けあり。右方の石段をよすれば公立小學校たつ。

町をぶら〜あゆみて左折すれば、つきあたりの小高きところに舊郡廳の建物あり。その前に銅製の頌德碑數基たつ。左方、建物のみゆるは郵便所なりと。郡守のお宅はといへば、こゝなりと答ふ。郡廳にして新築せられしといふからには……郡守さんの所もたてかわらねば……と笑ふ。

地方法院の出張所あること故、代書所のあるもそのはず、旅館のたちならぶも道理としらる。

公園の岡に登り神社に詣で後、あたりを眺むるに、邑は丘陵間の窪地にのびおるものゝ如く、彼方の丘の白衣の人も、程近くにぞ望まるゝ。

面事務所のあたりにて、クワツ〜と音するを何かと問へば、蛙なり、鳴く聲に準じてその形も大なりといふ。



郡廳には郡守をはじめ屬八・技手六・雇員十四・五その他合せ四十餘名の人々あり。その三分の二はこの國の人といふ。警察官は二十四・五名。尤郡全體にては五十名には及ぶべく、約半數はこの國の人なりと。

こゝは靈岩郡の：靈岩面：にしてかつ郡廳の所在地也。

靈岩面は廣さ一方里・二千餘戸・一萬人あり。こゝ廣さはとにかく戸數・人口はさすがに十一か面の首位にあり歳出年額一萬三千圓。

郡廳の隣りに乾繭所、つづいて棉花販賣所あり。我等は市場にすゝむ。

こゝの市日は一・五にて、今日は恰かもその例日にあたる。野菜・雜穀・乾物・魚肉類・さては布類・うちわ・きせる・小間物・古道具の類など、所せまくうちならぶ。中に筆者の目をひきしは、一は飲食店と他はおめでたき品々をひさぐ店にして、内に黒き眼を光らす乾鮑もありき。

李産業組合長の好意にて・すぎぐし・の製法を見る。まだけ・の表皮をもとゝしすべて八十五工程をふ。男子一日、八乃至十枚をつくり、従業者七・八百名にて産額三百萬圓・十八萬圓を出す。

村の娘をつどえし織物傳習工場あり。白地木綿・巾一尺二寸・長さ四十尺を一反とし、一人一日十五尺より二十尺をおる。一反の價三圓五十錢ばかり、郡内の産額十五萬圓を下らずと。

引かえして本通りをゆけば、一きわめだつ金融組合あり。米穀検査所あり。藤中氏の宅もあり。公醫もすむ。

運輸會社の前は某自動車部。となりは某自轉車店。初音といふは料理屋なるべし。左の横町には精米所あり。そのさきは青年會館。

路傍に共同井戸あり。石桁をしつらえるもよく、柳の老木あるもよし。その木影に菓子うりじいさんの荷をおる

すことによし。

歩を轉じて茶々默仙の舊廬をたづぬ。細選苔をおびて落葉軽くしく。屋を壓するの巨木は、彼のしばくその梢をおおぎしものか。前庭をかざる數十の梅樹は、彼のみずからうえしところのものか。

かれがいわゆる團樂の一字又存し、壁面所々に數種の紋様をのこす。

默仙の遺兒、三男一女あり。長はまさに大學の門をいでむとし、最もよく乃父の面影をつとふ。昨年、兄弟相携へてこの地を訪ひ、低徊・躊躇去る能わず、遂に相擁して哭せりといふ。

靈岩農場はその抱有するところ三百町歩に及び、別に兵頭氏の力により、北一始面の干拓、百數十町歩成る。

郡 勢……干拓・水利に關しては後にこれをしるすことゝし、こゝに靈岩郡勢の大様を紹介すれば、郡の廣さ方二十九里……は全南二十二郡中、むしろ小なき部類に屬す。而してその人口密度は二七六〇人と稱せられ、地形さながら・たつのおとしご・に似、靈岩は恰かもその眼睛にあたと稱せらる。

全南の名岳、月出山よるちよるは邑の西南にそびえ、道誦師をかたる道岬寺はその西麓にたつ。

面十一・戸數一萬五千・人口約八萬の地を以てして一萬六千十餘町歩の耕地と、三萬町歩……總面積の六二%にあたる……の森林を有し、これより米十一萬五千石……反當一石一斗……麥五萬八千石……一石……棉三百三十八萬斤……百十斤……繭七百石等々四百五十萬圓の農産物と工・林・水産物すべて五百七十萬圓……方里當十九萬圓……戸當三百八十圓の生産物を收め、三十四萬圓……戸當二十二圓……を以て郡の經濟をはかる。

靈岩の今日ある、兵頭氏二十年來の努力にまつこと多し。かれ往年選ばれて道の評議員となるや、一たび……議長十九番……の蠻聲をあげて中外の耳目をひき、つぎてこの國の言語をあやつりて同僚の感喜をうく。かれすでに靈岩



の兵頭にあらず。

つぎに大日本農會の、全國農事功勞者を表彰するや、かれ又推されてその選にあたり、召されてしばし各官殿下のご前に咫尺す。かれ今は全南の兵頭にあらざる也。

舊友茶々黙逝いて二十年、常榮寺畔の墓石、苔すでに滑かなるも、かれ泉下に筆者のこの言をきかば正に會心の笑を浮むべし。

月出の峯を軒端に仰ぐ兵頭農場の宿りは、心極めて穩かなるを得き。からすみ・の味もたえに、皇泉の醉心地またすこぶるめでたし。唯昨日ふりそゞぎし二百ミリの豪雨は、まず靈岩・榮山浦間の陸路をたち、つゞいて龍塘間をも不通にし、かくて我等をして、また舊路をたどりて木浦をへ・羅州・松汀里をすぎ、光州へ向ふことゝなさしめたりぬ。

この邊の水ぎわに・とびはぜ・Periophthalmus Cantonensis・ふじふら・Boleophthalmus pectinirostris 無數にすむ。前者は水の上をチョロ／＼とわたりて可憐に、後者は砂坭をはいまわりて不氣味なり。但、いずれも砂中にむぐること極めて敏活なる代物たり。

### ……米の群山……

光州より全州へ……初め我等の意圖は、靈岩より車を榮山浦にはせ、光州をみまひ、潭陽をすぎて南原をたすね、北指、全州に至り、めぐりて米の群山をとふにありき。然るに時恰かもこの國の雨期にいり、沛然たる大雨は普ねく猛威を南鮮に逞うし、橋を流し堤をそこね、我等をしてまた悠々この地の山水に自適するを許さず、唯わす

かに鐵路によりてその首都をとふに終らしめき。

光州・全州ともに道廳の所在地にして人口三萬餘、この點・木浦・群山の二府と伯仲の間にあるも、さすがに昔の名都とて風景・人情ふたつながら凡ならず。ことにいずれも山河襟帶、清流また内外をめぐりて、よく京都の趣ありと稱せらる。

ことに又喜ばしかりしは、光州においては良夜を清談にすごし、全州にありてはとくに明快なるレストランに、知事、經綸の一端をきくをえたることなり。

全羅南・北道……こゝ大部分は馬韓の故地にあたり、人多く土地ひらけ、生産物の豊かなることおうむねこの國の上位を占む。

全南の地積九百方里・人口二百三十萬は、これを全北に比して甚だ大なるが如きも、一方里の人口密度にいたりては、全北の二七一九人に比して遙かに遜色あり。しかもこの全北の密度は實に十三道の首位にありて且優に帝國の二六〇二人をぬく。

全南の歳出、地方費・府費・面費・學校費・組合費・郷校費等を併せて八百十五萬、而してこれに國費四百二十萬を加えて一千二百萬圓。これを平均すれば一戸二十九圓。諸公課負擔額一戸十五圓となる。

又道下の官公吏一千六百餘・この外一千三百の巡查あり。これら三千人を通じて國人の數約六〇%をしむ。

全南又近ごろ順天・麗水間に鐵路通じ、麗水・下の關間に航路開く。

こゝ海岸線の延長一千七百里、この國全線の三分の一をしめ、島嶼の數、亦この國の有する半ばをしむ。

全南、耕地の割合は二九・林野は六二；成林はその四割にあたり；可耕未墾地尙約十萬町歩を存し内、四萬町の



干拓地あり。

さるにてもその四十二萬町歩の耕地より一億五千萬圓の農産物をあぐるは偉とすべし。しかもこのことは米…二百三十萬石…と麥と甘藷と棉と…馬と豚と鶏…の産額と共に、いずれも十三道の第一位をしむ。

全州 平野…：されど全北において一府七郡・東西十二里・南北二十里に亘る全州平野の如きは實にこの國三大平野の一にあり、内に腰橋・古阜・大雅・沃溝・雲岩等の巨池を擁し、加えて錦江・萬頃・東津等の諸川これを培ふ。

ことに東津組合の地域一萬七千町を培ふ雲岩の貯水池の如きは、集水面積四十九方里・満水面積七百二十町歩、その溢流洪水量さえ尙十萬四千立方尺に達すと稱せらる。

凡この平野たる、北は江景より南、井邑に及び、東、全州より西、群山に達す。内に一千町歩以上の水田を擁するもの、益山郡に多木・右近・細川・不二・大橋。沃溝に熊本・二葉。金堤に石川。全州に東山等の諸大農場あり。その他大小百餘の有するところ、正に三萬七千町の廣面積に亘る。

全州より裡里に車をはするに、當事者は左右茫漠、はてしもわかぬ青田を顧みつゝ…十七・八年前には田の中に・よし・の類おひ、收量も七斗あるかなきか、値段も七・八圓のもの所在にありき。然るに今は收量多きは三石に達し、賣買はなきも二百圓の價格を有するにいたれり…又曰く…：先年旱害相つき、收穫半減又皆無の場所もありしが、組合の水田にては、別にたいした變りもなかりき…と。

經營者はおゝむね水利組合を組織し灌・排・又水害豫防の事業をおこし、及び如上の利益をうく。全北にもこの八大組合ありてその蒙利面積三萬八千町に達す。當時の事業費は約一千七百萬圓…反當四十六圓…現在の組合員は

九千名…國人七千八百…組合の歳出は二百四十七萬圓…反當約七圓…を算すといふ。

干拓事業…：この國、堤防をきづきて溪水又は天水を貯へ、灌溉の用に供する設備を堤堰と稱し我等のいわゆる溜池に該當す。

又河流をせきとめて灌溉の用に供する設備を特に淤…又は復…と稱し、これが水路に淤渠・狭淤の名をわかち往々…犀…水龍又桔杵…によりて揚水をはかる。

されど國內、完全に灌溉の行わるゝところ、わずかに四十萬町歩。この内、在來の堤堰法によるもの實に八五%におる。されば依然として尙天水の惠による自餘百二十萬町歩の灌・排をはかること、もとよりこの國の緊要事たらむも他方、相當面積に上る干潟地を有用化すること、又これ當面の一事業たらずとせず。

この國の可耕未墾地は尙百萬町歩に達す。内に二十萬町歩の干潟地あり。

干拓を行ふについては、くさゝの注意を要す。今こゝにその要綱を摘記すれば…：

干潟地を選択するには、まず潮汐干満の差の三分の一以内…例せば干満の差二十四尺の個所ならば、満潮時冠水八尺未滿…の部分のみを利用すべく、而して耕地面積は普通干拓面積の七五%と見なすべし…：

用水源は費用の點よりいふも、まず淤をえらび、このこと叶ひがたき時に貯水によるをよしとす…：

除鹽は千分の二以下に至るを必要とし湛水・水耕・中耕機攪拌・明渠等により適宜にこれを實行し、且いずれの場合においても作付直前にこれを行ふこと…：

水稻の栽培は開墾後二年目までを直播とし、その間に極力、除鹽を努め、三年目より移植による。

干潟地の土質は粘土分六〇%以上の所もあり、又砂分八〇%以上の場所もあれど、普通の耕土に比して窒素過少、



石灰や、低度、加里・燐酸は相當多量にふくまるゝを以て、窒素肥料…ことに硫安…を施せば最も良好の成績をあげらるべし。

工費に關しては、百町乃至二百町歩の所にて反當平均百六十四圓。この内、防潮堤三七%…排水・開門六%…用水路二〇%…その他三七%と註せらる。

かくて普通の状態において收支の計算をたつれば……

まず事業費を反當百七十圓…金利七分四厘…とし五か年に完成せしめ、收穫は第十年…普通十年を以て熟田となる…に至りて二石五斗を收む。今一石を十二圓換、小作料を折半とし、尙維持費を反當一圓、管理費を小作料の一〇%とし、これらを第六年より計上すれば、第八年に至りて七分六厘…第九年八分八厘…第十年に至りて九分八厘の利廻りとなる。

尙工事費に關しては五割以内の國庫補助金、ならびに…低利・長期…七分・二十五か年以内…の均等年賦償還の資金をうべく且、移住費補助等の便宜をもうく。

今、既成の干拓農場を見むとせば、群山府外の不二沃溝農場…二千五百町歩…を推すべく、もし近く成りたるものとならば、金堤郡進鳳面における東津農業…一千八百町歩…を推すべきか。

米の群山…所は錦江にのぞみて全北・忠南の沃野をおひ、町あかるく、人多く、ことに米のでざかりには…つどふ群山米の山…の活況を現出する群山府も、遠く三十餘年の昔…明治三十二年…には沮洳連り蘆荻おひ、内地人の數又八十に満たざりしもの、今は町に堂々たる九條の大路を通じ、人口二萬六千…國人一萬八千…その輸移出入・釜山・仁川について年額五・六千萬圓を數ふるにいたる。

こゝよりいだとこの米百六・七十萬石。されどその豊凶により輸移出額に甚しき増減を生ずること、これ又自然の理にして例せば昭和三年の旱害は同三・四年の統計に一千萬圓の差額を生ぜしめしが如き、こゝに又…米の群山…の特徴あらわる。

海岸をゆくに、明太をさげ來る者あるにあふ。こゝにて初めてなまの・みんない・を見、且このもの・すけとうだら・ Theragra chalcogramma に同じきことをしる。

群山港は嚴冬結氷のため、時に船舶の寄港を妨ぐるあるも、その累はむしろ満干の差の大なるに存す。大正十五年以降六か年の繼續事業に屬し、二百八十五萬圓を以てする修築工事を案するに、一萬四千坪を埋立て護岸を築造し、その前面水上に、鐵筋コンクリート製・函船よりなる浮棧橋をしつらへ、かくて從來の錨地約十萬坪と、この浮棧橋三個とに、三千噸以上の船舶七隻の、同時繫船を實現せしめむとす。

筆者は米の群山を紹介すると、もに、諸君を不二農村にみちびき、その組織と藤井寛太郎氏の努力とを紹介すべきはずなるも、敘述するところ實利に偏したるの感あり。よつてこれを割愛し、以下少しく局面の展改をこゝろみむとす。

廣寒樓記…しとく…とふりそ、ぐ光州の夜の雨は、名曲春香傳を語るに最もふさわしき折からなりき。春香傳に關するものに別に廣寒樓記あり。麗人春香にはもとより變りなく、後者の桃鄰は前者に夢龍となる等、かれこれ多少の相違あるも、要は才子の風流と麗人の守節とに對し、府使の逸樂と兇暴とをあげ、よく一世を諷刺するところあり。

廣寒樓記の第一回を尋春と題し…肅宗時、文臣李弘、自雲觀正、出守南原、政清而訟簡、吏憚而民懷…を以て、



そのかきだしとなす。

李弘の一子桃鄰・字は花卿・時に年十六、偶々暮春の一日、いで、廣寒樓をたすぬ。記者：水山過客：これが風景を叙して……

南川一泓瀕爲澄潭、潭邊石橋、名曰鳥鵲、而廣寒樓臨橋而起、畫棟拂雲、華額耀眼：其東則青山萬疊、溪澗縈廻、其南則紅塵十里、車馬往來、西簾捲而茂林豐草相映於郊坰、北窓開而落霞殘烟交輝於城堞……といふ。

桃鄰、四方の景色をながむるところに、楊柳陰深き所に、綠衣紅裳の人の嬉戯するをみとめ、こゝにはじめて月香の娘・二八の少女・春香と相識る。

第二回を探香と題し、桃鄰牆をこえて春香を訪ひ：望見小閣、果是精妙：進到閣下、則中間正楣硃板、金字刻曰凝香閣……としるし：碧空不閉、朱簾半捲、紅燈生輝、綠琴乍鳴……といひ：正是人間良夜、靜復靜、天上美人來不來……と結ぶ。

第三回を凝情とし、とつおいつ、或は針をとめてかれをおもひ、又乍ち琴をとりてこれを思ふ麗人をうつし、つひに記して：羅襦衿解、香澤微生：正是櫻桃素樊口、楊柳小蠻腰、芍藥春翻白、牡丹露滴紅……と際どき所をうつし、つひに：日往月來、一度三百六十、天旋地轉、百年三萬六千、珠汗將凝、香夢初回……の如き名句をかゝぐるに至る。

第四回を惜別とし、一年の後、府使、豐海道觀察使に拜せられ、桃鄰亦從ひて京師に上らざるを得ざるをとき、かつ桃鄰三年の内に必ず再び至るを盟ふのこゝろあり。兩者惜別の情を叙することすこぶる切。

第五回の抗令は、初め後任府使の施政をとき後：吏慢而壅蔽、民困而愁怨……といひ及び：政堂之上、絲竹亂鳴、

官厨之中、酒肉如林……と稱し、さらに進みて……

翌日曉頭、府使坐衙、三班听令、官廳首梁無忌、進展吏案、府使喝退、只考妓案、戸長尹自用、進展紅粧案冊……於是三隊新粧、羅列於前、錦繡衣裳、燦々相映、金玉環佩、琤々相響……と叙し遂に：這尹自用、已揣府使之意、高聲緩唱一評品……に至りては、思わず人をして噴飯せしむ。評者亦戯れて：我東三百六十州、豈有如此點考法……と註す。

結局、府使はこひどく春香のために面責せられ、春香は容赦なく打すえられ、且長く幽囚の身となり了る。

第六回を守節とし、はじめ佳人芙蓉、春香にといて其意を翻さしむること能わす：彼心非石、不可轉……と歎ぜしむることあり。次に傾國梅香、府使の嬖幸をたのむことあり。遂に春香は官長面辱の廉を以て四月望を期し、ひそかに打死せしめらるゝの議成る。

第七回：奉命……に至りて李弘、門下侍郎に除せられ、桃鄰亦、實文閣直學士となり、つぎて湖南御史：暗行御史……に除せられ、湖南監賑の命をうく。かれ直ちに城門をいで、ひそかに睦淳の諸人とはかり、日を定めて南原に會すべきを約し、各々道を分ちていで、十餘日の行程の後、全州城の南、萬馬關頭に至る……時值春暮、紅疎綠密、青山無語、流水自咽……四月十五日、遂に南原に達す。

最終の第八回を踐約となす。御史ことさら亂縷をまとひ單身、城内にすゝみいる……殘花笑人、垂柳牽情……つぎに春香の家をおとづるゝに：粉牆欲頽、朱樓半傾……その後園にたゝすめば……蓬草裾に達し小閣深く殘陽にとざさる。

桃鄰、空庭に立ちて悵悵禁ぜざるところに、月梅、外よりかえり、一たびは驚喜しさらに憤激すること等あり。それより府使宴遊の盛況をえがき、繡關至りて廳をあげて狼狽するのていを記し、ついで御史出道、桃鄰、高車に乗じて政堂にいたるの様を敘し、終りに……



春香既到政堂之下、御史視春香、如此消瘦、暗把羅衫、頻拭淚眼、左右窺視者、莫不怪之……といひ、ついで……

御史曰、聞爾爲李公子守節、爾還認得李公子麼、春香暗視御史、頭上加冠、領下生髻、雖不可認耳朶眼眶、玲瓏俊秀之氣、宛然四時孺子、既瞻其容、又聞其語……正是三年夢中之人……遂忙步上堂、拜於御史……淚下如雨、口不能言……

といひ、結びて……自後富貴榮榮之事、何待更記……を以ておわる。

……京 城……

朝鮮神宮……京城に在るの日、直ちに車をはせて朝鮮神宮に參拜す。宮は天照大神・明治天皇を奉祀し、毎年十月十七日を以て大祭を行わせらる。緑したる後峰、白くかゞやく前庭、みやびたる神明造り、拭うが如き玉垣、さては三百八十四段をかぞうる磴道等、いずれもこゝ神宮にふさわしき結構たり。しばらく社前にぬかつき、この國の安全とこの民の繁榮とを祈る。

かくて境内の一角にたちて、東西一里三十三町・南北三里十二町・内に二百の町洞・四十萬の人口を擁し、経費年額八百萬圓をこゆる、わが京城府の遠近を指呼す。

府の大觀……まず當面、烏帽子に似たる北岳……又白岳……三三八米……を望むはめでたし。右にそびゆる北漢山には白雲・萬景・仁壽の三峰をわかつべく、ことに白雲臺の、最高峰……八三六米……を以てつねに霞を吐き雲を帯ぶるを偉とす。仁玉山また都の西天に峙つ。

つぎに左・右りに、千波萬波の……いらか・の海をつゝみ、こなたの岡よりあなたの峯え、颯々としてはひのぼる

古壘の跡を見る。これもと都の内外を劃せる城壁にして、その周回四里にあまり今、現に四門をそなふ。いずれも李朝五百年のあとを語るもの。

北岳の麓、巍然としてそびゆる白色の建物はこれぞ名にしあふ總督府。そのうしろは景福宮。府よりこなたに通ずる大路は光化門通り、このもの我等の直下にのび來りて南大門に通ず。

都大路に交わる東西の街路二條あり。こなたを黄金町としあなたを鍾路通りとす。

鍾路は右、東大門よりおこり、府を横貫して西大門に達し、古城壁をいでて義州通りに交叉す。義州通りをししばらく西北にゆけば、こゝに獨立門さびしくたつ。

總督府のドーム……さて又眼を總督府のドームに注げば、その視線のすぐるところ、京城日報・府廳・英國領事館・德壽宮・殖産銀行・圖書館・朝鮮ホテル・公會堂・朝鮮銀行等々を認むべし。

つぎに眸を少しく右方に轉すれば、漢城銀行や東拓の建物、さては三越のルフガーデンなど、さすがに著しく人目をひく。されどこゝ鶏群一鶴の概あるは、尖頭のかげしるく、且や毎日正午の鐘の音にてそれとしらるゝフランス教會の建物也。

その向ふに專賣局あり。視線は鍾路通り、パコダ公園の東、ならびに宗廟の上をすぎ、李王家の庭園にして且、都人優遊の地たる昌慶園附近に停まる。

園につゞく一むらこぶかき森のこなたは、李王太妃殿下の御在所・昌德宮。

大學病院の赤煉瓦は昌慶園の右方、小高き丘上にたつ。さだかにそれとみわけねど、視線の窮極するところ經學院と高等商業とあり。



京城帝國大學は大學病院の丘を東にこえたる一割を占む。この邊は新開にかゝり・高商・高工・醫專等相つらなり、かくていわゆる學校街をかたちづくる。

電車は東大門よりこなまがり、清溪川を渡りて京城運動場前に至り、さらに進みて獎忠壇公園にいたる。

龍山方面……行客はさらに歩を北崖の上に向つし、兵營と鐵道とによりその大部を占むる、龍山市街を俯觀すべし。

南大門をくゞる都大路は、しばらくして京城驛前の廣場をなし、進みて司令部・七十八・九歩兵聯隊・騎砲兵聯隊・工兵大隊・その他・宿舍・商店を併せたる、いわゆる軍人町を形づくり、さらに南下して又いわゆる鐵道町を貫き、かくて遂に漢江々畔に達す。

龍山は軍人町と鐵道町とを以てその主要部分をなすといふ條、こゝの岡・かしの山腹にうちたてらるゝ住宅の數は、月と共にまし年と共に隆んなるの状態にあり。

大 京 城……かくの如くにして大京城の境域は、南は漢江流域にそひて麻浦マポを併せ、北は北漢山麓にのび東、關をいでて清涼里・往十里に及び、かくて東西四里・南北三里の大都市を出現せしめむとす。

因にいふ。今日の京城府人口四十萬の内、内地人は約四分の一をしめ、兩性の比は女百人に付男百〇七人を算す。出生率は千人につき三六・二。死亡率は同じく三〇・六。ことにこの國人にありては前者四〇・二。後者三三・一を示し、いずれも甚しく高率なることを特記しておく。

南 山……南大門の東方よりおこり、獎忠壇の南に亘る一帶の隆起地は即、京城の勝地・南山ナンサンにして内に南山公園・倭城臺わじょうだいを訪ふべく、而してその倭城臺には、又名物の一つなる、記念科學館乃至舊統監官邸などのそび

ゆるを見る。

記念科學館がその幾千の標本を以てして、またその實演を以てして、あるひはまた講演・映畫の擧を以てして、ひろく科學ならびに自然科學の鼓吹・普及に努めらるゝことは、つとに中外の認むるところ。

倭城臺の統監官邸の、坂路を修め巖をうがちて建てられたる二階屋は、前庭の堂々たるに似ず、狹隘にして陰氣くさく、總督に對しても少からずお氣の毒の感なきを免かれず。

綠泉亭は五・六室をそなうる離れ屋にして邸後の丘上にあり。伊藤統監、三載起居の所。閑かに岫雲の青きを見るべしと雖、松柏徒らにのびて少からず當時の展望をそなえるが如し。秋期、茸狩の娛は存すときけど・南山すみれ・のすくなくなれるは惜むべしとなす。花戸のあたりに、ゆくりなく……むくひ……無窮花……のさけるにあふ。

松の下道は一たびくだりて又數百尺の高きにのぼり、さらにくだりて小溪の畔に至る。岩に……天壤無窮……の字を刻せるはこの所也。

幽徑はなお谿をわたり峯をわけ、一時間餘の行程に及ぶ。伊藤公もシガー片手にしばし行吟せられ、寺内伯も拍車パチマカチヤ／＼逍遙せられしといふ。

南大門より光化門通り……明治神宮外苑繪畫館に、南大門の油繪を見たる人は、まのあたり本門……崇禮門……を仰ぎみて、思ひしよりも堂々たるに感服すべし。都大路は北上して太平通りとなり、左に德壽宮、右に府廳や京城日報社を仰ぎ、鍾路との十字路に及ぶ。

この邊・人・車の往來ようやく繁く、我等はこゝに・さむち・とす・の穿鑿までには至らずとするも・かむつ・つるまき・の儀容を察すべく、よし又・ちま・の長短に・しろうと・くろうと・を區別しえずとするも・おさげ・